
仮面ライダーW～妖と探偵と鬼斬り役～

鳴神 ソラ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面ライダーW〜妖と探偵と鬼斬り役〜

【Nコード】

N1102W

【作者名】

鳴神 ソラ

【あらすじ】

風都の探偵でもあり仮面ライダーWに変身する左 翔太郎とフリープ。

翔太郎の前に現れたのは…翔太郎の祖父が飼っていた猫の妖の緋鞠であった。

別サイトにて掲載してる本来の流れとは違う仮面ライダーWとおまもりひまりのクロスオーバー小説をちょこつと修正した小説です！

プロローグ：風の都を愛し探偵の過去（前書き）

マリオ「まさかな……」

ルイージ「うん、此処で出すとはね……」

フォックス「どう言う評価が来るのやら……」

それでは始まり！

プロローグ：風の都を愛し探偵の過去

10年前、野井原村のとある家で

????「『翔太郎』、お前は将来何になるんじゃない？」

家の中で老人が前にいる少年、翔太郎に話しかける。

翔太郎「爺ちゃん、俺、“タンテイ”になろうと思うんだ！それで俺の故郷の『風都』で悪い事をして涙を流させる奴等を止めたいんだ」

その言葉に翔太郎の膝にいた猫は耳をピクリとさせた後に翔太郎を見る。

老人「それはきつい道じゃぞ？ それに探偵は人の死を身近で感じる事さえあるのじゃぞ？ それでもやるのか？」

圧力をかけて言う老人に翔太郎は押されながらも答える。

翔太郎「そうかもしれないけど…けれどそれは誰かが泣いてるのを見過ごす理由にはならないよ、俺の前で誰かの悲しい風を感じたくない」

そして決意した目で老人に言う。

翔太郎「だから俺は将来大きくなってタンテイになって戦つ…誰かが流す悲しい涙を止める為にも、それが風都で俺がやる役目だ」

その言葉に老人は目を細め、お茶を運んでいた老婆は翔太郎を見て微笑み、膝にいた猫はにゃくと鳴く。

そして10年後

翔太郎「……………ん？」

目を開けて10年前より成長した翔太郎は目の前を見る。

翔太郎「やばいな、報告書を書いている時に寝ちまつたか…」

目の前の打ち書けの報告書を見て翔太郎は呟いた後に再開する。

翔太郎「（しかし…久々に見たな…俺が大きくなったら探偵をやるって言うのを爺ちゃんに言った日の奴を…）」

あの後、翔太郎は大きくなって3年前に老夫婦が亡くなった事を聞いている。

そして翔太郎の頭に気がかりな事が思い浮かぶ。

翔太郎「（そう言えばあいつ…大丈夫なのかな『緋鞠』の奴…）」

そう考えてる頃、少し離れた場所で風都の名物である風都タワーを見る10代後半の少女がいた。

少女「見えた…若殿…」

そう言って少女は向かう。風都へと…

…これが本来の歴史とは違う仮面ライダーWの物語の始まりであった。

プロローグ：風の都を愛し探偵の過去（後書き）

と言う訳でプロローグ！

ルイージ「ホントに唐突だよね。」

フォックス「まったくだ」

スネーク「どう言う評価が来るのやら……」

第1話：Hとの再会／猫と探偵（前書き）

士「最初の1話だな」

ユウスケ「（そして城戸さんと同じ鈍感ハーレムの始まりだよな…）」

「

シヨウイチ「（ホントあいつ等は…）」

ワタル「（鈍いですよね…）」

第1話：Hとの再会／猫と探偵

ある世界の日本の何処かに有る科学実験都市『風都』、最先端の科学が支配するはずのこの町では様々な怪事件が起こっていた。

翔太郎「だが、それを解決するのが俺達だ」

パソコン！

???「誰に言ってるのよ！翔太郎君」

翔太郎「っゝ…『亜樹子』！いきなり入れるな！！」

???「ふむ、色々興味深いね…」

彼等は翔太郎がいる『鳴海探偵事務所』の所長『鳴海 亜樹子』、そして翔太郎の後に言ったのが彼のパートナー『フィリップ』である。

翔太郎「それで…今度は何を…って何勝手に人の奴取ってるんだよ！」

翔太郎はフィリップの手にある写真を取り上げると今度は亜樹子が翔太郎の手から取り上げて写真を見る。

亜樹子「これって…小さい頃の翔太郎君？ …それにお爺さんとお婆さんに猫ちゃん？」

フィリップ「翔太郎、写真に写っている老夫婦は君の知り合いかい

「教えてくれるかな？」

フィリップの言葉に翔太郎はやれやれと帽子を押さえて顔を振った後にしかたなしに答える。

翔太郎「その写真に写っているのは俺の父さんの父親と母親で小さい頃の俺の膝に乗っているのはその爺ちゃんと婆ちゃんが飼っていた猫『緋鞠』だ」

亜樹子「その人達って今何してるの？」

翔太郎「3年前に亡くなって…」

その言葉に亜樹子はゴメンと謝り、気にしてないと翔太郎は聞く。

亜樹子「気がかりな事はある？」

翔太郎「ないと言ったら嘘になるな…実はというと爺ちゃん達が飼っていた緋鞠はどうしてるかなってな…」

亜樹子「だったら今日仕事がなかったら明日、そのお爺さん達のお参りに行って来たら？」

そうだな…と翔太郎が言い終える前にドアがノックされた。

翔太郎「…どうやら無理そうだな」

翔太郎がそう言った後に亜樹子のはげしい返事してドアを開けると和服を着た少女が立っていた。

少女「此処が鳴海探偵事務所で合つとるだろうか？」

亜樹子「はい、合ってますけど…依頼に来た方ですか？」

古風な子だな」と亜樹子は心の中で思いながら少女の問いに答えた後にそう聞く。

少女「左 翔太郎殿はおるか？」

翔太郎「俺がどうした？」

そう言つて亜樹子の後ろから現れた翔太郎の姿を見て…

翔太郎「へっ？」

亜樹子「はい？」

フィリップ「(ほう…)」

抱き付いたのだそれも愛おしそうにスリスリする。だが、2人はそれよりも驚く事があつた。

少女「お久しぶりです。若殿」

そう言つた少女の頭に猫の耳が、そして腰に尻尾が現れたのだ。

一旦事務所の中に入って2人は前に少女を座らす。フィリップは離れた場所で見ている。

翔太郎「それで…なんで俺を若殿って言つたんだ？ 悪いが俺は君

と会った事がないからな」

少女「そりゃあそうであろうな…私が若殿とこの姿で会うのは初めてだからのう…こう言えば分かるかのう? 『爺ちゃん、俺、タンテイ』になろうと思うんだ! それで俺の故郷の『風都』で悪い事をして涙を流させる奴等を止めたいんだ』…近くで聞いていたから覚えておるぞ」

翔太郎「何で爺ちゃんに言った言葉を!?!…まさか…お前…」

目を開いて猫耳少女を見て翔太郎は言う。

翔太郎「お前… 『緋鞠』…か?」

亜樹子「翔太郎君の知り合いに猫娘…私、聞いてない!?!」

フィリップ「そりゃあ聞いてないからね、それで緋鞠さんで良いかな? 何で今来たんだい?」

亜樹子の言った事にフィリップはそう言った後、少女…緋鞠を見て聞く。

その言葉に緋鞠は一旦立った後に翔太郎の横に行き、膝を付いて言う。

緋鞠「私、緋鞠は先祖から受け継がれた盟約と、若殿の祖父の依頼により、若殿を他の妖の襲撃から守る『護り刀』となるため、参上しました」

いきなりの事に翔太郎と亜樹子は呆然とし、フィリップはそのまま

の体制でいる。

亜樹子「ええ！？翔太郎君って妖に狙われてるの！？私、聞いてない！！」

翔太郎「いや、俺も初めて聞いたぞ！？ってか爺ちゃんの頼みってどう言う事だ？」

いち早く我に返った亜樹子が叫んだ後に翔太郎はそう言った後に緋鞠に聞く。

緋鞠「うむ、先代…若殿の叔父上は『鬼斬り役十二家』の序列6位・『天河家』で有名な方でのう…先代の孫に当たる若殿の事を知りだした妖が出る可能性もあるから来たのじゃ」

翔太郎「爺ちゃん…そんなに有名だったのか？…まあそれはともかく…」

そう言っつて翔太郎はフィリップの方を見る。それにつられて緋鞠も見ると…

フィリップ「ふむ、『鬼斬り役十二家』…興味深い、ゾクゾクするね」

ブツブツ言いながらフィリップは新たな検索対象にゾクゾクしていた。

緋鞠「若殿、あやつは何でああなっとなるんじゃ？」

亜樹子「気にしなくて良いよ、フィリップ君の何時ものだから…そ

う言えば自己紹介し忘れてたね。私は鳴海 亜樹子、んでさっきからブツブツ言ってるのが翔太郎君の相棒のフィリップ君だよ…それで翔太郎君どうする？『ドーパント』でも厄介なのに翔太郎君を狙おうとする奴が出る可能性があるなんて…」

翔太郎「ホントだよな…」

亜樹子の言った事に翔太郎は帽子を脱いで頭をかきながらそうぼやく。

緋鞠「『どーぱんと』？一体なんじゃそいつは？」

ただ1人、緋鞠は亜樹子の言葉に首を傾げていた。

翔太郎「今、風都にガイアメモリと呼ばれる物がバラ撒かれている。ガイアメモリは人間を超人に変える…その超人がドーパントって訳だ……」

緋鞠にそう説明した後にはパソコンにガイアメモリのサンプルを写す。

緋鞠「これがガイアメモリ…」

亜樹子「それで翔太郎君とフィリップ君はドーパントが現れた時に戦っているの」

緋鞠「若殿とフィリップが？」

ああと緋鞠の問いに答えた後にドアがノックされる。それに翔太郎は猫耳と尻尾を隠す様に緋鞠に言った後に扉を開ける。

数分後

翔太郎「しっかしこんな場所に来るとはな」

とある施設の中に入り、周りを見て翔太郎は呟く。

フィリップ「しかし…依頼の場所が“お化け屋敷”とは…『龍の牙の次元』の僕達と同じ…“はいそこでストップ！”ってか何で来るのかなお前！！”のと似た感じになるね」

緋鞠「亜樹子殿、若殿は一体何で慌てとるんじゃ？」

亜樹子「そこはスルーして…それで依頼の確認だけど…此処でドーパントらしき怪物を目撃して襲われてるそうだよ」

付いて来たフィリップが言おうとした部分を遮る翔太郎を見て首を傾げて言う緋鞠の質問に亜樹子はそう答えた後にそう言う。

翔太郎「幸い、死者が出てないのが救いだな…」

そう言っつて翔太郎は周りを見る。

緋鞠「それにしても…警察は何しておるのじゃ？普通来る筈じゃろ？」

翔太郎「どうも捜査はしたがその時には現れなかったそうだ…けど、“あいつ”がないのが疑問だな…」

緋鞠「“あいつ”？誰の事を言っつておるのだ？」

亜樹子「翔太郎君達と同じドーパントと戦う人がいるの…確かにあの人なら着そうな感じがするのにな…」

フィリップ「それはともかく、探さない…と思ったけど…どうやらその必要はなくなったようだね…」

はあ？と3人が疑問に思案中、上上と上を指したフィリップにならつて上を見ると…

亜樹子「ドーパント!？」

翔太郎「しかも蜘蛛かよ…」

緋鞠「あれがドーパント…妖同様奇怪な奴じゃな」

4人に気付かれた事に気付いた蜘蛛のドーパント『スパイダードーパント』は手から蜘蛛の糸を4人にめがけて放つ。

翔太郎「此処で戦うのはNGだから出口に向かうぞ」

亜樹子を抱えて避けると共に放たれた翔太郎の言葉と共に4人は走り、スパイダードーパントは追いかける。

緋鞠「それにしても…どうやって戦うつもりなのじゃ若殿？」

翔太郎「此処を抜けてから見せてやる!」

フィリップ「丁度出口だよ」

後ろのスパイダードーパントを振り返って見る緋鞠に翔太郎がそう

言った後にフィリップが前を見て言う。

そしてお化け屋敷から出ると翔太郎は腰に懐から出したベルト『ダブルドライバー』を着着するとフィリップの腰にもう1つのダブルドライバーが出現する。

それを確認した後、フィリップ『サイクロンメモリ』を取り出し、スイッチを押す。

サイクロンメモリ「サイクロン！」

フィリップ「何時でも良いよ翔太郎」

緋鞠「あれはガイアメモリではないか！？ 何でもつとるんじゃない？」

亜樹子「おっ、落ち着いて」

フィリップの手にあるのを見て驚く緋鞠を亜樹子が宥めてる間、翔太郎も上着の内ポケットに入れてる『ジョーカーメモリ』を取り出しスイッチを押す。

ジョーカーメモリ「ジョーカー！」

翔太郎「それじゃあやるか、緋鞠、目を開いてよく見とけよ」

緋鞠にそう言った後、2人は左右対称で申し合わせたかのように動く。

翔太郎&フィリップ「変身！」

まずフィリップがサイクロンメモリを右のスロットに挿すと翔太郎のダブルドライバーに転送される。

亜樹子「よっと！」

亜紀子がフィリップは目を閉じて地面に倒れる前に抱えてる間、翔太郎の所にサイクロンメモリが転送され、それを挿した後にジョーカーメモリを左のスロットに挿して、ダブルドライバーを開いた。

ダブルドライバー「サイクロン！ジョーカー！」

その音声と共に翔太郎は両手を広げると紫色と緑色で構築された球体に包まれ、下から上へと姿が変わっていく。右が緑色で、左が黒色の姿に赤く輝く瞳に額からWを描く銀色の二本の角、首に角と同じ色のマフラー…

緋鞠「なんじゃあそれは？」

亜樹子「あれこそ、翔太郎君とフィリップ君が変身したこの街の守るヒーロー『仮面ライダーW』！」

呆然とする緋鞠に亜樹子が笑って言った後に…

W「……さあ」

Wは右手でスパイダードーパントを指差し、すぐに右手を引きながら、左手を動かす。

動かしながら、左手でスパイダードーパントをまた指差し、師から受け継いだ決め台詞である言葉を言う。

W「お前の罪を数えろ」

緋鞠「あれが…若殿の力…」

亜樹子「違うよ緋鞠ちゃん、2人の力だよ」

Wを見て緋鞠は呟いた後に亜樹子はその言葉を訂正する。

W（翔太郎）「させ、早速…」

W^{フィリップ}「待ちたまえ翔太郎」

スパイダードーパントに向かおうとした翔太郎にフィリップが止める。

W（翔太郎）「なんだよフィリップ、いきなり止めて…」

W^{フィリップ}「様子がおかしい…どうもあのドーパント、自分の意思で動いてないようだ、しかも、暴走ではない」

W（翔太郎）「どう言う事だ？」

出鼻を挫かれた翔太郎にフィリップがスパイダードーパントを見てそう言い、翔太郎が呟いた時、今まで無言だったスパイダードーパントは肩を震わせた後に…

スパイダードーパント「ぐおおおおおおお！…！！！」

W（翔太郎）「なんだ!？」

咆哮を上げたスパイダードーパントにWが驚く中、緋鞠はスパイダードーパントを見てはっとなる。

緋鞠「若殿！ そ奴は妖に取り付かれておる！」

W（翔太郎）「何！？」

W^{フィリップ}「それなら合点が行くね」

Wが驚いている間にスパイダードーパントは腕を振りかぶってWを攻撃する。

W（翔太郎）「うおっ！？」

慌ててWはその攻撃を避ける。

緋鞠「若殿！ フィリップ、私も手伝うぞ！ 妖が付いてるなら私もやるぞ」

そう言っつて緋鞠はどこからか刀を出して構える。

亜樹子「ちよっ！？ 大丈夫なの！？」

緋鞠「安心するのじゃ 亜樹子殿、あ奴に取り付いているのは低級、私にとって雑魚じゃ」

W（翔太郎）「だったら妖は任せた」

W^{フィリップ}「此処は一気に決めよう翔太郎！ ルナトリガーだ！」

ああ！と答えた後にWは装填されていたサイクロンメモリとジョーカーメモリを抜いて新たに『ルナメモリ』と『トリガーメモリ』をスイッチを押した後に装填する。

ルナメモリ「ルナ！」

トリガーメモリ「トリガー！」

ダブルドライバー「ルナ！トリガー！」

その音声と共に右側が黄色、左側が青の『仮面ライダーWルナトリガー』へとなる。

そして右手にトリガー専用武器『トリガーマグナム』が握られる。

WLT「これで決まりだ！！」

トリガーメモリ「トリガー！」

そう言ってトリガーメモリを抜いてトリガーマグナムに装填する。

トリガーマグナム「トリガー！マキシマムドライブ！！」

静かにトリガーマグナムをスパイダードーパントに向ける。

スパイダードーパント「ぐおおおおお！！！！！！」

WLT「トリガー！フルバースト！！」

トリガーマグナムより放たれた黄色と青の複数の弾丸はスパイダー
ドーナツの放った蜘蛛の糸を破壊し、スパイダードーナツに命
中する。

ドカーーン!!!

爆発の後に爆風から何かが現れ、それに緋鞠は刀を持ってジャンプ
し…

緋鞠「はっ!!」

それを切り裂いた…

着地すると同時に緋鞠は刀を鞘に納めた後に煙が収まり、そこには
壊れたガイアメモリと1人の男が倒れていた。

WLTは緋鞠に向き直り、サムズアップする。

翔太郎「（お化け屋敷での奇怪な事件は終わった。後から聞くとガイ
アメモリを使っていた男はお化け屋敷に入ってガイアメモリを使
った後の記憶がなく、どうやらドーナツになった瞬間に妖に取り
付かれたそうだ…今だに自分が妖に襲われる可能性があると言っ
た感じが沸かない。だが、それでも俺は戦う。それが爺ちゃんに言っ
た事でもあり、俺の…俺達仮面ライダーの役目だからだ）」

事件のレポートを書きながら心の中で呟いた後に打ち終えて翔太郎
は前を見る。

フィリップ「安綱…興味深い刀だね…ゾクゾクが止まらないね」

緋鞠「そろそろ返してくれぬか？」

亜樹子「まあ、しばらくこのままだと思っからまだまだになるかもね……」

そのやり取りに翔太郎は賑やかになるなど言っって苦笑して外を見る。

第1話 Q.E.D

第1話：Hとの再会／猫と探偵（後書き）

次回予告

次回の仮面ライダーWは！！

「いきなりあれは止める！！」

「緋鞠ちゃんって翔太郎君にゾッコンだね」

「野井原？…ああ、あそこか？そう言えば源爺さんの住んでた所だったな」

「妖？オニギリ？」

「鬼斬りよ！！」

第2話：Bの斬撃／新たなメモリ

これで決まりだ！

第2話：Bの斬撃／新たなメモリ（前書き）

マリオ「オリジナルメモリの登場だ」

ルイーザ「だね」

フォックス「それではGO！」

第2話：Bの斬撃／新たなメモリ

7年前の風都にて…

誰もいない路地裏で1つの影が異形と戦っていた。

有利なのは1つの影、白のソフト帽を被り、髑髏を模した仮面の戦士である。

仮面の戦士はふらつく異形を見て自分の腰にあるWのダブルドライバーを半分にしたベルト『ロストドライバー』からガイアメモリを抜くとそれを持っていた銃『スカルマグナム』に装填する。

スカルマグナム「スカル！マキシマムドライブ！！」

その音声の後に仮面の戦士『仮面ライダースカル』は異形に銃口を向ける。

異形「があああああ！！！！」

スカル「ふっ！」

飛びかかろうとした異形の胸にスカルマグナムから放たれた銃弾は命中し、異形は爆発四散した。

それを見届けた後にスカルは考えていた。

スカル「あれが翔太郎を狙ってる物の怪か…それ程、源爺の孫である翔太郎を狙ってるのか…確か“光渡し”…対象の能力を増幅さ

せたり、魔力を付与するだったか…あつち側からしたら厄介って事だな…特に弱点である物を増幅でもされたら嫌なもんだしな…」
「やれやれと弟子入りして来た少年を思い出してスカル…『鳴海 莊吉』は変身を解いて弟子が待つ事務所に帰る。」

現代にて…

翔太郎「（此処は…どこだ？）」

翔太郎は何時もの服装で何も無い森の広場の様な場所に立っていた。

そして翔太郎は目の前に顔を隠した女性がいる事に気付く。

翔太郎「誰だお前？」

女性は翔太郎の問いに答えず、ある方向を指す。

その方向に翔太郎もつられて見ると、そこには炎が円を描いて何かを包んでいた。

そして女性が何かしたのか炎の円は消え、そこには1つのガイアメモリがあった。

翔太郎「…拾えって言うのか？」

翔太郎の問いに女性は頷くと翔太郎はそれを拾う。

そのガイアメモリは色は灰色でガイアディスプレイには剣のイニシヤルが描かれていた。

翔太郎「…あんた、何者だ？…何でガイアメモリを持つてる？」

問いを投げた翔太郎だったがその途端、目を覚ます。

翔太郎「…夢…だったのか…？凄くリアルな夢だな…」

そう言っただけで起き上がった時、体の上に何か乗ってる事に気づき、見ると…

緋鞠「うっ、うっうん」

そこには緋鞠がいて…なぜか上半身にワイシャツだけを着ただけと言う服装であった。

その瞬間、風都に翔太郎の叫び声が響いたのかはさだかではない…

翔太郎「…でだ、緋鞠…」

数分後、着替えた翔太郎に同じく着替え、正座させられた緋鞠がいた。

その後ろでフィリップと亜樹子が見ている。

翔太郎「なんで俺の寝床にいたんだ？」

緋鞠「若殿を護るためじゃ…いけなかったかの？」

翔太郎「護つてくれるのは嬉しいが…」

一旦言葉を切った後に翔太郎は言う。

翔太郎「いきなりあれは止める!！」

緋鞠「そんな!? じゃあどうやって若殿を護れば良いのじゃ!?!」

翔太郎「普通にあんなカツコするな!！」

亜樹子「緋鞠ちゃんって翔太郎君にゾッコンだね」

2人の掛け合いを見て亜樹子は緋鞠を見て呟く。

そこに…

???「おゝい翔太郎、ちょっと頼みが…ってなんだこの状況?」

扉が開いて少しふけ顔の男性『刃野 幹夫』が相棒の『真倉 俊』を後ろに連れて今の状況に呆然とする。

刃野「はあゝつまりお前のお爺さんの所から来たのか」

落ち着いた後に刃野は翔太郎から説明された事に納得してしきりに頷いている。

刃野「それでお嬢ちゃん、名前は?」

緋鞠「私は野井原 緋鞠じゃ」

翔太郎「おい、野井原って地名だろ？（小声）」

緋鞠「私や先代は他の妖から“野井原の緋剣”と呼ばれてるのでどうせなら使ってみたのじゃ（小声）」

刃野に名乗った苗字に翔太郎が小声で聞き、緋鞠はそう答える。

刃野「野井原？…ああ、あそこか？そう言えば源爺さんの住んだ所だったな」

翔太郎「なっ、爺ちゃんの事知ってるのか!？」

顎を撫でて懐かしそうに言った刃野のその言葉に翔太郎は驚いて聞く。

刃野「あっ、ああ、まだ俺が新米の頃に少し世話になって意気投合して話したもんだ。…そうか、もしかして緋鞠のお嬢ちゃんは源爺さんが言っていた“野井原の緋剣”だな。…成る程な。…」

そう納得した後に刃野は翔太郎を見る。

刃野「んでもしかして翔太郎…お前、人を妖から護る鬼斬り役になったのか？」

真倉「妖？オニギリ？」

亜樹子「鬼斬りよ!」

刃野の言葉に真倉は？マークを浮かべて亜樹子に突っ込まれる。

翔太郎「…俺は探偵の左 翔太郎です。鬼斬り役の爺ちゃんの孫だ
けど鬼斬り役じゃないですよ…」

刃野「…悪いな…」

帽子を押さえて言った翔太郎に刃野は謝罪する。

翔太郎「分かってくれりゃあ良いですよ…それでどうしたんですか
？」

刃野「ちよつとな…警察じゃあやり難いやマが出来てな…」

頭をかいて刃野はそう言う。

翔太郎「またドーパントですか？…そう言えば…ドーパントならあ
いつ…『照井』はどうしたんですかジンさん？」

察知して前回のので疑問に思っていた事を質問した翔太郎の言う照井
とは『照井 竜』である。

ドーパント関連事件の捜査を担当する『超常犯罪捜査課』を設立し、
課長になった刑事でまた、翔太郎達と同じ仮面ライダーになる男で
ある。

真倉「その照井課長は出張だよ！ 出張！…」

翔太郎「出張？ なんでだマッキー？」

翔太郎の問いにマッキー言うな！と答えた後に言う。

真倉「どうもさ…確か…『希望ヶ花市』って言う所でドーパントらしき怪物が出たって事で上からの命令で希望ヶ花市に出張中…まあもうちょいしたら戻るそうだけどさ…」

刃野「まったく…前さえいきなり変な事が起こってたのにそれが収まって数日後にこれなんだよな…」

真倉の説明の後に愚痴を言う刃野に翔太郎は苦笑した後聞く。

翔太郎「それで…今回のドーパント事件はなんですか？」

刃野「…言つとくが翔太郎、これを聞くとやる気抜けると思うからな…」

そう前置きした後に刃野が言った事に翔太郎達（フィリップを除く）は脱力した。

亜樹子「んで…何で私たち外で待機なのかな？」

翔太郎「しょうがないだろ？ 丁度気配読むのは緋鞠が上手いな…」

とある建物の近くでばやく亜樹子に翔太郎がそう言う。

翔太郎達がいるのは銭湯にいた。

刃野が話した事はどうやら銭湯を利用していたある女性客が視線を感じてある方向に物を投げると異形が姿を現したらしく、それにより警察の、しかも刃野たちの所に来たそうだ。

ピピピ！ピピピ！ピッ！

翔太郎「俺だフィリップ」

フィリップ『翔太郎、検索の結果が出たよ、まあ、話を聞いて薄々能力は分かっているかもしれないがメモリは“カメレオン”だ』

翔太郎「そうか…やっぱり緋鞠を選んで正解だな…出たらあれをやるから待機しといてくれ」

了解とフィリップが答えた後に翔太郎はスタックフォンを仕舞うとふう〜と頭をかく。

亜樹子「それにしても…まさか覗きをするドーパントがいるなんてさ…」

翔太郎「まあ…これで死亡者が出てないからまだマシなものだな…」

呆れた顔で言う亜樹子に翔太郎は脱力気味に答える。

翔太郎「ん？」

ふと、翔太郎は視線を感じて回りを見るが気のせいか…とまた元の

位置に戻る。

すると…

ピピピ！ピピピ！ピッ！

翔太郎「俺だ！…そうか、出やがったな…お前は亜樹子と合流してくれ…そう言う事で緋鞠と合流してくれ」

亜樹子「了解だよ」

そう指示した後に翔太郎はダブルドライバーを装着してジョーカーメモリを取り出す。

ジョーカーメモリ「ジョーカー！」

そして待機していたフィリップはサイクロンメモリを出す。

サイクロンメモリ「サイクロン！」

翔太郎&フィリップ「変身！！」

ダブルドライバー「サイクロン！ジョーカー！！」

そしてサイクロンメモリとジョーカーメモリを装填してダブルドライバーを開き、仮面ライダーWに変身する。

W「させ、行くか！！」

ハードボイルダーに乗ると同時に走る。

だが、翔太郎とそれを見送っていた亜樹子は知らなかった。

まさか、屋根の上で自分達を見ていた者がいる事に…翔太郎が感じた視線の人物は呟く。

???「…感じるの、あの鬼斬り役とは違うけど、同じ奴なの…」

そう呟いた後、姿が消えた。

変わって別の場所で…

???「ちっ、まさか早く見つかるなんて…」

そう言つて舌打ちするは体全体が緑色でカメレオンを奮闘させる『カメレオンドーパント』であった。

ドルドルドル!!

カメレオンドーパント「ん?…げっ!!?」

W「見つけたぜ、覗き魔」

バイクの音がして後ろを見るとWがいて、そうカメレオンドーパントにそう言つ。

カメレオンドーパント「馬鹿な!!!? どうやって此処まで!?!」

W「なあに…発信機を付けさせて貰った」

そう、囮として銭湯の中にいた緋鞠に気配を見つけたらさかさず発信機を付けると指示されていたのだ。

カメレオンドーパント「くそっ！だったらやってやる！！」

そう言っ舌を伸ばしてWを吹き飛ばす。

W「くそ！別世界の城戸の奴を受け継いだスーパードラゴンみたいに伸ばしてんじゃねえよ…ん？」

吹き飛ばされてそう愚痴ったWはある物に気付く。

W（翔太郎）「これって…あの夢の…」

W「^{フィリップ}新しいガイアメモリ…翔太郎、何時の間に？」

あの女性が自分に拾わせたガイアメモリがある事に翔太郎は驚き、フィリップの問いに翔太郎は答えようとしたが来た攻撃に避ける。

W（翔太郎）「こうなったら試して見るか！」

ガイアメモリ「ブレード！」

そう言っWはジョーカーメモリを抜いた後に新たなメモリ「ブレードメモリ」を装填して開く。

ダブルドライバー「サイクロン！ブレード！！」

その音声と共にWの左側の黒が灰色と代わり、『仮面ライダーWサイクロンブレード』にハーフチェンジした。

カメレオンドーパント「何に変わろうがやられるか!!」

そう言うと同時にカメレオンドーパントは舌を伸ばして攻撃するが、WCBは右手に持ったブレード専用武器『ブレードセイバー』でその舌を切断する。

カメレオンドーパント「ぎゃああ!!舌が舌が!!」

口を押さえてカメレオンドーパントは姿を消す。

WCB「逃がすかよ!」

そう言うってメモリガジェットの一つ『バットショット』を取り出すとそれにルナメモリを装填する。

バットショット「ルナ!マキシマムドライブ!!」

その音声の後にライブモードになったバットショットが周囲に特殊発光をする。

すると…逃げようとしていたカメレオンドーパントの姿が現れる。

WCB「さあ、お前の罪を数える」

ブレードメモリ「ブレード!!」

そうやってブレードメモリを抜いてブレードセイバーの柄の右側に付いてるマキシマムスロットに装填する。

ブレードセイバー「ブレード！マキシマムドライブ！！」

その音声の後にブレードセイバーは風を纏った後にWCBは超高速でカメレオンドーパントに近づく。

W「ブレード！カリバーストーム！！」

WCBの必殺技『ブレードカリバーストーム』がカメレオンドーパントを斬り裂き、カメレオンドーパントは爆発すると壊れたガイアメモリと倒れた男だけがいた。

亜樹子「やった！！」

緋鞠「今回も決まったのじゃな」

喜ぶ亜樹子と緋鞠を尻目にWCBはブレードセイバーを見て新たな力に感嘆する。

翔太郎「（今回も事件は無事に終わった…なんとも言えない事件だったが被害が最小限に済んで良かったのが前回同様に良いだろう…）」

そう打ち終えた後、翔太郎は上着の内ポケットからブレードメモリ

を取り出して見る。

翔太郎「（あれは夢だった筈だ…それなのに何であったんだ？）」

首を傾げて考えていた翔太郎だったがにぎやかな声にそれを止める。

亜樹子「ほら翔太郎君！　こっちにきなよ！」

???「そっだよ翔ちゃん！　緋鞠ちゃんの歓迎会なんだしさ」

亜樹子の後に言ったのは『ウオッチャマン』、『風都イレギュラーズ』の1人で彼の言う通り、他の『サンタ』、『クイーン』、『エリザベス』も集まって緋鞠の歓迎会をやっているのだ。

クイーン「ほら翔ちゃん」

エリザベス「早くやろうよ！」

クイーンとエリザベスの催促にああと翔太郎は答えた後にジュースを持って緋鞠に近づく。

翔太郎「遅れたが改めて風都にようこそ緋鞠、よろしくな」

緋鞠「うむ、よろしくな若殿」

第2話：Bの斬撃／新たなメモリ（後書き）

次回予告

次回の仮面ライダーWは！！

「風都よ！ 私は帰って来た！！」

「三雁 蘭華と言います」

「…見つけたなの」

「復讐なんて止める！ お前の仲間はそんな事を望んでねえ！！」

「…邪魔するなの…それに…私の気持ちがあった様な言い方するなの…」

「ナス力！」

「変身！！」

第3話：復讐のS／帰って来たN

これで決まりだ！

NEWメモリ

ブレードメモリ

『剣士の記憶』が入ったWのボディメモリ、使う事でブレードセイバーを主体とするスタイルになる。サイクロンメモリと組み合わせる事でカマイタチや素早い速さで攻撃するスタイル、ヒートメモリと組み合わせる事で力強さを兼ね備えたスタイルに、ルナメモリと組み合わせる事でブレードセイバーが蛇腹剣となる。

EX第1話：出張のA／花の市のP（前書き）

マリオ「今回は特別編」

ルイージ「出張した照井さんのお話だよ」

ウヴァ「見て見ろよ！」

EX第1話：出張のA／花の市のP

緋鞠が翔太郎達の前に来る4日前、希望ヶ花市が一望出来る場所に
て…

???「此処が希望ヶ花：ドーパントと思われる怪物が現れる市…
あの街より良い風が吹いてるな…」

赤い革ジャンを着た男性は市を見てそう呟く。

彼は『照井 竜』、此処より離れた風都にある風都署の超常犯罪捜
査課の課長で、翔太郎達と同じ仮面ライダーになる男である。

バイクに座り、懐から一枚の写真を取り出す。

幼い自分とある女性が一緒に写っていた。

照井「……………」

それを仕舞った後、照井は周りを見て2人の少女を見つける。

照井「少しすまないが聞きたい事がある」

バイクを押しながら照井は2人の少女に近づいてそう聞く。

少女「えっ、私ですか？」

2人の内、赤髪の少女が自分を指して聞いたのに照井は頷く。

照井「…此処の植物園への行き方を教えて欲しい」

少女「植物園にですか？そこへは…」

少女から行き先を聞いた後に礼を言つと言つた後にバイクを押して照井は歩く。

少女2「ねえ『つぼみ』…」

照井の姿が見えなくなると青髪の少女がつぼみと呼んださつき照井に質問された赤髪の少女に話しかける。

つぼみ「何ですか『えりか』？」

そう言つて照井を見送つていたつぼみは青髪の少女…えりかに聞く。

えりか「変わった人だったねあの人…見かけた事ないし…それに、植物に興味を持っていなさそうな人っぽい」

つぼみ「あんまり外見で人を判断してしまつたら駄目ですよえりか」

つぼみの言葉にえりかははいはいと言つて歩き出す。

つぼみ「（けどホント…植物園に何の用でしょうか？）」

数分後

照井「此処か…」

目の前の建物を見た後に照井は駐車場にバイクを置いた後に中に入る。

案内図を見て目的の場所に行く。

そして…目の前で植物に水をあげている妙齢の女性へ近づく。

照井「お久しぶりです…『薰子』さん」

その言葉に女性：『花咲 薰子』は照井の方を見る。

薰子「もしかして竜君かい？…久しぶりだね…会うのは10年以上前かしら？」

照井「それ位ですね」

薰子の問いに照井は頷いて肯定する。

薰子「あなたの両親や妹さんの事は話に聞いているわ…お参りに行けなくてごめんなさいね」

申し訳ない顔をする薰子に照井はいえ…と首を横に振る。

薰子「それで…ただ会いに来たんじゃないでしょうか？」

照井「…かないませんね…」

薫子の言葉にそう呟いた後に照井は薫子を見て言う。

照井「薫子さん…あの時俺だけに“プリキュア”について話してくれましたよね？」

照井の言葉に薫子は頷く。

照井「実はと言うと…俺はある時にプリキュアに会いました」

その言葉に薫子は驚く表情をした後にホントかい？と聞くと照井は頷く。

薫子「まさか此処以外にもプリキュアがいたとはね…」

照井「まあ…会った期間は短かったですけどね…」

感嘆する薫子に照井はそう呟いた後に照井はそう言う。

照井「それで…俺はこの町でドーパント…俺の故郷に出る怪物らしき怪物が出たと言う事で来たんですが…もしかやプリキュアが関わっているのではないかと思ひまして…」

薫子「…そうね、今この町で起きてる事で解決してるのには関係してるわ」

そう言った後に薫子は照井に今、この町で起きてる事を話した。

薫子「…とまあ…大体分かったかしら？」

照井「はい、この町で起こっている事は“砂漠の使徒”と言う奴等

の仕業で怪物はそいつ等が人々から奪ったところの花を物体に埋め込んで生命を与え、誕生させた“デザトリアン”でそしてそいつ等が現れた時に倒れているのがプリキュア…で良いんですね？」

薫子の言った事を自分で考えて言った照井の言葉に薫子は頷く。

照井「教えてくださりありがとうございます」

薫子「いえいえ…あなたもドーパントの事を教えてくれたからね」

頭を下げる照井に薫子がそう言って手を振る。

照井「では…俺はこれで…」

薫子「ああと竜君…1つ言って置くわ」

立ち去ろうとする照井の背中に薫子は呼び止めて言う。

薫子「あんまり忙し過ぎずにゆっくり行くのも悪くないわよ」

照井「…胆に免じて置きます」

そう言って照井は立ち去った。

その後、照井は情報収集した。

様々な人に聞き込みをしてこれまでの希望ヶ花市でのプリキュアの情報を知っていたり、怪しい人物についても聞き込んだ。

そして6日後

照井「（…砂漠の使徒と言う奴等は最近になって此処に出没したよ
うだな…）」

色々トラブルもあったが集めた情報をバイクに乗って整理して走
って見回りをしていた時に照井はそう心の中で呟く。

照井「むっ!」

とある建物の前を通った時にある気配を感じ、バイクを止めると建
物の名前を見る。

照井「（私立明堂学園…）」

そして中に入り、気配の感じる場所に向かうと…

照井「（あれは…）」

物陰に隠れて伺った先には何かの怪物と対峙している。ピンク髪の
少女と水色髪の少女を見つける。

照井「（…あのデカイのがデザトリアンで…あの少女達がプリキユ
アか…俺の出る幕はないな…）」むっ!？」

観察して心中でそう呟いた後に立ち去ろうとした時にある気配を感
じてまた見ると…銀色のカーテンがそれぞれの間に見え、そこか

ら…

照井「ドーパント…なぜ奴等が…」

そう呟いた後に照井は飛び出す。

プリキュア「なっ、何よこいつ等!?!」

今日の前のデザトリアンを浄化しようとした時に現れたドーパント…マスカレイド・ドーパントに青髪のプリキュア…『キュアマリン』は驚く。隣にいるピンク髪のプリキュア…『キュアブロッサム』も同じである。

そんな驚いている2人の前に…

照井「お前達はデカ物を早くしろ!こいつ等は俺がやる!」

そう言つて照井が来てプリキュアとマスカレイドの間に立つ。

キュアマリン「ああ~~~~あの時のお兄さん!?!」

キュアブロッサム「ちょっとマリッ!?!」

照井を指で指して驚くキュアマリンにキュアブロッサムが慌てる。

照井「早くしろ!?!」

キュアマリン&キュアブロッサム「あっ、はい!?!」

叫んだ照井に2人は返事をしたのを確認した後照井は懐から自分

の変身ツール『アクセルドライバー』を出して腰に装着する。

そしてもう一つ、変身する為に必要な『アクセルメモリ』を取り出すと構える。

アクセルメモリ「アクセル！」

照井「変…身…！」

アクセルドライバーにアクセルメモリを装填して右グリップ部・パワースロットルを捻る。

アクセルドライバー「アクセル…！」

その音声の後にバイクのエンジン音と共に照井の前に太陽の紋章が出た後にその姿を変える。

その姿は赤を基調とし、鋭利な形状となった“A”の文字が頭部に見られるフルフェイス・ヘルメットのようなマスクが特徴で、シルドの奥に隠された青い円状の複眼が変身完了と共に光る。

照井「さあ！ 振り切るぜ！」

その声と共に照井が変身した仮面ライダー『仮面ライダーアクセル』はマスカレイド・ドーパント達に向かって行く。

キュアマリン「こっ、今度はお兄さんが変わった！？」

照井がアクセルに変身した事に驚くキュアマリンに眼を開いて同じ様にキュアブロッサムも驚いている。

????。「驚いてる場合じゃないです!!」

????2「そうだよ、早く浄化しないと!」

そんな彼女達の周りにいたファンシーな姿をした彼女達のパートナー『シプレ』と『コフレ』の言葉に我に返り、デザトリアンを見る。

アクセル「はっ!」

一方のアクセルはマスカレイド・ドーパントを数を諸共せずに押して行く。

そして途中から自分の武器『エンジンブレード』を取り出し、エンジンブレード戦用のギジメモリ『エンジンメモリ』をメモリスロットに装填する。

エンジンメモリ「エンジン!」

エンジンブレードを構えるアクセルにマスカレイド・ドーパント達は突撃するが…

エンジンブレード「エレクトリック!」

アクセル「はっ!!」

エンジンブレードの音声の後にアクセルがエンジンブレードを振るうと刀身から電気が放たれ、マスカレイド・ドーパント達を倒して行く。

照井「…照井 竜…」

そう言った後、懐から警察手帳を取り出す。

照井「風都署から出張で来た男だ」

それを最後に照井は背を向けて歩く。

翌日

照井「これでこの町とはお別れだな…」

希望ヶ花を一望出来る場所で照井は呟いた。

???「あつ、いた！」

いきなりの声に照井は振り返ると、照井が最初に此処に着て会った
2人の少女であった。

照井「…お前達はあの時の…」

えりか「お前達って…まあ、それは置いて…ほらつぼみ」

そう言ってえりかはつぼみの背中を押すとつぼみは手に持っていた
袋を渡す。

照井「これは…花か？」

つぼみ「ツゲです。花言葉は冷静であなたにはこれが合つとお祖母
ちゃんが言っていたので持って来ました」

照井「お祖母ちゃん？」

つぼみの言った事に照井は疑問を感じる。

つぼみ「そう言えば名前を言っていないませんでしたね…私は花咲つぼみと言います。お祖母ちゃんから話を聞きました」

えりか「私は来海 えりか！つぼみの友達だよ！」

照井「そうか…君は薰子さんの孫娘か…納得した」

そう言うとバイクのハンドルに花の入った袋を通してバイクにまたがる。

えりか「もう行くの？」

照井「俺の此処での役目はない…それに、この町にはお前達がいる…この町を護れプリキュア」

そう言うと驚いている2人を尻目に照井はバイクを動かして風都へと向かう。

加速の戦士、仮面ライダーアクセル、彼女達とまた会う事になるのはしばらくしてからである。

EX第1話：出張のA／花の市のP（後書き）

と言う訳でエキストラの話で出張していたアクセルこそ照井さんのお話でした！！

ルイージ「どう言う反応が来るのやら…」

フォックス「だな；」

アーク「次回を待っている！」

第3話：復讐のSノ帰って来たN（前書き）

マリオ「第3話だ！」

ルイージ「今回はあの人と新ライダーが登場！」

フォックス「まあ、予想してた人はいたと思うけどな……」

ガメル「始まり始まり〜」

第3話：復讐のS / 帰って来たN

夜、風都タワー頂上にて…

??? 「ふむ… 久々に帰って来たのだが… 出る所を間違えたか…」

スーツを着た男性が顎を抑えて言う。

男性「だが… まあ… これはいつとかなければならないとな…」

そう言った後、男性は腕をぱつと広げ叫んだ。

男性「風都よ！ 私は帰って来た！！」

叫び終えた後、翔太郎達が使うドライバーとは違うドライバーを取り出し装着した後… 懐からガイアメモリを取り出し、そのスイッチを押す。

ガイアメモリ「
」

風でその音声が聞こえなかったがそこには男性の姿はなく… 仮面ライダーが立っていた。

そしてそのライダーは背中から光る翼を出現させると風都の空へと飛び出す。

翌日

翔太郎「ふわ〜」

上半身起こし腕を上へ伸ばし背伸びして…目の前の奴に固まる。

緋鞠「うっむっ…若殿おはようじゃ」

また緋鞠がいたが前日とは違い今度は白い着物であり、しかも寝起きなのか猫耳と尻尾も出していた。

翔太郎「お前、人の話聞いてたか!!!」

フィリップ「ハーブボイルド…だね」

翔太郎の怒声を聞きながらフィリップはそう呟き、本を見る。

フィリップ「土御門家”、上櫻家”、各務森家”、弧月境家”、“宝条家”、翔太郎のお爺さんの“天河家”、“空須家”、“地走家”、“火群家”、“柊家”、“夜光院家”、“神宮寺家”…翔太郎は鬼斬り役ではないけど天河家を含めて現在では5家しか存在していないのか…だが、色々と能力があるから…ホント、興味深いね…ん？」

どうやら様々な記録が置かれている『地球の本棚』で鬼斬り役十二家を検索していた様だ。

そして読んでいて地走家の所である記録に目が止まる。

フィリップ「これは……」

そこに書かれていた地走家の歴史にフィリップは目を開ける。

フィリップ「鬼斬り役でも…差がありすぎだね…それで…今は滅亡
していて未裔しかない…その未裔の名は…」

そんなフィリップは窓際で誰かに聞かれてる事に気づいていなかった。

「…そう言う事なの…見張つといて正解なの…」

そう言うとその人物は去った。

その頃…

男性「やはりこの街の風は良い…色々と落ち着くな…」

歩きながら懐かしそうに男性は吹く風を感じていた。

そこに…

刃野「あつ！？あんだ、新聞で出てた園咲家の人じゃないか！？」

男性「ん？」

いきなりの声に男性はした方を見ると刃野が驚いた顔で見っていた。

男性「人違いではないですか？」

刃野「いや、これ程までに別人とは思えないな…おっと、こうして
る場合じゃないな、相方の奴や照井課長も行ってるし」

そう言つて歩き出そうとする刃野に男性は聞く。

男性「もしやガイアメモリが関わっているんですか？」

刃野「…どうやらあんたが行方不明になっていたのはそれ絡みつて
事だな？」

振り返つて聞く刃野にええと男性は頷く。

男性「私も行きましょう。これでも武術は習っているので」

刃野「ドーパントにそれが効くか分かんないけど…ま、その様子だ
と大丈夫だろうな…」

そう言つて刃野は歩き出し、その後を男性が付いて行く。

男性「後、私の事は黙って置いてください。協力者と言う事でお願
いします」

刃野「…注文多いな…」

戻って鳴海探偵事務所にて…

翔太郎「それで依頼の内容は？」

亜樹子が起きて朝食を食べ終えて一服してる時に来たのだ。

翔太郎に勧められて依頼主である男性が言う。

男性「はい…実はと言うと私が勤めてる風都プールパークでお化けが出るんですよ…」

亜樹子「風都プールパークって最近になって出来た今話題の施設よね？」

翔太郎「そこでお化け…ですか？」

男性の言った事に亜樹子が言った後、翔太郎は緋鞠を見てその後に聞く。

男性「ええ…どうも利用しているお客様が水中に引きずり込まれたとか、得体の知れない奴を見たなどと報告されているので上司もほとほと困っているのです。こちらでこう言う現象を解決出来ると言われて…お願いします」

翔太郎「…分かりました。この依頼、受けます」

頭を下げた男性にそう言うと翔太郎は立ち上がり、緋鞠と亜樹子と共に出る。

フィリップ「プール…水か…」

聞いていたフィリップは口の前に手を持って行き、何か考えていた。

数分後、翔太郎達は目的の風都プールパークに来ていた。

…なのだが…

翔太郎「……亜樹子、お前な……」

普段着で目の前で遊んでいる所長に翔太郎は顔を抑える。

亜樹子「ひゃっほー！！！！」

水着に着替えてる亜樹子がウォーターライダーで遊んでいる。

翔太郎「亜樹子の奴…依頼料の代わりに1年間フリーパスを早速使
って遊んでんじゃねえよ…依頼で来たんだぞ…」

緋鞠「あつ、あの…若殿／＼」

そんな翔太郎に緋鞠が話しかける。

振り向いた翔太郎は一瞬、あっけに取られる。

緋鞠「につ、似合ってるかのう／＼」

今の緋鞠は白のビキニを来ていて頬を赤く染めている。

翔太郎「あつ、ああ、似合ってるぞ」

あつけに取られていた翔太郎だったがそう言つと緋鞠は嬉しそうに笑う。

翔太郎「まあ…亜樹子があの状態だから、お前はあつちを頼む」

緋鞠「分かつたのじゃ」

翔太郎の頼みに緋鞠は頷いた後に歩き出す。

翔太郎「させ…俺も（ドン！）「きゃっ!?!」あつ、すみません！
大丈夫ですか？」

帽子を被りなおしざり行こうとした時に歩いていた女性とぶつかり、倒れた女性に声をかける。

女性「あつ、はい大丈夫です…あなたは？ 水着着てないけど」

翔太郎「失礼、俺は左 翔太郎、ちよつと依頼で調査してるんですよ」

女性「そうだったんですか…あつ、自己紹介したなら私もしないと…」

そう言つた後、女性は言う。

女性「三雁 蘭華と言います」

そんな2人の会話を…1人の少女が聞いていて、蘭華を憎しみの目で見ていた。

少女「…見つけたなの」

翔太郎「くそっ、なかなか集まらないな…」

蘭華と分かれた後、一回り見て行ったり聞き込みをしたりしたがドパーントの特徴が分かる決定的なのが見つからなかった。

翔太郎「分かっているのは相手が水の中でその得体のしれない奴は影で良く分かんなかっただし…」

ピピピッ！ ピピピッ！

頭をかいてまいったなと思っている時、スタックフォンの着信音が鳴る。

翔太郎「（ピッ）はい…フィリップか？ 何か分かったのか？」

フィリップ『いや…まだドパーントの特徴が出せてないが気になる事があるんだ…』

翔太郎「気になる事？」

フィリップの言った事に翔太郎は首を傾げる。

翔太郎「どう言う事だ？」

フィリップ『もしかしたらドーパント以外もいるかもしれない気がするんだ…』

質問した翔太郎にフィリップがそう言うのと翔太郎はさらに声を小さくして聞く。

翔太郎「もしかして…妖が絡んでいるって事か？」

フィリップ『可能性が否定出来ないから注意して欲しい』

翔太郎「ああ…分かったって思ったがどうやらその必要はないそうだ」

フィリップに言った後、目の前を見て翔太郎は言う。

フィリップ『なぜだい？』

翔太郎「それはだ…予感的中って事だ」

フィリップの問いに水しぶきを上げて出て来た妖を見ながら翔太郎はフィリップにそう言う。

フィリップ『そいつの特徴はなんだい？』

翔太郎「体と思われる部分の中央に目があって、上部分に口と横に魚の鱗、んでもって人を捕まえる為と思われる触手を持つてる」

いきなり出て来た妖に来ていた客が慌てて逃げる中、フィリップの問いに翔太郎は言う。

別の場所で…

真倉「なんじゃありやあああああ！！！！？」

遠くに現れた妖に真倉は叫び声を上げ、隣にいた照井は内心驚いているがそれを出さずに言う。

照井「客をすぐ避難させろ、俺は行く」

男性「では私毛」

真倉「あつ、ちよつと！！！」

指示を出した後に照井は走り、その後を男性が追いかける。慌てて静止しようとしたが刃野に止められる。

刃野「此処は照井課長とあの人に任せて、俺達は客の避難誘導をしよう。なあに照井課長なら大丈夫だろ」

そう言つてまだ納得していない真倉を引っ張り、刃野は客の非難へと行動を移す。

亜樹子「何あれ！！？私、聞いてない！！！」

緋鞠「いつとる場合じゃないぞ亜樹子殿！ 早く行かんと！」

遠くにいる妖に亜樹子は叫び、緋鞠はそう言いながら走る。

その時！

緋鞠「っ！？亜樹子殿！」

亜樹子「えっ？うわっ！」

いきなり緋鞠に抱き抱えられた後、後ろに飛び下がると緋鞠達がい
た場所に氷で出来た短剣が突き刺さる。

亜樹子「っ！？っ！？」

緋鞠「これは…誰じゃ！？」

あまりの驚きに声が出てない亜樹子を抱えたまま緋鞠は飛んできた
方を見る。

そこには…翔太郎といた蘭華を睨んでいた緑色のショートヘアで
瞳は赤の少女がいた。

少女「…邪魔はさせないの…此处で足止めなの…」

緋鞠「お主…妖じゃな」

亜樹子「嘘ッ！あんな小さい子でも妖なの！？」

少女を睨んで言った緋鞠の言葉に亜樹子は信じられないと言動に含んで見る。

少女「あの帽子男や女を殺す為にも邪魔されたら困るなの…」

緋鞠「若殿を殺すじゃと!?!」

亜樹子「女って誰!?!」

少女の言った事に緋鞠は目を開き、亜樹子が叫びながら聞く。

少女「そこは知らなくて良いの…だから此処で止まってるなの…」

緋鞠「させん!若殿をやらせん!」

そう言って緋鞠はどこからともなく安綱を取り出して構えると少女に向かって行き、少女は手に氷の短剣を取り出すとそれを受け止める。

翔太郎の方では…

翔太郎「うおっ!はっ!どわっ!?!」

次々と来る妖の触手攻撃を体を捻って避けたり、体を下げたり、ジャンプして避ける。

翔太郎「くそっ!色々やりやがって!きゃあああ!?!」何っ

!？」

毒づいた時に聞き覚えのある声にした方を見ると…イカのようなドーパントが蘭華を追い詰めていた。

翔太郎「このっ！」

なんとか妖の触手攻撃を避けてイカのドーパントに体当たりする。

ドーパント「ぐあっ！」

イカのドーパントが転がって行くのを見た後、翔太郎は蘭華に駆け寄る。

翔太郎「大丈夫か!？」

蘭華「あなたはさっきの…はい」

その言葉に翔太郎は安心した時…

緋鞠「くっ!」

翔太郎「緋鞠!」

飛んで来た緋鞠に翔太郎が驚いている間、少女がやって来て翔太郎と蘭華を睨む。

緋鞠「気を付けるのじゃ若殿、あ奴は若殿とその女性を殺そうとしておる」

翔太郎「えっ！？マジか！？何で俺と蘭華さんを狙うんだ？」

少女「帽子男は二の次なの、本命はそこの女なの……」

ドーパント「ほほう、どうやらその女に俺と同じ恨みを持ってるよ
うだな」

その様子を見ていたドーパントが少女を見て言う。

翔太郎「どう言う意味だ！」

少女「此处で消えるのに教えないの……」ならば僕がその理由を言おう「っ！？」

翔太郎「フィリップ！？」

翔太郎の疑問を一蹴りした少女に何時の間にかW専用の高速移送装甲車『リボルギャリー』に乗って来たフィリップに翔太郎は驚くがフィリップは構わず言う。

フィリップ「翔太郎、彼女がその女性、三雁 蘭華を狙う理由はある家系の傍流の末裔だからさ」

翔太郎「それがどうし……っ！？まさかその家系って！？」

フィリップの言った事に疑問を感じた後にすぐにある事に気づき、フィリップを見て、彼は頷く。

フィリップ「翔太郎が考えてる通り、彼女の家系は鬼斬り役で、彼女はその中の序列8位・地走家の末裔さ、その少女、蛟の妖に狙わ

れてるのは本家である地走家の当主がもういないから復讐する為の代わりとしてなのさ」

翔太郎「なんでだ？」

フィリップの最後の言った事に翔太郎は聞く。

フィリップ「その本家はある大戦で全滅したからさ…まあ、それで彼女が復讐しようとする理由は役100年前に遡るけど彼女の種族はとある鬼斬り役により彼女以外は皆殺しされたんだ」

翔太郎「まさかその鬼斬り役が地走家!!」

翔太郎の叫びに正解と言った後、フィリップはドーパントを見る。

フィリップ「見るからに彼女はお前と妖が丁度翔太郎達を狙ったから丁度良いと思っただろうが…なぜ彼女を狙う？」

ドーパント「私のご先祖は約100年前には名のあった退魔師だった…だが、ある時に失敗し、手柄を鬼斬り役に取りられた事で信用は落ちて、私の所は貧しい思いをした！そんな鬼斬り役など全滅させてやる為に手に入れたガイアメモリを使い、此処で奴と共に騒ぎを起こし、鬼斬り役をおびき出そうとしたのだ」

翔太郎「おいおい…逆恨みかよ…彼女より低すぎだろう…」

ドーパントの言った事に翔太郎は呆れた顔で言う。

少女「その奴の理由はともかく、ホントに鬼斬り役は許せないなの…私たちは静かに暮らしていただけなのに…」

翔太郎「……………お前の気持ちは良く分かった…」

帽子を深く被り直し、そう言った後、ただ…と言葉を切り、少女を見て言う。

翔太郎「復讐なんて止める！お前の仲間はその事を望んでねえ！」

少女「……………邪魔するなの…それに…私の気持ちが分かった様な言い方するなの…」

フィリップ「翔太郎は君が思ってる程、分かった振りをしてる男じゃないよ…なんたって彼は…ハーフォイルドだからね」

少女の怒りの目線に受けながら言った翔太郎を見た後、フィリップがそう言う。その言い方に翔太郎は少しよろけたが体制を立て直して叫ぶ。

翔太郎「お・ま・えな！何でこんな時にそれを出すんだよ！」

少女「半熟がどうしたなの…」

フィリップ「そう…半熟だからこそ彼は君の復讐を止める。僕達は沢山の事件の中で復讐しようとする犯人もいた。その相手が悪人だろうと彼はこの街に住む者の涙を止める為、犯人達を止める…そう君の気持ちも分かっているからこそね」

少女「…鬼斬り役の言う事なんて信用なんて…俺は鬼斬り役じゃねえ！」「…なの？」

フィリップの言葉に少女は言おうとしたが遮った翔太郎の言葉に少女は目を開く。

少女「どうしてなの？野井原の緋剣を連れているのに？」

ドーパント「そうだ！そいつを連れているのは天河家の鬼斬り役の証だ！」

翔太郎「俺の爺ちゃんは鬼斬り役だけだな…俺は緋鞠を野井原の緋剣だから置いてるんじゃない！小さい頃に爺ちゃんの実家に行っていた時に俺と共に過ごした家族だ！！それに俺は探偵だ！妖から人を守る鬼斬り役じゃない！人と人の共存を望む妖を守る探偵だ！！」

緋鞠「若殿…」

フィリップ「それでこそ翔太郎だよ」

翔太郎の言葉に緋鞠は顔を微笑み、フィリップはふっと笑う。蘭華は自分を守る翔太郎を見ている。

翔太郎「それに！かつて自分が受けた苦しみと同じことを他の奴にするのか！！」

少女「っ！？」

翔太郎の言葉に少女は目を開いて翔太郎を見る。

ドーパント「鬼斬り役であろうとなかろうと生かして置けるか！や

れ！」

そのドーパントの言葉に動きを止めていた妖は蘭華や翔太郎に向けて触手を伸ばす。

緋鞠「若殿！」

その時

????「ビートル」

????2「プテラ」

その音声の後に妖の触手を2体のメモリガジェットが切り裂く。

フィリップ「あれは照井 竜のメモリガジェット！もう1つのメモリガジェットは何だ？」

その後に役目を終えたメモリガジェットは持ち主の手に戻る。

カブトムシ型のメモリガジェット『ビートルフォン』は照井の手に

そしてプテラドノン型のメモリガジェット『プテラフォン』は照井に付いて来た男の手に収まる。

翔太郎「あいつは!?!」

プテラフォンの持ち主に翔太郎は目を開き、フィリップも驚きの顔で見ている。

男性「やあ、仮面ライダー君、久しぶりだね」

その人物：『園咲 霧彦』は翔太郎に向かって微笑む。

翔太郎「お前：生きていたのか？」

霧彦「ああ、君の仲間のおかげだね」

照井「話は分かんないが知り合いの様だな」

駆け寄った翔太郎に霧彦は頷いて答えて、彼が消えた後に来た照井は2人を見て言う。

翔太郎「緋鞠、妖はお前が抑えといてくれ、俺達はドーパントを倒す」

緋鞠「分かったのじゃ若殿」

頷いた緋鞠を見た後、翔太郎はドーパントを見る。

フィリップ「相手は見るからにイカのドーパント…使ってるメモリは“クラーケン”だ」

翔太郎「分かった」

霧彦「これが私の初陣ですね」

フィリップと翔太郎に霧彦の後に翔太郎はダブルドライバーを、照井はアクセルドライバーを装着、霧彦は懐からオレンジ色のガイアメモリを入れるスロットがある、中心に“N”が描かれたドライバ

「『ナスカドライバー』を腰に装着する。」

そして4人はそれぞれのガイアメモリを取り出す。

サイクロンメモリ「サイクロン！」

ジョーカーメモリ「ジョーカー！」

アクセルメモリ「アクセル！」

ナスカメモリ「ナスカ！」

翔太郎&フィリップ「変身！」

照井「変身！」

霧彦「変身！」

翔太郎は送られて来たサイクロンメモリとジョーカーメモリを装填してダブルドライバーを開き、照井はアクセルメモリをアクセルドライバーに装填して右グリップ部・パワースロットルを捻る。そして霧彦はナスカメモリをスロットに装填した後、左に動かす。

ダブルドライバー「サイクロン！ジョーカー！！！」

アクセルドライバー「アクセル！！！」

ナスカドライバー「ナスカ！！！」

その音声の後に翔太郎は仮面ライダーWに照井は仮面ライダーアク

セルに、そして霧彦はナスカドライバーの中心の“N”が青くなる
と青とオレンジで構築された球体に包まれ、下から上へと姿が変わ
っていく。

顔は口を除きナスカドーパントだが、腕を除き体はWとアクセルを
合わせた感じで、口部分はNEW電脳ストライクフォームにした感
じの仮面ライダー『仮面ライダーナスカ』が立っていた。

亜樹子「退避退避!!」

蘭華「はい!!」

亜樹子は意識のないフィリップの体を蘭華に手伝って貰い、リボル
ギャリーへ退避する。

W「さあ!お前の罪を数えろ!!」

アクセル「さあ!振り切るぜ!!」

ナスカ「さあ!その力を離しなさい!!」

それぞれのきめ台詞を言った後、3人はクラーケンドーパントに向
かって行く。

クラーケンドーパント「こしゃくな!!」

向かって来る3人のライダーにクラーケンドーパントは背中から触
手を出して攻撃する。

だが、エンジンブレードを構えたアクセルと専用武器『ナスカカリ

バー』を構えたナスカが触手を切り裂くとWが接近して得意の格闘で攻撃して行く。

W（翔太郎）「2人共剣だし俺も…（ヒュン！）なっ！」

クラーケンドーパントを吹き飛ばした後にブレードメモリを取り出した時、何か飛んで来て、慌ててWがそれを右手で受け止めると受け止めた物を見る。

フィリップ
W「これは…新たなメモリ！」

そのガイアメモリは色は水色でガイアディスプレイには水の水滴の様なWのイニシャルが描かれていた。

そして飛んで来た方を見るとそこには…翔太郎が夢の中で出会った女性がいた。

アクセル「『シユラウド』…」

W（翔太郎）「あいつがシユラウドだったのか…フィリップにメモリガジェット的设计図を送った…」

その女性を見たアクセルが呟き、Wは女性…シユラウドを見る。

シユラウド「そのメモリは『ウォーターメモリ』…使いなさい」

フィリップ
W「だっ、そうだけど…どうする翔太郎？」

W（翔太郎）「だったら使って見るか！」

そうやって両方のメモリを抜いた後に右にウォーターメモリを、左にブレードメモリを装填する。

ダブルドライバー「ウォーター！ブレード！！」

その音声の後、Wの右側が水色、左側が灰色の『仮面ライダーWウォーターブレード』へと HALF チェンジした。

クラーケンドーパント「色を変えて何の意味があるんだ！」

そう言うと同時に再び触手を出現させてWWBに向けるがWWBは慌てずにブレードセイバーを構えると振る。

すると、ブレードセイバーから水の斬撃が放たれ、触手をあつさり切り裂き、クラーケンドーパントを切り裂く。

クラーケンドーパント「ぐえっ！」

WWB（翔太郎）「すげえ……」

^{フィリップ}WWB「どうやらこの状態だとウォーターカッターを放てるようだね…此処は一気に決めよう翔太郎！アクセルもナスカも良いかい？」

アクセル「ああ！」

ナスカ「何時でも良いですよ」

WWBの問いに2人は答えた後にアクセルはエンジンブレードにエンジンメモリを装填し、ナスカはスロットを右に戻した後にまた左に動かす。そしてWWBもブレードメモリをダブルドライバーから

抜いた後にブレードセイバーに装填する。

エンジンブレード「エンジン！マキシマムドライブ！！」

ナスカドライバー「ナスカ！マキシマムドライブ！！」

ブレードセイバー「ブレード！マキシマムドライブ！！」

その音声の後にライダー達はフラフラしているクラーケンドーパン
トに構える。

W W B（翔太郎）「4人の力を合わせたトライマキシマムを受けて
見やがれ！！」

その言葉の後に3人のライダーは必殺技を放つ！

W W B & アクセル & ナスカ「ライダー！トライマキシマム！！」

W W B の『ブレード・アクアスラッシュ』とアクセルの『ダイナミ
ック・エース』にナスカの『ナスカ・エンドフィニッシュ』、3つ
の斬撃が途中で1つの刃となり、クラーケンドーパントを切り裂く。

アクセル「絶望がお前のゴールだ！」

ナスカ「罪を償い、やり直しなさい！」

クラーケンドーパント「うわあああああ！！！！」

ドカーーン！！

その言葉の後にクラーケンドーパントは爆発、そこにいたのは…

W W B（翔太郎）「はっ？」

アクセル「…女か？」

ナスカ「声を変えていたのですね…」

W W Bは呆然と見て、アクセルはポツリと呟き、ナスカはそう言う。

壊れたガイアメモリを握って気絶している女性に3人は顔を見合す。

亜樹子「それでどうする？ この妖？」

蘭華「オロオロしてるけど…」

目の前でオロオロしている妖に亜樹子は隣でまだ変身しているW W Bを見る。

W W B（翔太郎）「そうだよな…見るからに操られてただけだから…」

アクセル「だが、どうやって移動させるこの巨体？」

緋鞠「そこらへんが問題じゃのう…」

腕を組んで考えるW W Bにアクセルは聞き、緋鞠は頬をポリポリ掻く。

ナスカ「それだったら私が丁度良いのを持つてる。対象をお札の中

に収納してしまうと言っただ」

フィリップ
W W B 「それは興味深いね…一体誰から貰ったんだい？」

懐から1枚のお札を出したナスカにW W Bは聞く。

ナスカ「紫と言う女性から貰ったんだ。君達の知り合いと聞いてね」

W W B (翔太郎) 「…あいつか…まあ、あいつなら折り紙付きだから信用出来るな」

ナスカの言った事にW W Bは言った後、ある事に気づく。

W W B (翔太郎) 「そう言えば…あの女の子はどこ行ったんだ？」

蘭華「私が謝った後に去りました…許して貰えるでしょうか…」

亜樹子「大丈夫だよきっと」

W W B (翔太郎) 「そうだな」

緋鞠「…どうも嫌な予感がするのは気のせいじゃろうか…」

翔太郎「(事件は今回も無事に終わった…デカイ妖は霧彦の手により人里離れた場所で開放され、聞いた訳ではないけど体でお礼を表現していたと霧彦は言っていた。犯人である女もあの後、照井に連

行され、もうあんな事はないだろう…あの少女についてだが…」
翌日、愛用のタイプライターで報告書を書いている途中で目の前で
行われている喧嘩を見る。

緋鞠「何でお主が此処におるのじゃ!？」

少女「他の妖怪に話たららし込めと言われたから監視で此処にい
るなの…後、言い忘れていたけど私の名前は『静水久』なの…」

緋鞠「たらし込むじゃと!？ そんな事私がさせん! と言つか何
で何時の間に若殿のベッドに潜り込んでおるのじゃ!？」

静水久「夜中に入り込んでる猫に言われたくないの、監視する為だ
から入り込んでるなの…」

言い争ってる2人に亜樹子は苦笑いし、コーヒーを入れてる照井と
本を読んでるフィリップは我かんせずと自分の事をしている。

霧彦「にぎやかになってるね君の所」

翔太郎「言うな…(まあ、色々騒がしくなるだろうがそれが俺が
決めた爺ちゃんに話した探偵の道だろう…だからこそ俺はこの都で
人や妖が流そうとする涙を止める為に戦う)」

霧彦の言葉にそう返した後にレポートそう打ち終え、照井が渡した
コーヒーを飲みながら争う2人に苦笑する。

第3話：復讐のS / 帰って来たN（後書き）

今回の仮面ライダーWは！！

「此処が2人の言っていた紅茶の美味しいメイド喫茶『カフェ・リッシュ』か…」

「いらっしやいませ」

「この紅茶に帰宅したくなる毒薬が入ってるなの…」

「付喪神：また検索のし甲斐のある人が現れたね…ゾクゾクするよ」

「えっ、ええつと…」

「気にしなくて良いよ、何時もの事だから…」

第4話：メイド喫茶のR / 紅茶と付喪神

これで決まりだ！

NEWメモリ

ウォーターメモリ

『水流の記憶』が入ったWのソウルメモリ、使う事で水属性の攻撃が出来る様になる。ブレードメモリと相性が良い。ジョーカーメモリと組み合わせるとヒートジョーカーと同じ様に拳に水を纏って攻撃するスタイルに、メタルメモリと組み合わせるとメタルシャフトに水が纏い触れるがやや遅くなる。トリガーメモリと組み合わせる

事で水の弾丸が放てる様になり、炎を消火出来る。ブレードメモリと組み合わせれば水の斬撃を放てるが振らないと出ない。

EX第2話：幻想郷のUノ仮面ライダーナスカの誕生（前書き）

スネーク「エキストラ2話だ！」

ルイージ「しかもね…」

フォックス「だな」

ギル「ぷっ！」

EX第2話：幻想郷のUノ仮面ライダーナスカの誕生

霧彦がW：翔太郎に『（自分達が愛する）この街を宜しく頼む』というメッセージとともに『ふうとくん』のキーホルダーを託して去った後に冴子と共に園咲家を出ようと進言するが用済みと言われて冴子が『タブードーパント』になり、その攻撃で消されそうになった時…

がきっ！

???「ハイパー・クロックオーバー」

タブードーパント「何っ!？」

いきなり自分の攻撃を防がれた事にタブードーパントが驚いている間、その攻撃を防いだ人物：『仮面ライダーカブトハイパーフォーム』は呆然としている霧彦を見る。

カブトHF「…こいつがお前の言うこの街を守るライダーにする男か？」

???「ええ、そうよ」

霧彦「なっ!？」

前を見てタブードーパントに構えるカブトHFの問いに突然、自分の隣からしたのに霧彦は驚いて見ると帽子をかぶった金髪の女性『八雲 紫』がいた。

霧彦「あつ、あなたは？」

紫「あなたをある場所に連れて行く者よ…それじゃあ頼むわね」

タブードーパント「っ！？待ちなさい！」

カブトHFに言った紫にタブードーパントは赤い光弾を放つがカブトHFに防がれる。

紫「それじゃあね」

その言葉と共に霧彦の足元にスキマが出て来て…

霧彦「うわあああああああ…」

いきなりの浮遊感の後の落下に霧彦が叫びながら落ちて行き、聞こえなくなった後に紫がそのスキマに入るとスキマは消えて行った。

タブードーパント「くっ！」

カブトHF「これで俺の役目は終わった…さらばだ」

ハイパーゼクター「ハイパー・クロックアップ」

タブードーパント「待ちなさい！！」

毒づいた後、そう言うカブトHFに怒鳴るがカブトHFはハイパークロックアップでその場を離れる。

誰もいなくなったその場所でタブードーパントから冴子に戻り、苦

い顔で霧彦が消えて行った場所を睨む。

「????」これでガイアメモリを使用しての負担を無くしたわ」

「????」ありがとね『永琳』…後は彼のドライバーを彼女に改造して貰うのと彼の鍛錬の為の彼が来るのを待つだけね」

霧彦「ん……」

話し声がした後、霧彦は目を開くと、さっき自分を落としたと思われる紫と青を中心に赤い十字が描かれた帽子を被り、右が赤、左が青の服を着た女性が話していた。

紫「あら、起きた様ね…紹介するわ、彼女は『八意 永琳』、あなたがガイアメモリを使って出た負担を無くした医師よ」

永琳「体の調子はどう？」

そう聞かれ、霧彦は体を動かし、軽いですと答える。

その時

「????」お〜い」

紫「来た様ね」

霧彦「来たとは？」

霧彦の問いにあなたを鍛錬させる為の人物よと言つとその人物は姿を出す。

その人物、赤い中心にMと描かれた帽子を被り、赤い服と青いオーバールを来た男『マリオ』であった。

マリオ「おつ、お前が紫が言う鍛えて欲しい奴だな？」

紫「ええ、そうよ」

霧彦「彼がそうなんですか？」

マリオの問いに紫が頷いて答えた後の霧彦の問いにも頷く。

紫「だって彼は…あなたがいたミュージアムの首領さえも超える力を持つてるから」

紫の言つた事に霧彦は驚く。

紫「だけど彼は動かないわ…」

霧彦「なぜですか？」

マリオ「世界に呼ばれない限り、俺はあなたの世界に行かないからだ…その世界には決まった歴史があるからな」

紫の言つた事に首を傾げた霧彦にマリオは言う。

霧彦「では聞きますが…なぜ私を救ったのですか？」

紫「しいて言うなら…あなたの所…と言うか世界を含んだその次元の歴史が少し本来の歴史と違うからかしら」

紫の言葉に霧彦が？マークを浮かべる。

それに紫は苦笑しながら言う。

紫「説明するけど…本来の歴史ではあなたは私や彼に助けられずに彼女の手により死ぬ筈だったのよ、けれどね…あなたの世界では数カ月後だけと本来の歴史とは違う物語が始まるの…本来の歴史では会う筈のない者やある筈のない家系を彼…物語の重要人物である左翔太郎は会ってその道を行くの」

霧彦「彼がですか!？」

マリオ「それだけじゃないその次元にある複数の世界では本来出会う筈のない者達が出会い、本来ならないライダーになったり、新たなライダーが誕生した。そして根本的にオリジナルのライダー達の物語も少し変わっている…その次元のオリジナルのデイケイド、門矢士と会うのと複数のライダーが同じ世界にいる事だな」

規模がデカイ事で少し混乱している霧彦に紫は言う。

紫「そうそう…あなたには彼に修行して貰った後に知り合いにあなただのガイアドライバーを改造して貰ってナスカメモリの負担を無くす奴にして貰ってるわ」

マリオ「まっ、ドライバーはすぐ完成するかもしれないが完成してもお前の世界で始まる物語の数日後に返すから…まっ、その間は俺の修行って訳だ」

マリオを見て紫が言った後にマリオが霧彦に向かって肩をすくめて言う。

霧彦「分かりました…精一杯頑張ります」

決意を秘めた目で霧彦はマリオに頭を下げる。

その後、霧彦はマリオの修行をした。

色々ときつい所もあったが付いて行った。

数日後

???「完成したよ」

そう言っつて紫の勧めで博麗神社で止まっていた霧彦とマリオの元に緑色の服を着た少女『河城 にとり』が来て早々に言う。

マリオ「おっ、出来たようだな、霧彦のライダーシステム」

にとり「うん、後ねメモリガジェットも作った」

そう言っつて懐から改造した霧彦のドライバーと翔太郎達が使うメモリと同じ形に変化したナスカメモリに2個のメモリガジェットとそ

れのギジメモリを置く。

にとり「これがその人用に作った『ナスカドライバー』にメモリ
ガジェット『プテラフォン』とギジメモリ『プテラメモリ』、メモ
リガジェット『ハチドリシヨット』とギジメモリ『ハチドリメモリ』
だよ、マリオの持つてるゼロバツクルの様に自信作だよ！」

胸を張って言うにとりにマリオはサンキューと言った後、それを霧
彦に渡して外に出る。

マリオ「させ、早速だが実戦と行きますか」

霧彦「分かりました」

一通り、にとりから使い方教わるとナスカドライバーを装着し、
ナスカメモリのスイッチを押す。それにマリオもゼロバツクルを装
着する。

ナスカメモリ「ナスカ！」

霧彦「変身！」

ナスカドライバー「ナスカ！！」

マリオ「カメンライドKAMEN RIDE！！」

ゼロバツクル「ライダーアップ」

それぞれの音声の後に霧彦は仮面ライダーナスカにマリオは『仮面
ライダーゼロ・テクターフォーム』に変身した。

ナスカ「行きます！」

その言葉と共にナスカカリバーを構えてナスカはゼロTFに向かって行く。

ゼロTF「ふっ！」

それにゼロは動かず、振り下ろされたナスカカリバーを受け止めてどてっばらに空いた左手でのストレートを当てる。

ナスカ「くっ！ではこれはどうですか！」

そう言って飛び上がった後、マフラーを伸ばしてゼロTFを捕まえようとする。

ゼロTF「甘い！」

来たマフラーを掴むとそれをブンブン振り回し、最後に叩き付ける。

ナスカ「がはっ！」

叩き付けられると同時に変身が解けて地面に転がる。

ゼロTF「まあ、飛び上がってマフラーで動きを止めようとしたのは良かった…後は高速戦闘での戦いにも慣れとかないとな…」

霧彦「はっ…はい」

その後、風都に戻るまで霧彦はマリオに鍛えられた。

そして…

霧彦「では…色々とありがとうございました」

マリオ「お前も頑張れよ、仮面ライダーナスカ」

スキマの前で頭を下げる霧彦にマリオはそう言う。

そしてスキマに入り、自分の愛する街へと戻って行った。

紫「さて…あのライダーも準備しないと…」

見届けた後に紫はそう呟いた。

EX第2話QED

EX第2話：幻想郷のUノ仮面ライダーナスカの誕生（後書き）

ルイージ「と言う訳で仮面ライダーナスカの誕生経緯と霧彦さん生存の状況だったけど…」

フォックス「ちょっとしたな…」

スネーク「次はな…」

カザリ「次回も見てね〜」

第4話：メイド喫茶のR／紅茶と付喪神（前書き）

マリオ「4話目だ！」

ルイージ「またまた新メモリ登場！」

フォックス「だな」

士「それでPVが1万突破だ！」

城戸「こっちはやつ！」

デネブ「これからも小説をよろしく！」

第4話：メイド喫茶のR／紅茶と付喪神

鳴海探偵事務所に新たに静水久が加わった3日後

緋鞠と静水久の睨み合いがあつたが 翔太郎の指示で2人共渋々ながら止めた後：

ダブルドライバー「ヒート！メタル！！」

翔太郎は今、サイのドーパント『ライノスドーパント』と戦つていて、メモリを『ヒートメモリ』と『メタルメモリ』に変えてダブルドライバーに装填し、『仮面ライダーWヒートメタル』へとハーフチェンジした。

WHM（翔太郎）「おりゃあ！！」

メタル専用武器『メタルシャフト』を使い、WHMはライノスドーパントに振り下ろす

ライノスドーパント「ふん！！」

がぎっ！！

WHM（翔太郎）「何ッ！？」

右手でメタルシャフトを受け止められた事にWHMは驚く。

WHM^{フィリップ}「まさかこの状態で受け止められるとは思ひもしなかつたね」

WHM（翔太郎）「ああ、バイオレンス並み…いや、それ以上の硬さだな」

ライノスドーパント「ふん！」

腕の一振りですばやく飛ばされたが体制を立て直すとダブルドライバーから『メタルメモリ』を抜くとメタルシャフトに装填する。

メタルメモリ「メタル！」

メタルシャフト「メタル！マキシマムドライブ！！」

水平に構えるとメタルシャフトの両端から炎が吹き出る。

それにライノスドーパントは避ける体制に入るが…

ライノスドーパント「!?!」

自分の足元が凍り付いて動けない事に気づく。

WHM「メタルブランディング！！」

そして目の前にWHMが必殺技を繰り出すのに気づき、腕を胸の前で交差した瞬間に受ける。

WHM（翔太郎）「メモリブレイクされなかつたか…」

腕の交差をゆっくり解くライノスドーパントを見てWHMは眩く。

もう一回マキシマムを行おうとしてライノスドーパントは分が悪い

と思ったのか地面にパンチを繰り出し土煙を発生させた後には姿がなかった。

WHM（翔太郎）「逃げられたか…」

静水久「…相手はとても固いの…と言うか硬すぎなの…」

フィリップ
WHM「ああ、ヒートやメタルの力をもろともしなかった…厄介な相手だ」

物陰から出て来た静水久はライノスドーパントのいた場所を見て言い、フィリップは相手の攻撃を弾く時の事を見て言う。

させ、なぜこんな事になっているかと言うとある女性からの依頼である。

女性からの依頼はカフェを破壊する者を捕まえて欲しいとの事

女性はあるカフェの店長だったが何者かの手により経営していたカフェを壊されてしまったらしい。他にも2〜3件、カフェが壊されているので翔太郎達に依頼しに来たそうだ。

翔太郎はそれを受けて、それぞれ分かれて搜索していて、翔太郎と静水久がとあるカフェの後ろで現れたライノスドーパントを見つけ、さっきの現状にいたる。

亜樹子「そのドーパント厄介だね」

翔太郎「ああ、メタルやヒートより強いパワーじゃないとあの防御力に打ち勝てないな」

数分後、鳴海探偵事務所に集合し、話しを聞いた亜樹子はそう呟き、翔太郎は同意する。

フィリップ「ヒートやメタルでは無理なら“ファング”で行けるか分からないね…」

緋鞠「ファング？」

静水久「…それもガイアメモリなの？」

首を傾げる2人にフィリップは頷く。

フィリップ「ああ、Wの第7のメモリで僕がメインになる『Wファングジョーカー』になる為に必要なメモリさ」

翔太郎「まっ、他にもフィリップの護衛でもあるんだよな」

静水久「…護衛？…メモリなのになの？」

翔太郎の言葉に静水久が首を傾げた時

????「ギヤオ！」

静水久の疑問に答える様に小型の恐竜メカが現れる。

緋鞠「フィリップ殿、もしやこれがさっき言ってたファングかのうち？」

フィリップ「ああ、『ファングメモリ』でこいつを使って変身するんだ」

机の上にいるファングメモリを見て緋鞠がフィリップを見た後、フィリップは同意して頷く。

その時…

クイーン「翔ちゃん」

エリザベス「遊びに来たよ」

扉を開いてクイーンとエリザベスが入って来て、ファングメモリはすぐさま隠れる。

翔太郎「クイーンにエリザベスか？…今は依頼が入っていてな…しかもそれで少し悩んでるんだよ…」

今の所、霧彦が捜索に出ているので連絡待ちである。

頭を掻く翔太郎にクイーンとエリザベスは顔を見合わせた後…

クイーン「だったらさ、少しリラックスする為にあるメイドカフェに行ったら？」

エリザベス「行ったら？」

翔太郎「メイドカフェ？」

数分後、翔太郎は亜樹子、緋鞠、静水久と共に2人の言うメイドカフェに来ていた。

翔太郎「此処が2人の言っていた紅茶の美味しいメイド喫茶『カフェ・リリッシュ』か…」

亜樹子「竜君のコーヒー位なのかな？」

緋鞠「飲めば分かるじゃろ」

静水久「猫の言う通りなの」

そう言った後、4人はカフェ・リリッシュに入る。

???「いらっしやいませ」

出迎えたブロンドのロングヘアをツインテールにしたメイド服の女性が翔太郎、亜樹子と見た後に緋鞠を見て何やら固まる。

亜樹子「あの〜どうしました？」

女性「いつ、いえ！それでは案内しますね！」

固まる女性に亜樹子が訝しげに声をかけると女性のはっとして何やら慌ててるのに4人は首を傾げた後にテーブルに案内される。

翔太郎「しっかし、あいつにはどうしたら良いんだろうな…」

緋鞠「ううむ、若殿が言う程硬いのでは倒すのは難しいじゃろうな…」

静水久「ウォーターブレードはどのなの？」

唸る緋鞠の後に静水久がそう提案する。

翔太郎「確かにウォーターブレード時の攻撃なら出来るかもしれない…だが、ウォーターブレードは振れなければ駄目だ…」

うろくろくと考える4人にさつき席に案内した女性が紅茶を入れたカップを持って来る。

女性「はい、どうぞ」

出された紅茶を各々に取った後、亜樹子は飲む。

亜樹子「うま…いい!!」

緋鞠「ホントじゃな」

叫んだ亜樹子に続いて飲んだ緋鞠は頷く。

そして翔太郎も紅茶を飲む。

それを女性が冷や汗を流しながら見ている。

静水久「ちよつと待つなの」

翔太郎が紅茶を飲もうとした直前で静水久が待ったをかけて翔太郎の手からカップを取り上げる。

翔太郎「いきなりどうした？」

じいじとカップの中にある紅茶を見た後、舌を付けて紅茶を舐めて数秒した後：

静水久「この紅茶に帰宅したくなる毒薬が入ってるなの……」

翔太郎「なんだって？」

紅茶を見て言った静水久の言葉に翔太郎は驚き、緋鞠は紅茶を運んで来た女性を見る。

緋鞠「貴様！ まさか若殿を狙う妖だな！ そこに！」「落ち着け！（パシーン）」「っ~~~~！」

安綱を握る緋鞠に翔太郎は亜樹子からスリッパを借りて（ちなみに書かれてる文字は“落ち着けい！”）それではたいした後に女性を見る。

翔太郎「事情を聞かせてくれないか？ 何でこんな事をしたのか……」

数分後、翔太郎達は目の前に座る女性『リズリット・L・チエルシ』の話しを聞いて言う。

翔太郎「つまりあなたは英国製の古いティーカップに宿る付喪神で

…紅茶が大好きで、それを広める為に約100年前に日本に来たと」

亜樹子「それで此処でアルバイトをしていて…」

緋鞠「来店した私たちを見て自分を滅しに来た者達と思い…」

静水久「居場所を失うかもしれない恐怖からまとめ役であろう翔太郎の紅茶に毒薬を入れた…なの…」

リズリット「すいませんすいません！純粋に紅茶を飲みに来ただけなのに！私としたら！！」

翔太郎「いや、気にしてないから…俺は探偵だから君を滅したりなんてしない…」

頭を下げるリズリットに翔太郎は優しく声をかける。

亜樹子「それで…その本体であるティーカップは？」

リズリット「それならあそこに…」

亜樹子の問いにリズリットはそう言ってカウンターの棚にある古いティーカップを差した時…

ズガン！

アクセル&ナスカ「うわあああああ！！！！」

リズリット「なあああああああ！！！！？」

突然壁を吹き飛ばしてアクセルとナスカが飛んで来て、その際にリズリットの本体であるティーカップが宙を舞い、あわや落ちて壊れそうになった時！

翔太郎「とわああああ！！！！」

間一髪、翔太郎が飛んでキャッチする。

亜樹子「ナイスキャッチ！」

緋鞠「流石若殿じゃ！」

飛び込みキャッチした翔太郎を亜樹子と緋鞠が賞賛し、リズリットはほっと安堵の息を付く。

翔太郎「お前等！大丈夫か！？」

ティーカップを持ったまま翔太郎は立ち上がる2人に聞く。

アクセル「俺に質問するな……」

ナスカ「大丈夫ですけど……ホント硬いですね」

いつものセリフを吐いたアクセルの後にナスカは飛んで来た方を見て呟いた後にライノスドーパントが姿を現し、翔太郎の後ろにいるリズリットを睨む。

翔太郎「出やがったな……亜樹子！これを頼む！！」

亜樹子「OK翔太郎君！」

亜樹子にティーカップを渡した後に翔太郎はダブルドライバーを装着し、ジョーカーメモリを取り出し、それと同時に探偵事務所にいたフィリップもヒートメモリを取り出す。

ヒートメモリ「ヒート！」

ジョーカーメモリ「ジョーカー！」

翔太郎&フィリップ「変身！！！」

ダブルドライバー「ヒート！ジョーカー！！！」

その音声の後に『仮面ライダーWヒートジョーカー』となり、炎を纏った拳でライノスドーパントを殴るが…

ガン！

WHJ（翔太郎）「かった！！？」

WHJ^{フィリップ}「ヒートジョーカーでも力不足か…」

左手をぶんぶんさせるWHJにライノスドーパントを突撃してくる。

後ろには緋鞠達がいるのでWHJはライノスドーパントを受け止めるが…

WHJ（翔太郎）「ちっ！！！」

どンドン押されて踏ん張るが止まる気配がない。

アクセル&ナスカ「はっ！」

後ろからアクセルとナスカがエンジンブレードとナスカカリバーでライノスドーパントを攻撃するが、硬いボディに弾かれ、ダメージを与えられない。

亜樹子「全然効いてないよ!!」

緋鞠「やはりもう一押し…ん？」

亜樹子が叫び、緋鞠は思案した時に、リズリットがとことことWHJとライノスドーパントの所に歩いて行く。

亜樹子「ちよっ、ちよつと危ないよ!!」

緋鞠「待て亜樹子殿：もしやあやつ、何か秘策があるのではないかのう？」

静水久「どんな秘策なの？」

慌てて止めようとする亜樹子を制し、緋鞠がそう言つと静水久が首を傾げる。

WHJ（翔太郎）「くっ…ん？ リズリット？」

フィリップ
WHJ「誰だい彼女は？」

そしてこちらにも歩いて来るリズリットに気づき、フィリップが首を傾げた時、ライノスドーパントはリズリットに気づき、WHJから

組み合いを止めてリズリットに突撃する。

ナスカ「危ない！」

アクセル「早く離れろ！」

ナスカとアクセルが慌てて叫ぶがリズリットは逃げず、ライノスド
ーパントを見る。

そして…ライノスドーパントの突撃を横に避けた後…

リズリット「ええい！！！」

WHJ（翔太郎）「はあっ！？」

亜樹子「嘘っ！！！？」

アクセル「何！？」

ナスカ「なんと！？？」

ライノスドーパントの腕を掴んで回転して上に放り投げた事に4人
は驚き、投げた本人であるリズリットを驚愕した顔のまま見る。

緋鞠「なんとと言う馬鹿力…！」

静水久「規則外なの…！」

WHJ^{フィリップ}「一体なんなんだい彼女は？色々興味深いよ」

W H J（翔太郎）「それは後にしてくれ…しかしもう少しパワーがあれば…」

フィリップにそう言うつと顎に手を当てて呟いた時…

ヒュン！

考え込んでいたW H Jに何かが飛んで来て、それをW H Jは受け止め、手を開くと…

W H J（翔太郎）「新たなメモリか？」

飛んで来たのはガイアメモリで色はオレンジでガイアディスプレイには力強く感じるSのイニシャルが描かれていた。

フィリップ
W H J「翔太郎、試して見よう！」

W H J「ああ！」

それを見たフィリップの言葉の後にW H Jはジョーカーメモリを抜いて、新たなメモリ『ストロングメモリ』を装填する。

ストロングメモリ「ストロング！」

ダブルドライバー「ヒート！ストロング！！」

その音声の後に黒からオレンジに変わった『仮面ライダーWヒートストロング』へとハーフチェンジした。

ドゴーン！

ライノスドーパント「ぐがつ!?!」

そして丁度落ちて来て、よろけながら立ち上がるライノスドーパントにWHSは言う。

WHS「さあ!お前の罪を数える!!!」

そして走り、ライノスドーパントのどてっばらに両手に装備されたストロング専用武器『ストロングフィスト』の炎を纏った左ストレートを放つ。

WHS「おりゃあ!」

ライノスドーパント「がつ!!!」

先ほどまでの攻撃で動じなかったライノスドーパントはそれに後ずさり、WHSは左手を見て眩く。

WHS（翔太郎）「すげえ…力が漲って来るぜ」

WHSフィリップ「だがこれは力が強い分、他の奴に被害が行きやすいから今回の様な奴に使用した方が良いね」

そうだなと言った後、WHSはストロングメモリをダブルドライブから抜いた後、左手のストロングフィストの手の甲の部分にあるマキシマムスロットに装填する。

ストロングフィスト「ストロング!マキシマムドライブ!!!」

その音声の後にストロングフィストがさつきより強い炎を纏い、その後にはWHSは駆け出し、ライノスドーパントに必殺技を放つ

WHS「ストロング！バーニングクラッシュュ！！」

ライノスドーパントのどてっばらに強烈なアツパーをするとライノスドーパントは上へ飛び、空中で爆発四散すると、気絶した男性と壊れたガイアメモリが落ちて来て、ナスカが飛び上がって男性をキヤッチした後、着地する。

亜樹子「やったああああ！！！！」

緋鞠「今回も勝利じゃ」

静水久「なの」

リズリット「……」

亜樹子は喜び、緋鞠と静水久がそう言い、リズリットは頬を赤く染めてWHSを見ていた。

翔太郎「（今回の事件も無事解決した…犯人である男の事件を起こした魂胆は経営破産している自分の店にお客を来させる為に有名な喫茶店を破壊したのだそうだ…なんとも言えないが欲の為に他人を傷付けてまで手に入れても幸せにはならない…それで被害にあった喫茶店についてだが…）「おお、ホント古いので打つねあんたは」

…こら！ 人の打ってるのを邪魔するな『萃香』！！つかお前、まだ立て直してないのあるだろ！！」

覗き込んで来た少女『伊吹 萃香』を押しつけた後にそう言う。

萃香「大丈夫大丈夫！もうほとんど直し終えたからさ」

そう言うって萃香は腰の瓢箪を取って口に運び、ぷは〜と一息付く。

それに翔太郎はやれやれと頭を振った後、報告書の作成に戻る。

翔太郎「（と言う訳で霧彦が呼んだ彼女のおかげで2〜3日から再開されるだろう…そして…）」

フィリップ「付喪神…また検索のし甲斐のある人が現れたね…ゾクゾクするよ」

リズリット「えっ、ええつと…」

亜樹子「気にしなくて良いよ、何時もの事だから」

目の前で繰り広げられてる光景に翔太郎は苦笑した後、報告書に戻す。

翔太郎「（カフェ・リリツシュが直るまで彼女はしばらく内で預かる事になった。紅茶の奴も頑丈な奴に入れて補強もしたいし大丈夫だろう…しかし…なぜか熱い目線で見られるのはなぜだろうか？）

ちらちらとこちらを頬を赤くして見るリズリットに心の中で首を傾

げる翔太郎を見て亜樹子は…

亜樹子「（ああ、あれ気づいてないわね…ってか翔太郎君、五代さん達の鈍感がうつつたのかな？）」

と心配して…

緋鞠「あれを見る限りあやつも…」

静水久「強敵が出来たなの」

緋鞠と静水久はライバル登場に負けないと対抗心を燃やしていた。

第4話 Q E D

第4話：メイド喫茶のR／紅茶と付喪神（後書き）

次回の仮面ライダーWは！！

「吸血鬼だあ〜？」

「何時もの興味深い〜は出ないの？」

「もうそれは検索済みだからね」

「まさか吸血鬼もいるのかよ…ホント世界は広くて色々と不思議な事が多いな」

「あんね〜何で我、呆れられてるのかな〜？」

「見つけたわよソフィア！」

第5話：吸血鬼のB／各務森家の鬼斬り役

これで決まりだ！

NEWメモリ

ストロングメモリ

『超人の記憶』が入ったWのボディメモリ。メタルメモリより力が強いがストロングフィストを両手に付けたジョーカーメモリの様に

肉弾戦をメインとする。サイクロンメモリと組み合わせる事で連続攻撃を得意としたスタイルに、ヒートメモリと組み合わせる事でジョーカーより強いパンチ力を出すのが吹き飛ばした相手に周りを破壊しかなない程の力を持つ。ルナメモリと組み合わせる事で腕を伸ばすがジョーカーと違って真っ直ぐにしか行かない。ウォーターメモリとあわせると水の拳圧を放てる事が出来る。

仮面ライダーナスカデータ（前書き）

マリオ「仮面ライダーナスカのデータだぞ！」

フォックス「見てみよう！」

仮面ライダーナスカデータ

名称：仮面ライダーナスカ

変身者：園咲 霧彦

外見：顔は口を除きナスカドーパントだが、腕を除き体はWとアクセルを合わせた感じで、口部分はNEW電脳ストライクフォームにした感じ、カラーリングはナスカドーパントと変わってない。

概要

園咲 霧彦がガイアメモリ<ナスカ>をナスカドライバーを使って変身した姿。専用武器が『ナスカカリバー』に変わった以外は基本的にナスカドーパントと変わらない。但し、ガイアメモリ<ナスカ>の負担が無くなっている。必殺技はマキシマムドライブした後にエネルギーを纏ったナスカカリバーで切り裂く『ナスカエンドフィニッシュ』

名称：ナスカドライバー

外見：オレンジ色のガイアメモリを入れるスロットがある、中心に“N”が描かれている。

概要

河城にとりが霧彦の持っていたガイアドライバーを改造して作ったドライバー、変身方法はガイアメモリ<ナスカ>をスロットに装填した後、左に動かして、ナスカドライバーの中心の“N”が青くなつた後、青とオレンジで構築された球体に包まれ、下から上へと姿が変わる事で変身完了となる。マキシマムドライブは一旦、スロットを元の位置に戻した後にもう1回左に動かす。

名称：プテラフォン

外見：スタッグフォンの外見をプテラノドンにした感じ、色は黄色

概要

にとりが作った携帯型メモリガジェット、スタックフォンとビートルフォンと同じでギジメモリ『プテラメモリ』を入れる事でライブモードとなり、相手に突撃する。

名称：ハチドリショット

外見：バットショットの外見をハチドリにした感じ、色はオレンジ概要

にとりがプテラフォンと一緒に作ったデジカメ形メモリガジェット、手ブレ補正や暗い所でもはっきり取れる赤外線カメラにもなる。ギジメモリ『ハチドリメモリ』を入れる事でライブモードとなり、光で相手の目を塞ぐ。

仮面ライダーナスカデータ（後書き）

マリオ「と言う事だ！」

フォックス「次回を楽しみにしていきなれ！」

第5話：吸血鬼のB / 各務森家の鬼斬り役（前書き）

マリオ「新しいキャラ登場だ！」

ルイージ「後メモリもね。」

フォックス「どう言う反応が来るのやら……」

ユウスケ「特にメモリとかかな？」

士「あり得るな……」

第5話：吸血鬼のB / 各務森家の鬼斬り役

風都の夜、そこを1人の女性が歩いていた。

仕事帰りなのかスーツを着ていて、片手にバッグを抱えている。

バサツバサツ

耳に入って来た音に女性は足を止めて周りを見る。

音的に鳥の羽ばたきだろうが音の大きさは女性が知ってる中でそんなに音を出すのはいない。

怖くなって女性は駆け出そうとした時…

いきなり肩を掴まれ、驚いて振り返った時…

きやあああああああああ！！！！

女性の悲鳴が響き渡り、それが聞こえなくなる。

???「……遅かったか…」

????2「これで3回目だね〜我としても早く止めたいもんだね〜」

数分後、巫女服を着た少女と頭に黒い帽子を被り、黒の上下が繋がった服を着た巫女服の少女より幼い静水久位の少女は服をボロボロにされて息絶えた女性の遺体を見て各々に呟く。

少女2「それでどうする？我的に全然相手を掴めてないけど？」

少女「そうね…けれどこれだけははっきりするわ…」

そう言っつて少女は女性の首の2つの穴を見て言う。

少女「これはあんたと同じ吸血鬼か…この風都で暴れてるドーパン
トね」

翌日

翔太郎「吸血鬼だあ〜？」

ウオッチャマン「そうなんだよ翔ちゃん、今話題になっつてる事件の
事知っつてるっしょ？」

ウオッチャマンの言っつた事に翔太郎は今テレビで聞いたばかりのニ
ユースを思い浮かべて頷く。

翔太郎「しっかし……吸血鬼か…」

考える翔太郎を尻目に静水久はフィリップに近づく。

静水久「何時もの興味深い〜は出ないの？」

フィリップ「もうそれは検索済みだからね」

静水久の問いにフィリップは興味なさげにそう言い、本を捲る。

ウォッチャマン「しかも…聞いた所によると鬼斬り役もこの事件に捜査してるそうだよ」

翔太郎「!…それはホントか!？」

ウォッチャマンの言葉に翔太郎は目を開き、本人は頷く。

そこに…

リズリット「ご主人様、依頼を頼みたい人が来ました」

カフェ・リリッシュが直るまで居候中で買い物に行っていたリズリットが帰って来て早々に言う。

横に退いてその依頼人を前に進める。

翔太郎「それで…依頼したい事とは？」

リズリットが入れた紅茶を置かれた後に翔太郎は依頼主である男性に聞く。

男性は一枚の写真を胸ポケットから取り出すとそれを亜樹子と翔太郎に見せる。

亜樹子「この人…さっきテレビに出てた『池野 里香』さんですよ
ね？」

男性「はい、彼女は我が社に勤めていて、周りから好かれる人でした…」

そう言った後に男性は頭を下げる。

男性「お願いです！ 犯人を捕まえてください！これ以上、彼女の様な人を作らせないでください！」

翔太郎「頭を上げてください…俺もこれ以上、悲しい風をこの街に吹かせたくないので受けます」

依頼を受ける翔太郎に男性はありがとうと頭をまた下げる。

その後、翔太郎はクイーンやエリザベス、ウォッチャマンにサンタちゃん等から情報を貰いながら調査した。

結果、池野 里香以前に2人の女性が襲われ、殺されており、その死亡原因が血を大量に出血した事での死亡だが、不思議な事に首の所に2つの穴があり、服をボロボロにされてはいるがそれ以外に外傷はないとの事だ。

そして夜

亜樹子「静かだとちよつと不気味だね」

翔太郎「そうだな…あんまり夜に出た事ないしな…」

静かな風都に亜樹子は眩き、それに翔太郎は同意しながら歩く。

緋鞠「しかし相手はドーパントなのじゃろうか？」

静水久「もしくは血を吸う妖なの」

リズリット「しかも夜ですし視野が悪いですしね……」

付いて来た3人が各々に眩いているがそれぞれ警戒して歩いている。

亜樹子「早く解決しようね」

翔太郎「そうだな…照井や霧彦も別の場所で探索してるしな…!？」

その時、翔太郎は視線を感じる。

緋鞠「どうしたのじゃ若殿？」

緋鞠の問いに答えず、翔太郎は上を見る。

すると…輝く月を背にしている何者かの姿があった。

翔太郎「誰だ!？」

ダブルドライバーを持って何時でもWに変身出来る様に構える翔太郎の前にその人物は降りて来た。

緋鞠「何者じゃお主は？」

緋鞠の問いにその人物はふつと笑った後に…

????「我は『ジユディニエーヌ・ソフィエルタ・プランスリンク』
！愛称はソフィアだからそっちで呼んでくれたら我は嬉しいな」

そう高らかに自分の名前を告げる。

そんな少女、ソフィアに緋鞠は警戒し、静水久もソフィアが何か仕掛けて来た時の為に身構え、リズリットは亜樹子の前に立つ。

翔太郎「一つ聞くが…君は吸血鬼か？」

ソフィア「そうだよ…こんな我に驚いたか？」

翔太郎の問いにソフィアは胸を張ってそう言った後、翔太郎に聞く。

問われた翔太郎は…ため息を付く。

翔太郎「まさか吸血鬼もいるのかよ…ホント世界は広くて色々不思議な事が多いな」

ソフィア「あんれ…何で我、呆れられてるのかな…？」

呆れた翔太郎にソフィアはまさかの反応に額に漫画に出来る汗を付ける。

ソフィア「何で驚かないの？我は吸血鬼だよ？」

翔太郎「悪いが俺は以前、吸血鬼に会った事があったね…しかも君みたいな少女の吸血鬼にな」

質問するソフィアに翔太郎はダブルドライバーを持ってない手で頭を掻く。

ソフィア「おお〜何やら興味深いね〜そのロリンロリンな吸血鬼ちやんに会ってみたいな〜」

翔太郎「（…以外と弄られそうだな…特にあっち側）」

興味津々なソフィアの反応に翔太郎はソフィアに弄られてる忘れ去られし楽園の紅い館の主の光景を思い浮かべながら苦笑する。

緋鞠「若殿…その話は初耳なのじゃが？」

敵意がないのを感じたのか、緋鞠は警戒を解いて翔太郎に近づいて聞く。

その話は後でしてやるよと緋鞠に言った後、翔太郎はソフィアの方を向き、聞こうとした時

????「見つけたわよソフィア！」

そんな声が響いた後にソフィアの後ろから巫女服を着た少女が走って来る。

ソフィア「おお〜遅かったな〜（バシンッ!）あいたっ!?!」

少女「遅かったな〜じゃないわよ!あんたが勝手に行くから探すの大変だったのよ!」

叩かれた頭を抑えるソフィアに少女はそう叫んだ後に翔太郎達に気づく。

翔太郎は少女を見て驚いた。

驚いたたがその驚きの対象は服装とかではなく彼女の目である。

彼女の目は右が青で左が黄色と言う左右の色が違うオッドアイであった。

翔太郎「君は？」

少女「私？」

翔太郎の問いに少女は翔太郎に向き直り、自分の名を名乗る。

少女「私は『各務森 飛白』、ソフィアの相棒で鬼斬り役十二家の序列3位・各務森家の当主よ」

亜樹子「ええっ！？ 翔太郎君のお祖父さんと同じ鬼斬り役なの！？ 私聞いてない！」

静水久「と言うか今会って聞いたなの」

少女の名乗りにより亜樹子は驚き、静水久はそう突っ込む。

翔太郎達は飛白達に自己紹介した後、お互いの情報を交換しあい、今後について話し合った。

飛白「ふうん、それじゃああなた達は依頼を受けて、それで犯人

を探索中にソフィアと出会った訳ね」

翔太郎「んでそっちは3日前の夜に風都に着て偶然にも最初の被害者が殺された直後に出くわして、そいつを許せないのでソフィアと共に犯人を捜してて、今夜も探そうとした時にソフィアが勝手に行つて、探してたら俺達とばったり会ったか…」

緋鞠「つまり…まだ犯人の姿が確認されておらんと言う事じゃのう…」

纏めた緋鞠の後に静水久が翔太郎の方を向く。

静水久「だったら…フィリップの検索なの」

翔太郎「だな」

ソフィア「えっ？どう言う事？」

静水久と翔太郎の会話に首を傾げるソフィアに亜樹子が説明する。

亜樹子「内にはフィリップ君って言う男の子がいてね、犯人の手がかりを言つて犯人がどこにいるのかやどこの建物を狙うかを調べる事が出来るの」

飛白「凄いわね…」

感嘆の声を飛白が上げてる間、翔太郎はフィリップに繋げる。

翔太郎「フィリップ、検索だ」

ガレージにて…

フィリップ「待ってたよ…それじゃあ検索を始めよう」

そう言うと同時にフィリップの意識は様々な情報が置かれてる『地球の本棚』に行く。

翔太郎「キーワードは“夜”“首元の傷跡”」

翔太郎が言うキーワードで何冊も本が限定されるが…

フィリップ「まだ駄目だ…他にキーワードは？」

翔太郎「他にか…追加キーワード“吸血鬼”」

そのキーワードを入れるとどんどん本が限定されて1冊の本だけが残り、それをフィリップは手に取り、開く。

戻って翔太郎達

フィリップ「検索が出来たよ翔太郎、最後に入れたキーワードが正解の様で、犯人は吸血鬼か吸血鬼のメモリを使用したドーパントだ」

翔太郎「そうか…サンキューフィリップ」

そう言って通話を終えた後にソフィアの方を向く。

翔太郎「ソフィア、お前って同族の気配とか感じられないのか？」

だ変身していないって奴だな」

緋鞠「いや…若殿、こう言うのも考えられるぞ？“ソフィアと同じ同族だけどそんなに力がなくてそれでドーパントになってる”と言う可能性じゃ」

考え込む翔太郎に緋鞠がそう言うのと翔太郎と飛白がはっとして緋鞠を見る。

翔太郎「緋鞠…それ正解かもしれないぞ」

飛白「それならソフィアが感知出来ないのも納得出来るわ…」

亜樹子「それじゃあ今はなっていないって事？」

翔太郎と飛白の言葉に亜樹子がそう言う…

???「せいはい、それが答えよ」

いきなりの声に全員がした方を見ると亜樹子位の年齢の少女が立っていた。

翔太郎「正解って事は…」

飛白「あなたがこの事件の犯人ね」

少女「ええ、その妖さんの言う通り、私はその吸血鬼さんより力がないのよ…けれど、それは今夜までよ」

そう言うと同時に胸元をはだけるとそこにガイアメモリを差し込む

コネクタがあつて、少女はガイアメモリを取り出すとスイッチを押す。

ガイアメモリ「ヴァンパイア！」

その音声の後に少女は胸元のコネクタにガイアメモリを差し込むと少女の姿は…

亜樹子「あれ？変わってない？」

翔太郎「いや亜樹子…確かに俺たちが見て来たドーパントと違うが変わってるぜ、目をこらして見てみる」

少女の姿を見て呟いた亜樹子に翔太郎はそう言う。

亜樹子は言われた通りに良く見ると…少女の背中に良く見ないと分からない程禍々しい夜に溶け込む様な翼に手の爪は伸び、口から鋭い牙が出ている。

緋鞠「なんと面妖な…」

ソフィア「ドーパントになっても気配が全然感じとれないよ」

少女「あら？吸血鬼が気配を出したまんまで人を襲うかしら？まあ、怯えさせる為に出すけどね」

「???」
「だつたらとつとと終わらして貰つぞ」

「???」
「その通りですね」

少女「っ！」

構える緋鞠とソフィアに少女がそう言うと2つの声が出た後に少女の後ろからアクセルとナスカが現れ、斬りかかるが避けられ、2人は翔太郎達と合流する。

翔太郎「俺たちも行くか」

そう言うと同時に翔太郎はダブルドライバーを装着し、トリガーマモリを取り出し、ガレージの方のフィリップはウォーターメモリを取り出してスイッチを押す。

ウォーターメモリ「ウォーター！」

トリガーマモリ「トリガー！」

翔太郎&フィリップ「変身!!！」

そう言うと同時にフィリップが刺したウォーターメモリは意識と共に翔太郎の元に送られ、翔太郎はトリガーを刺すと同時に開く。

ダブルドライバー「ウォーター！トリガー!!！」

その音声と共に翔太郎の姿は『仮面ライダーWウォータートリガー』へと変わった。

WWT「さあ！お前の罪を数える！」

そう言うと同時にトリガーマグナムを構える。

トリガーマグナムから放たれた水の銃弾が少女に向かって行き、少女がそれを避けると同時にアクセルとナスカが切りかかる。

それに少女は両手の爪で受け止めた後に弾き返すが…

緋鞠「隙だらけじゃ！」

ソフィア「とりゃあ！」

そこに剣を持ったソフィアと共に緋鞠が安綱で少女に切りかかる。

それに少女は舌打ちした後にはバックステップで避ける。

少女「やるわね…けれど、空中ではどうかしら？」

そう言うと同時に少女は飛び上がり、周りにエネルギー状の蝙蝠を作り出すとそれでWWT達を攻撃する。

WWT（翔太郎）「ちっ！」

アクセル「はっ！」

エンジンブレード「エレクトリック」

それにWWTはトリガーマグナムで自分達に来る攻撃を打ち落とすて行き、アクセルもエンジンブレードから電撃を放して打ち落とす。

その間にナスカが飛び上がり、少女に攻撃する。

少女「っ！飛べるなんて！」

ナスカ「君だけが飛べる訳じゃないんだよ」

驚いている少女にナスカはそう言った後に切りかかる。

少女はそれを避けた後にナスカに攻撃を放つがナスカはそれを避けて行く。

フィリップ
WWT「翔太郎！メモリチェンジだ」

WWT（翔太郎）「ああ！」

フィリップの言葉に同意した後にダブルドライバーからメモリを2本抜くと今度はルナメモリとジョーカーメモリを取り出して装填する。

ルナメモリ「ルナ！」

ジョーカーメモリ「ジョーカー！」

ダブルドライバー「ルナ！ジョーカー！！」

その音声の後にWWTは『仮面ライダーWルナジョーカー』へとハーフチェンジした。

WLJ「させと…吸血鬼を取るとしますか」

飛白「…って相手は上にいるのよ、どうやってやるのよ？」

W L Jの言った事に飛白が首を傾げた時…

W L J「おりゃあ！」

緋鞠「!?!」

リズリット「はいつ!?!」

静水久「…まじかなの…」

ソフィア「おおっ!?!」

飛白「あつ、ありえない…!」

W L Jの右側の腕が伸びた事に初めて見る緋鞠とリズリットは驚き、静水久は目を開き、ソフィアは目を輝かせ、飛白の口から驚きの吐きが漏れる。

少女はW L Jの行動に気づいた時は足を掴まれて地面に叩き付けられる。

W L J「行くぞ」

よろける少女を見ながらW L Jはジョーカーメモリを抜いた後にマキシマムスロットに装填する。

ダブルドライバー「ジョーカー!マキシマムドライブ!」

その音声の後、W L Jが正中から分割され、さらにルナサイドが複

数に分身した後、同時に腕を伸ばし少女に連続攻撃し、最後にジョーカーサイドが止めを入れる。

W L J「ジョーカーストレレンジー!!」

必殺技を言うと同時にジョーカーサイドがチョップを叩き入れるが…

W L J「何っ!?!」

なんと、少女は蝙蝠となって止めの一撃を避けた。

そして再び少女の姿に戻るとニヤリと笑う。

少女「ひゃひゃしたけど…今見た通り、私に必殺技を当てれるかしら?」

ナスカ「ならば蝙蝠を狙うだけです」

ナスカドライバー「ナスカ!マキシマムドライブ!」

挑発する様に言う少女にナスカはマキシマムドライブした後少女に突っ込む。

少女は蝙蝠化して避けようとするが…

ナスカ「甘いよ!」

そう言うと同時にナスカは高速移動し、全ての蝙蝠を切った…筈だったが…

少女「あらあら…どこを切ってらっしゃるの？」

ナスカ「なっ!?!」

上からした声にナスカは頭上に顔を向けた時に攻撃が放たれ、それを高速移動で避けるとW L J達の所に戻る。

アクセル「厄介な相手だ…」

W L J（翔太郎）「確かに、一筋縄じゃあいけねえな…」

メタルメモリ「メタル!」

呟くアクセルの隣でW L Jが同意した後にジョーカーメモリを抜いた後にメタルメモリを取り出すと装填する。

ダブルドライバー「ルナ!メタル!」

その音声の後にジョーカーサイドがメタルに変わり『仮面ライダー
Wルナメタル』にハーフチェンジした。

W L M（翔太郎）「くらえ!」

出現したメタルシャフトを握り、振るうとメタルシャフトは伸びて少女に向かって行くが…

少女「無理無理、そんなのじゃ私を倒すなんて無理よ」

笑いながら蝙蝠状態になって少女は避けて行く。

WLM（翔太郎）「ちっ！厄介にもほどがあるぜ」

フィリップ
WLM「確かにそうだね…（ヒュン）ん？」

避ける相手にWLMが舌打ちしてフィリップが同意した時に何か
WLMに投げられ、それをWLMはキャッチする

WLM（翔太郎）「これは…また新しいメモリか？」

そのメモリは色は藍色で夜をイメージさせるNがガイアディスプレイに映っていた。

WLM（翔太郎）「これは一体…」

フィリップ
WLM「（これもシュラウドなのか…）どうするんだい翔太郎？」

そのガイアメモリを見て呟く翔太郎にフィリップが問うと…

WLM（翔太郎）「一か八かだ！これを使うぞフィリップ！」

そう答えた後、ダブルドライバーからルナメモリを抜いて、そのガイアメモリのスイッチを押す。

ガイアメモリ「ナイト！」

その音声の後、新たなガイアメモリ、ナイトメモリを装填して開く。

ダブルドライバー「ナイト！メタル！！」

その音声の後にルナサイドが藍色のナイトに変わり『仮面ライダー

Wナイトメタル』へと変わった。

少女「何になっただって私には当たらないわよ！」

そう叫ぶ少女にWNMはメタルメモリをダブルドライバーから抜くとメタルシャフトのマキシマムスロットに装填する。

メタルシャフト「メタル！マキシマムドライブ！！」

その音声の後にWNMはメタルシャフトを構えると集中する。

数秒の静寂の後…

WNM「っ！」

WNMは駆け出した…飛白に向かって…

飛白「えっ！？」

亜樹子「えっ、ちょ！翔太郎君！？敵はあっちあっち！！」

自分に向かって走って走って来るWNMに飛白は驚き、亜樹子も驚きながら少女を指差すがWNMは方向を変えない。

アクセル「何をする気だ左！」

慌てて止めようと走るアクセルをナスカが制す。

アクセル「止めるな園咲 霧彦！」

ナスカ「君も待ちなさい刑事、もしかしたら探偵君は何か考えがあるんだと僕は思うよ」

その間にWNMは飛白に向かってメタルシャフトを突き出す。

もう駄目！と手で顔を隠す亜樹子だったが…

少女「ばっ、馬鹿な…」

聞こえて来たのは飛白の声ではなく少女の驚きの声であったので亜樹子は恐る恐る手を離すと…

メタルシャフトが飛白をすり抜け、後ろの空間を突いていた。

WNM「メタル・ミストクラッシュ」

静かにWNMがそう言うとはもなかった空間から少女が現れ、後ろに倒れこむと同時にガイアコネクタからヴァンパイアメモリが飛び出て、壊れる。

それと同時に空中に飛んでいた少女が消えて行く。

亜樹子「えっ、えっ！？どう言う事!？」

アクセル「どうなってるんだ？」

緋鞠「若殿…説明してくれないかのう？」

今の状況に亜樹子は啞然としながら少女とWNMを見て、緋鞠が構えを解いたWNMに聞く。

WNM（翔太郎）「それはだな…」

そう言つてWNMはメタルシャフトを持ってない方の腕に振るうと…なんと腕に当たろうとしていた部分が霧となつてすり抜けたのだ。

フィリップ
WNM「使つて見て分かつた事だけど、このナイトのメモリは夜だけど武器やWの体の一部を霧へと変える事が出来たり、どんな気でも感じ取れる様になるんだ」

WNM（翔太郎）「そのお陰で今まで戦っていた奴は偽者で本物は各務森の後ろにいたのを感知出来たんだよ」

ソフィア「あゝそうだったのかゝ我ヒヤヒヤしたよ…」

飛白「ホントよ」

フィリップの説明と翔太郎の言葉にソフィアははあゝと息を吐き、飛白が同意して頷く。

照井「何はともあれ、逮捕だ」

変身を解いた照井はそう言つと気絶してる少女の手に手錠をかける。

飛白「後、これね」

飛白はそう言つとお札を取り出して少女の腕に貼り付ける。

亜樹子「何それ？」

飛白「これは妖の力を普通の人と同じ位に弱めるお札よ、これなら逃げられないわ」

照井「協力感謝する」

聞いて来た亜樹子に飛白がそう答えた後に照井はそう言う。

翔太郎「（事件は終わった。犯人の吸血鬼の少女は各務森が専用の場所に連れて行くと言っていた…俺が探偵に…そして仮面ライダーになって初の人とは違う者が犯人の事件だった。今回の様な事件が起きるだろうが何だろうとこの風都や風都に住む人や妖を泣かせる奴を止めてみせる…）」

報告書を書いた後に翔太郎は目の前に置かれたブレードメモリ、ウオーターメモリ、ストロングメモリ、ナイトメモリへ目を向ける。

翔太郎「（ブレードやウオーターはともかく、ストロングとナイトもシユラウドの贈り物か…あいつは何個持つてるんだ？）」

4つのメモリの内、ブレードメモリを手にとって翔太郎が心の中で呟いた時…

ドカーン！

いきなり探偵事務所の扉が吹き飛ばす。

亜樹子「いきなり何！？」

緋鞠「まさか若殿を狙う者か!？」

飛んで来たドアを見て驚く亜樹子の後に緋鞠が安綱を持って警戒し、
静水久も何時でも迎撃出来る様に構えるが…

ソフィア「ヤッホ〜 我、遊びに来たよ〜」

飛白「遊びに来てで扉を吹き飛ばす奴がいないでしょ!」

バチーン!!

笑顔で言うソフィアに飛白が頭を叩いた後に頭を下げる。

飛白「ごめんなさいね、こいつがドアを吹き飛ばして、後で請求するわ」

亜樹子「あつ、どうも」

静水久「間際らしいなの…」

緋鞠「まったくじゃ、それで遊びに来ただけかのう?」

ふう〜と息を吐く静水久の後に緋鞠が問うと飛白は肩をすくめた後に言う。

飛白「まあ、それ以外にあなたに何時かちよつとした模擬試合をしないかの誘いをね、私もソフィアのように剣術を扱うから」

緋鞠「なるほど…何時でもいいぞ」

フィリップ「…話してる所割り込ませて貰うけど…翔太郎、大変な事になってるよ」

2人の会話に割り込んだフィリップの言葉に彼が指す方を見ると…

リズリット「ご主人様しつかり！」

翔太郎「あゝなんか爺ちゃんが手を振ってる…」

亜樹子「翔太郎君、そっち行っちゃ駄目!!」

ソフィアが吹っ飛ばしたドアにぶつかって色々と危ない状況になってる翔太郎を介抱するリズリットと亜樹子がいた。

緋鞠「若殿!!」

飛白「バカ!! 思いつきり被害出てるじゃない!!」

ソフィア「おう…」

それに緋鞠は悲鳴を上げて駆け寄り、飛白はソフィアの頭を叩き、ソフィアは冷や汗を流す。

照井「…なんだこの状況は？」

後から来た照井はその光景にそう呟いた。

第5話：吸血鬼のB / 各務森家の鬼斬り役（後書き）

今回の仮面ライダーWは！

「私にメイドとして心得を教えてくれた人がいるんですよ」

「久しぶりですね翔君」

「もしかして…くえす？ めっちゃ久しぶりだな！ 小学校以来か！？」

「翔君は渡しませんわ！」

「緋鞠は俺の家族だ！ 妖だろうがなんだろうが、俺は緋鞠を…この風都と同じ様に俺の家族を守る！」

第6話：幼馴染のF / 黄昏の月の魔法

これで決まりだ！

NEWメモリ

ナイトメモリ

『夜の記憶』が入ったWのソウルメモリ、使う事でWの体や武器を霧に変える他、気配探知に敏感になる。ジョーカーメモリと組み合わせる事で体を霧に変える事が出来る。メタルメモリと組み合わせるとメタルシャフトを1部分を霧に変える事が出来る。トリガーメモリと組み合わせると銃弾を飛ばした所でWの意思で途中で霧にして相手に当たる直前で戻るエネルギー弾となる。ブレードメモリと組み合わせるとメタルシャフトと同じ感じになる。ストロングメモ

りは霧になる拳圧を放す事が出来る。

第6話：幼馴染のF／黄昏の月の魔法（前書き）

士「6話目の始まりだ」

ユウスケ「新ライダーも登場だな」

天道「その力は下で見る！」

第6話：幼馴染のF / 黄昏の月の魔法

吸血鬼事件から6日後の朝…

翔太郎「……………おもてえ…」

寝ていた翔太郎は自分の体の上にある重さに目を開けると…

翔太郎の予想通りか、緋鞠や静水久が上にいて…

他にソフィアや先がハネたショートヘアにツリ目と巫女風の服だが、帽子をかぶった女性に前髪で片眼が隠れている可愛い女の子もいた。

翔太郎「お前ら乗り過ぎ！！！！！」

フィリップ「ハーフボイルド…だね」

亜樹子「フィリップ君…それ前にも言わなかった…」

翔太郎の怒声を聞きながらフィリップはそう呟き、亜樹子がそうツッコミを入れる。

数分後

翔太郎「お前らマジで人の寝所に潜り込むなよ！！…特に緋鞠！お前には前にも言ったろ！！！」

緋鞠「じゃ、じゃからあれは若殿をな…」

翔太郎「……………#」

緋鞠「ごめんなさい！」

床に正座した緋鞠達に翔太郎は怒鳴り、緋鞠が弁解しようとして翔太郎に睨まれて謝る。

ちなみにソフィアだけ、後から来た飛白に鉄拳を受けた後に隣で説教されている。

???「まったくソフィアは…姉様の手をわずわらせないでよね…」

呆れてそう言うのは飛白の隣にいる彼女の妹の『各務森 飛鈴』、2日前に飛白とソフィアに連れられて探偵事務所へ着た。

亜樹子とウマが合ったのか亜樹子からスリッパを貰っている。

女性「別に良いじゃないか寝る位？男にとって嬉しいもんでしょ」

少女「…萌えだよネ？」

翔太郎「あのな『明夏羽』…あんなとこ見られたら俺は変態のレッテル貼られるわ！！ 後、『沙砂』！ 付け加えるな！！」

女性『明夏羽』と少女『沙砂』の発言に翔太郎は怒鳴った後にはあゝと自分が使っている椅子に座る。

なお、明夏羽と沙砂は妖で、明夏羽は飛縁魔^{ひのえんま}という妖、沙砂は一本ダトラ（いっぽんだたら）という刀鍛冶の妖である。

そんな彼女達も2日前に翔太郎達の前に現れた後に探偵事務所に居座っている。

その際、事件があつたがそれはEXで話そう。

後、この小説では沙砂は女の子です。

色々あつた6日間と今の状況に翔太郎はふうくと息を吐く。

ガチャッ

リズリット「おはようございます 紅茶を持って来ました」

そこに事務所のドアを開けてリズリットが手に持ったポットを見せる。

カフェ・リリッシュが直つた後、こうして毎朝紅茶を持って着ている。

リズリットが入れた紅茶を飲む中、亜樹子がふと疑問に思った事を言う。

亜樹子「それにしても…リズリットちゃんって、何でメイドになつたの？紅茶を広げるなら他にも色々方法があると思うんだけど？」

明夏羽「確かにそうだね…」

静水久「何でなつたなの？」

明夏羽が同意し、静水久が聞く。

リズリット「私にメイドとして心得を教えてくれた人がいるんですよ」

沙砂「へえ〜」

皆に注目されてちょっと頬を赤らめて言ったりリズリットに沙砂が関心の声を上げる。

リズリット「私って付喪神じゃないですか？あんまりその場にいられないから色々な場所を転々としてたんですけど…数年前にちょっとドジっちゃって困ってる所をその人に拾われて、その人の下でその人が卒業するまでいました」

亜樹子「ふう〜ん……ん？”卒業するまで”？」

ソフィア「それって…その人学生さんだったのか？」

フィリップ「その学園は何なんだい？」

リズリット「はい、それでフィリップさんの問いに答えるならメイド学園です」

フィリップの問いに答えたりズリットの答えに…一同は納得した。

翔太郎「そこに入ればメイドになってるのはそうだよな…」

緋鞠「それで…その人物の名前は何じゃ？」

そう言った後、紅茶を飲む翔太郎を尻目に緋鞠が聞く。

リズリット「名前は神宮寺 くえすです」

ぶほっ！！！！

それを聞いた翔太郎、飛白、飛鈴は飲んでいた紅茶を嘔き出して咳き込む。

緋鞠も緋鞠で眉を潜めていた。

亜樹子「ちよつと翔太郎君に飛白ちゃんと飛鈴ちゃん、いきなり吹いて」

ソフィア「そうだよ2人とも我はいきなりだったから驚いたぞ」

飛白「けほけほっ…あんたねえ、私達といるから知ってるでしょ！」

飛鈴「ねっ、姉様の言う通りよソフィア、あなたも会った事あるでしょ？」

静水久「…どう言う事なの？」

フィリップ「鬼斬り役十二家の末席『神宮寺家』の跡取り娘だからだよ…それで翔太郎も何で驚いてるんだい？」

咳き込む2人にソフィアが首を傾げ、落ち着いた後に言った2人の言葉に静水久は聞き、フィリップが答えて、翔太郎を見る。

翔太郎「……………なんだよ（ボソリ）」

亜樹子「はい？ 何て？」

ボソリと言った翔太郎に亜樹子は問い…

翔太郎「幼馴染なんだよ…その神宮寺 くえすとは…」

緋鞠とフィリップを除いたメンバー「ええ〜!？」

静水久「…驚きなの」

沙砂「驚きだね」

翔太郎の発言にメンバーは驚きの声を上げる。

その頃、風都署では…

刃野「おい真倉、どうやら新しい人員が此処に配属されるそうだな」

真倉「マジですか？」

書類を整理している刃野の言葉に真倉は書類から顔を上げて言う。

刃野「しかも聞いた話によると女で警部だが照井課長と同じ位優秀だそうだな。もう1人は俺達と同じ刑事でその警部のお目付け役だそうだな」

真倉「はあ……ん？照井課長と同じ位優秀なら警視になってるんじゃないっすか？ 何で警部何っすか？」

関心の声を上げた後に真倉はすぐさま疑問を刃野にぶつける。

刃野「これも聞いた話だが……どうもその警部は色々と優秀だがその分、ちよつと行き過ぎた所があるからその階級だそうだ」

真倉「はあ……」

そう話していると扉が開き、照井が入って来るとその後ろから……銀髪ストレートのロングヘアにヘッドドレス風のカチューシャをつけている。ツリ目で額に三日月形の模様を付けている……胸元が大きく開いた黒のゴスロリを着た女性が入って来た。

真倉「（照井課長以上に刑事らしからぬ人来たあああああああ！！！！！！）」

予想以上の人物に真倉は心の中で叫ぶ。なお、その後ろに女性より年上の男性がいたが女性の印象が強すぎたので真倉は気づいてない。

刃野「ええつと照井課長……その2人が新しく配属された刑事と警部ですか？」

照井「ああ……自己紹介してくれ」

刃野の問いに照井はそう返した後に2人に言う。

女性「今日此処に配属されました『神宮寺 くえす』と申します。階級は警部ですわ」

男性「そのお目付け役兼補佐を勤める『鎬木 兵吾』です。階級は刑事です」

それぞれの名を聞いて女性、くえすに刃野は目を開いて驚き、自己紹介を聞いていた真倉はそんな刃野に首を傾げ、声をかけようとして…

刃野「くえす！？もしかして翔太郎と良くいたあのくえす！？」

くえす「そうですわ、私が小学校を卒業してからですからお久しぶりですわジンさん」

そう言つて驚く刃野にくえすは微笑む。

照井「刃野刑事、彼女と知り合いなのか？」

刃野「ええ、翔太郎とこいつが小さい時からの知り合いでね…小学校を卒業した時にこいつは家の都合で引越してそれっきりだったんですけどね…おっと今は警部だから敬語が必要かい？」

くえす「いりませんわ。何時も通りをお願いしますわジンさん」

照井の問いに刃野は笑つてそう言つた後にくえすはそう言つ。

くえす「それでジンさん、翔君は？」

刃野「探偵になつて突き進んでるよ。源爺さんに言つた夢をな」

くえす「そうですか…流石翔君ですわ／／／」

傷様と哀れみの目で真倉を見ている。

くえす「さつさと翔君の所へ案内しなさい！」

倉「ちよつ！警部！首が！首がああああ！！！」

くえすに首元を掴まれ、真倉は叫びを上げながら消えて行った。

刃野「やれやれ…小学校の時から変わってないな…」

鎚木「あなたも苦労してたんですね…どうです？ 仕事終わった後にちよつと愚痴りませんか？」

刃野「良いね」

照井「…台風な女だな…」

それを見届けた後に刃野と鎚木は仕事終わりの飲み会の話しをして照井はくえすの走った後を見てそう言う。

戻って探偵事務所

明夏羽「へえ〜それがその神宮寺 くえすとの出会いか」

翔太郎「それで小学校を卒業するまで一緒だったんだよ」

こちらはこちらで翔太郎からくえすについて聞いていて、今思い出話をしていた。

緋鞠「……………」

そんな中で緋鞠が頬を膨らましてぷいっと顔を逸らしていた。

沙砂「どうしてむくれてるの？」

それに気づいた沙砂が緋鞠に話しかけるが何でもないと言って顔を逸らす。

亜樹子「もしかして…そのくえすちゃんに嫉妬してるの？」

リズリット「ご主人様のお爺様の家へ遊びに来た時に独占されてたからですね」

緋鞠「ちっ、違うぞ！べっ、別にくえすの奴に若殿の膝を取られたとか！撫でられてる所が羨ましいからむくれとる訳でないぞ！！」

静水久「それ思いつきり嫉妬なの」

フィリップ「成る程…これがツンデレか…」

がぜんが言ったとばかりに言う亜樹子と付け足すリズリットに緋鞠は顔を赤くして言い訳するが静水久にそう突っ込まれ、フィリップはずれた発言をする。

翔太郎「しっかし…くえすがまさか爺ちゃんと同じ鬼斬り役とはな…」

明夏羽「どんな奴か見てみたいわね」

頬杖を付いた翔太郎の言った後に明夏羽がそう言った途端

バン!!!

事務所の扉がいきなり弾け飛ぶか飛ばない位に開き、それに翔太郎達がぎよつとなり、各々に構えた時…

??? 「此処ですわね」

現れたのは…右手に目を回してぐったりしている真倉を連れたくえすで…翔太郎を見ると微笑んで…

くえす「久しぶりですな翔君」

翔太郎「もしかして…くえす?めっちゃ久しぶりだな!小学校以来だな!」

翔太郎がそう言った後にくえすは真倉をぽいつと投げ捨て(その後)に亜樹子と飛鈴がソファへ寝かせた)…

くえす「はう…久々の翔君ですわノノ」

翔太郎「お前な…」

翔太郎に頬を赤らめて抱き付きスリスリとさせるくえすにされてる翔太郎は呆れ顔になる。

緋鞠「いい加減離れるのじゃ!この泥棒が!」

くえす「何ですかいきなり！と言つかあなたはあの猫ですわね！」
猫耳と尻尾を出して割り込んできた緋鞠にくえすはそう言つと懐から本を取り出す。

くえす「翔君は渡しませんわ！」

緋鞠「抜かせ！それはこちらの台詞じゃ！」

静水久「猫に同じくなの…翔太郎は取らせない…」

明夏羽「そうそう、あいつは渡さないよ」

沙砂「大混戦だ〜」

緋鞠も安綱を構え、静水久や明夏羽も戦闘態勢を取り、沙砂も調子に乗って煽る。

翔太郎「お前ら此処で暴れるな！！」

ソフィア「いや〜私も参加しようかな〜」

飛白「あんたも乗らないの！！」

それに翔太郎は怒鳴り、ソフィアに飛白は怒鳴り、飛鈴がスリッパで叩く。

亜樹子「（翔太郎君…城戸さんの様になってるよ…）」

その光景に亜樹子は別世界で知り合った翔太郎とフィリップと同じ

仮面ライダーで赤貧トリオの1人である赤き龍騎士を思い浮かべて冷や汗を流す。

数分後、落ち着いた後にリズリットの紅茶を飲んでいた。

翔太郎「それにしても…まさかくえすの話をしていたら本人が着てるなんてな…しかも髪の色が変わっていたもんだから一瞬誰か分かんなかったぜ」

くえす「翔君、私の事を話してたなんてノノノ」

そう言った翔太郎にくえすは頬を赤くしてイヤイヤと嬉しそうに顔を振る。

亜樹子「それにしても…くえすちゃんって普段は何してるの？…マッキーが引きずられていたけど…」

真倉「真倉だ〜」

亜樹子の言葉にまだ全快していないが真倉はツッコミを入れる。

くえす「普段？普段は…風都署の超常犯罪捜査課に所属する刑事ですわ」

そう言って懐から警察手帳を取り出して翔太郎達に見せる。

翔太郎「へえ〜お前、刑事になってしかも階級は警部なのか…」

くえす「ええ、翔君をサポートする為に勉強しましたわ」

亜樹子「あれ？リズリットちゃんから話を聞いたけど…メイド学園に通ってたんだよね？」

亜樹子の言った事にくえすはリズリットを睨む。

それにリズリットは怯える。

翔太郎「まあ…それはともかく、くえす、またよろしくな」

くえす「ええ…それと翔君、私と風都を歩きませんか？ 私は小学校以来ですから知ってる場所が変わってると思いますから」

笑って言う翔太郎にくえすは頼む。

翔太郎「OKだ、色々と見て行こうぜ」

明夏羽「それじゃあ私も良いか？私も来たばかりだから」

沙砂「沙砂も行く」

翔太郎の了承と同時に明夏羽と沙砂も便乗し、その後に緋鞠も翔太郎とくえすが長く一緒にいるのが嫌で同行し、フィリップを除いたメンバーが行く事になった。

静水久「…今更だけど…お前、お店の方は大丈夫なの？」

リズリット「はうあ！？先輩が来てから連絡するの忘れてました！」

リズリットが店長に電話をかけて訳を言った後に翔太郎達はくえす

と事務所を出る。

くえす「やっぱりこの街の風は良いですわ」

翔太郎「ああ…俺もこの街の風が一番好きだ」

歩きながら目を閉じて言い、翔太郎も同意して顔を上に向けて青空を見る。

緋鞠「じゃが…その中で事件が起きとる…」

静水久「…そこがなんとも言えないの…」

明夏羽「だよね…私もあれ見た時は驚いたわ」

沙砂「沙砂も驚いた」

くえす「あれと言つと…ドーパントの事ですわね」

4人の言った事にくえすはメンバーを見て言う。

翔太郎「ああ…くえすはもう知ってるのか？」

くえす「ええ…此処に帰つて来る前に事前に調べて置きましたわ…
それでそのドーパントと戦う仮面ライダーの事も今の所、3人確認
されている事も知ってますわ」

亜樹子「うっ…ん、正確には4人なんだけどね…」

明夏羽「やっぱり短いからかね」

くえすの言った事に亜樹子はそう言い、明夏羽は頭を掻く。

それにくえすが疑問を感じて聞こうとした時…

ドカーン！！

いきなりの爆発に一同は驚いた後にした方へ向かう。

爆発がする4分前…

霧彦「此处か…」

とある建物を見て霧彦は呟く。

なぜ彼がいるかと言うと、誰もいない工場に誰かが何人も入って行くのを聞き、ウォッチャマンに調べて貰った後に着たのだ。

霧彦は注意深く見た後に中に入り、静かに進んで行く。

くくく！！くくく！！

進んで行き、話し声が聞こえた後に霧彦は身を乗り出して見る。

そこに…4人の人間がいて、男女2人ずつで何かを話していた。

気づかれない様に近づき、耳を澄まして4人の会話を聞き…その内

容に頭を抑える。

霧彦「（これは早く探偵君に伝えた方が良いな）」

がちゃん！

心の中で呟き、立ち去ろうとして足元に転がっていた缶を蹴ってしまい、それがドラム缶に当たると音が工場内に広がる。

男性「誰だ！？」

それに気づいた4人の内の1人の男性が叫んだ後に各自、ガイアメモリを取り出し…

「グリフォン」

「サーペント」

「アーヴァンク」

「サンダーバード」

それ等のスイッチを押してガイアコネクタに挿入する。

ドカーン！！

ナスカ「はっ！！」

女性になったサンダーバードの記憶が入ったガイアメモリになった
『サンダーバードドーパント』の雷撃を霧彦はすぐさまナスカにな
って避け、建物内から脱出したナスカは出て来る4体のドーパント、
サンダーバードドーパントにグリフォンの記憶のガイアメモリでな
った『グリフォンドーパント』、サーペントの記憶が入ったガイア
メモリでなった『サーペントドーパント』、アーヴァンクの記憶が
入ったガイアメモリでなった『アーヴァンクドーパント』を見る。

ナスカ「（あのメモリは…紫氏が言っていた『龍の牙の次元』に存
在する此処とは違う『Wの世界』にある『幻獣型ガイアメモリ』…
なぜそのメモリが此処に…探偵君から聞いたカメイラと言う奴らが
絡んでいるのか？）」

翔太郎「霧彦！」

そこに爆発を聞いた翔太郎達が来る。

翔太郎「あれは！」

ナスカ「別次元のガイアメモリでなった幻獣型ドーパントの様だ」

沙砂「別次元？」

4体のドーパントに驚く翔太郎にナスカがそう言い、亜樹子を除い
たメンバーは首を傾げる。

翔太郎「それよりも行くぞ！」

明夏羽「そうだね！」

翔太郎の言葉に明夏羽が同意した後、2人はナスカに並び、翔太郎はダブルドライバーを装着し…

明夏羽はロストドライバーに縦1列に付けられた3つのガイアメモリを装填するスロットが付いたドライバークトリニティロストドライバー』を腰に付けると懐からから3つのクリアホワイトのガイアメモリ『エッジメモリ』、クリアエローのガイアメモリ『ビームメモリ』、クリアレッドのガイアメモリ『シールドメモリ』を取り出し…

エッジメモリ「エッジ！」

ビームメモリ「ビーム！」

シールドメモリ「シールド！」

それ等をトリニティロストドライバーの左側に順番に上からエッジメモリ、ビームメモリ、シールドメモリと入れてる間に翔太郎もストロングメモリを取り出し、フィリップの方はサイクロンメモリを取り出す。

サイクロンメモリ『サイクロン！』

ストロングメモリ「ストロング！」

翔太郎とフィリップがガイアメモリのスイッチを押した後、明夏羽は最後にクリアパールのガイアメモリ『アームメモリ』を取り出しスイッチを押す。

アームメモリ「アーム」

翔太郎&フィリップ「変身!!」

明夏羽「へ〜んしん!!」

ダブルドライバー「サイクロン!ストロング!!」

Tロストドライバー「アーム!!」

その音声の後に翔太郎は姿は右はサイクロンサイド、左がストロングサイトになった『仮面ライダーWサイクロンストロング』へと変身。

明夏羽はWを基本に顔はゼロノスアルティフォームで足は龍騎にした感じの目の色が緑の体の色が紫のライダー『仮面ライダーアーム』へと変身した。

くえす「翔君が仮面ライダー!?!しかも妖までも!?!」

飛白「まあ…驚くわよね」

驚くくえすに飛白はうんうんと頷いて同意する。

Tロストドライバー「アームエッジ!」

その間にアームはエッジメモリが装填されたスロットにあるボタンを押すと、腕と胸の部分がクリアホワイトになり、腕に刃『アームエッジ』が装着される。

WCS「行くぞ2人共!」

アーム「ええ！」

ナスカ「ああ！」

WCSが言った後、サンダーバードドーパントにナスカが、グリフオンドーパントにはアームが、アーヴァンクドーパントにはWCSが向かう。

残ったサーペントドーパントには…

アクセル「はっ！！！」

どこから来たバイクフォームのアクセルが突撃して吹き飛ばし、アクセルはバイクフォームから戻った後…

アクセル「振り切るぜ！！！」

そう言うと同時にエンジブレードを構えてサーペントドーパントに向かって行く。

飛鈴「…これで2回目ですけど…ホントにドーパントは内蔵されている記憶によって妖よりも厄介な存在になりそうですね」

緋鞠「確かに、あの時の様に妖がガイアメモリを使えば厄介な存在にもなりそうですよ…」

4人のライダーとドーパントの戦いを見て眩いた飛鈴の言葉に緋鞠は同意してヴァンパイアのメモリを使用した吸血鬼の少女を思い出して言う。

くえす「あなた達、話してる暇があるなら翔君達を援護しなさいな、その蚊はあの妖が変身したライダーを、猫と各務森姉はバイクになったライダーを、私は翔君が変身したライダーを援護しますわ」

リズリット「あのくえす先輩…私は？」「各務森妹と応援でもしてなさい」…確かに私はあんまりこれと言ったのなですけど…」

沙砂「それじゃあ沙砂は残った霧彦の援護する」

くえすの指示にリズリットは質問して、答えられた言葉にちよっと落ち込み、沙砂が手を上げてアピールする。

アーム「ああもう！ 空ばっか飛んでないで降りて来い！！」

空を飛んで攻撃して来るグリフォンドーパントにアームは怒鳴る。

彼女はW.L.J.の様に腕を長く伸ばせれるがアームに変身している間はそれは使えなくなるのだ。

そこに…

シューイン！

グリフォンドーパント「!?!」

どこからともなく、水がレーザー光線の如き勢いで飛んで来て、それがグリフォンドーパントの翼を貫くとグリフォンドーパントは地面へ落ちる。

静水久「これで飛べなくなったなの、早く決めるの」

アーム「ありがたいね…決めさせて貰うよ!!」

そう言うと同時にアームはエッジメモリが装填されたスロットのボタンを2回押す。

トロストドライバー「エッジ！マキシマムドライブ!!」

その音声の後に右腕のアームエッジにエネルギーが収束され、光り輝く。

アーム「これでその力にお別れしな!!」

そう言うと同時にアームはグリフォンドーパントに近づき、腰を落とす…

アーム「エッジ！アッパースイィイング!!!!」

アッパーパンチを放つ様にグリフォンドーパントをエッジで斬り上げるとグリフォンドーパントは空中で爆発する。

その後に壊れたガイアメモリと落ちて来た男性を静水久が水を集めてクッションを作るとそこで受け止めて、地面へ転がす。

ナスカ「むっ！はっ！」

ナスカは空中で高速移動しながら同じ様に飛んでいるサンダーバードドーパントの雷撃を避けながら手から光弾を出して応戦しているが相手も光弾を避けて行く。

ナスカ「（なかなか決まらないな…）」

それにナスカは仮面の中で眉を潜めていると…

沙砂「いつけえ〜」

沙砂の声と共に多数の柱らしきものがサンダーバードドーパントの頭上から現れ、サンダーバードドーパントに落ちて行く。

それにサンダーバードドーパントはそれを避けて行き、ナスカへの攻撃を止める。

沙砂「今だよ〜」

ナスカ「感謝するよ」

ナスカは地上にいる沙砂にお礼を言った後にナスカドライバーのスポットをを右に戻した後にまた左に動かす。

ナスカドライバー「ナスカ！マキシマムドライブ！」

その音声の後にナスカの右足にエネルギーが集まり、ナスカはサンダーバードドーパントに向かって行く。

それに気づいたサンダーバードドーパントが攻撃しようとした所で沙砂が出した柱らしきものに当たり、それに怯んでいる間にナスカが接近し…

ナスカ「はっ！！！」

1回転した後にエネルギーを纏った右足で回し蹴り『ナスカ・ローリングキック』をサンダーバードドーパントに炸裂させる。

サンダーバードドーパント「あああああ!!!」

それを受けたサンダーバードドーパントは地面へ落下してる途中で爆発し、変身していた女性をナスカは高速移動で早く回り込んで受け止めた後に地面へ下ろす。

ナスカ「この人を頼みます」

沙砂「分かった」

ナスカの頼みに沙砂は頷いた後、WCSの元へ向かう。

アクセル「むっ!!」

エンジンブレードでサーペントドーパントの鞭攻撃を弾いて行くアクセル、なかなか近寄れずにいた。

緋鞠「照井殿！手助けするぞ!!」

その言葉と共にそれぞれの刀を持った緋鞠と飛白がサーペントドーパントの攻撃を防いだ後にソフィアが割り込んで攻撃する。

ソフィア「いや〜我言われてなかったけど考えて着ました〜」

アクセル「感謝する」

ソフィアがそう言ってる間にアクセルは感謝のアクセルメモリを抜いた後にエンジンメモリを代わりに挿入してアクセルドライバのパワーロットルを捻る。

アクセルドライバー「エンジン！マキシマムドライブ！！」

その音声の後、アクセルはバイクフォームになると炎を纏いながらサーペントドーパントに突進して貫く。

ドカーーン！

アクセル「絶望がお前たちのゴールだ！」

爆発を背にしてアクセルはそう言う。

最後のWCSの方は…

WCS（翔太郎）「おりゃあ！」

アーヴァンクドーパント「ふん！」

お互いの力が互角でコブシをぶつけ合っていた。

アーヴァンクドーパント「…なぜだ…」

WCS（翔太郎）「あっ？」

ぶつけ合った後に距離を取った時、アーヴァンクドーパントの弦きにWCSは声が漏れる。

アーヴァンクドーパント「なぜお前は妖といる！妖は人間を害する存在だ！」

WCS（翔太郎）「…何言ってるんだこいつ？」

ナスカ「それが彼らがメモリを手に入れた理由だよ探偵君」

呆れた顔をするWCSにナスカが来て言う。

フィリップ
WCS「どう言う事だいナスカ？」

ナスカ「どうも彼らは妖により家族や大切な者を殺されたらしい…
それでメモリを使って復讐しようと言う訳だ」

WCS（翔太郎）「だからと言って！そんなの悲しみの連鎖を生むだけだ！」

ナスカの言った事にWCSはアーヴァンクドーパントに叫ぶ。

アーヴァンクドーパント「妖を殺したってそんなの生まれる訳ないだろ！」

WCS（翔太郎）「生まれる！例えばどんな者であろうと家族や友達に大切な人がいれば悲しみや涙が出来る…そんな事させねえよ！あいつ等は俺の仲間で…」

そう区切った後、WCSは叫ぶ。

WCS（翔太郎）「緋鞠は俺の家族だ！妖だろうがなんだろうが、俺は緋鞠を…この風都と同じ様に俺の家族を守る！」

緋鞠「若殿…」

くえす「（分かりますわ翔君、例えば仮面でその顔を覆ってしようと
その瞳に映す光…小さい時から私が好きな翔君があ探偵と出会っ
た後に放っていた決意の光だと言っ事を）」

WCSの咆哮にアーヴァンクドーパントは後ずさり、くえすは構え
るWCS…いや翔太郎を見て微笑む。

ヒュン！

WCS（翔太郎）「おっと！」

そんなWCSに何かが飛んで来て、WCSがそれをキャッチすると
それを見る。

それは…色がラベンダーでガイアディスプレイには神秘的な感じを
感じるMが描かれていた。

WCS（翔太郎）「シユラウドの奴…何個持つてるんだ…」

フィリップ
WCS「それで使うんだろ？」

ナイトメモリ「ナイト！」

ガイアメモリ「マジック！」

フィリップの問いに当然と答えた後にWCSはメモリを抜いた後に
ナイトメモリと新たなメモリ『マジックガイアメモリ』のスイッチ

を押した後に装填して開く。

ダブルドライバー「ナイト！マジック！」

その音声と共にWの右側がナイトサイドで左側がマゼンダーのマジックへと変わった『仮面ライダーWナイトマジック』へと HALFチェンジした。

アーヴァンクドーパント「この！」

突撃して来るアーヴァンクドーパントにWNMは専用武器『マジックトワリング』を取り出し、それを振るうと数発の魔力弾が放たれる。くえすも遅れて本を持った後に手から火炎弾を放つ。

アーヴァンクドーパント「そんな物！」

アーヴァンクドーパントは強烈な爪で切り裂こうした時…

スッ…

なんと魔力弾は切り裂かれる前に四散する。

それにアーヴァンクドーパントの動きが止まった時…

ドドドドドドン…！！！！

アーヴァンクドーパント「ぐわっ！！！」

様々な方向から魔力弾が再び現れて、遅れて来たくえすの魔力弾と共にアーヴァンクドーパントにヒットして行く。

WNM（翔太郎）「決めるぜフィリップ」

フィリップ
WNM「ああ！翔太郎！」

マジックメモリ「マジック！」

よろけるアーヴァンクドーパントを見つえながらマジックメモリをダブルドライバーから抜いてマジックトワリングのマキシマムスロットに装填する。

マジックトワリング「マジック！マキシマムドライブ！！」

その音声の後、WNMがマジックトワリングを振るうとアーヴァンクドーパントの周りにさっきより沢山の魔力弾が出現して全方位覆い…

WNM「マジック！」

WNMが振り下ろすと同時に…

WNM「ナイトファンタズム！！」

一斉にアーヴァンクドーパントへ突撃して行く。

アーヴァンクドーパント「そんな！そんなああああああ！！！！」

ドカーーン！！

WNMの必殺技『マジックナイトファンタズム』を受けながらアーヴァンクドーパントは叫びを上げた後に爆発して、その場に壊れたガイアメモリを掴む男性が倒れていた。

男性「あつ、ああ…」

まだ気を持つ男性に変身を解いた翔太郎が近寄り、右手を銃の様に構えて…

翔太郎「さあ、お前達が起こそうとした罪が何なのか考えて反省しろ」

そう言うと男性はそれを最後に気絶した。

翔太郎「（今回は大事になる前にガイアメモリを所持した者達を止める事が出来た…世の中には妖に奪われてしまった者がいる事を今回の事で改めて認識した…だからこそ…俺はそんな奴らを止めたい…仮面ライダーとして、そして探偵として…）」

そう打ち終えた後に目の前の光景にふうくとため息を付く。

くえす「だから翔君のお嫁さんは私ですわ!」

緋鞠「そんな事させぬ!若殿の隣は私のじゃ!」

静水久「…お嫁さんは家事担当出来る女が一番、ならばそれは私なの」

リズリット「わっ、私やくえす先輩だつて出来ますよー!!」

明夏羽「私も翔太郎が欲しいね」

沙砂「沙砂も立候補する」

ソフィア「我は何人目でもOKだよ」

飛鈴「姉様…」

飛白「そうね…」

色々言い争ってる女性陣に翔太郎は頭を抑える。

亜樹子「…翔太郎君って無自覚過ぎるよね…」

霧彦「そうだね…」

翔太郎「お前らも止めるの手伝えよー!!」

ひそひそと話す亜樹子と霧彦にそう言った後に翔太郎は息を付いた後に止めに入る。

第6話 Q.E.D

第6話：幼馴染のF／黄昏の月の魔法（後書き）

次回の仮面ライダーWは！

「今度は幽霊騒ぎか…。」

「これもドーパントの仕業かな？」

「やっぱり学園と言っなら制服でしょ？」

「零！見つけたわよ！」

「誰だよ零って！？」

「学内で暴れないで欲しいね」

第7話：学園のG／精神を乱す者

これで決まりだ！

NEWメモリ

マジックメモリ

『魔術師の記憶』が入ったWのボディメモリ。使う事でマジックトワリングを使って戦うスタイルになる。ナイトメモリと相性が良い。

サイクロンメモリと組み合わせる事で風を利用した戦いを、ヒートメモリと組みあわせる事で炎を使った戦いを、ルナメモリを使用する事で幻影を作り出す。ウォーターメモリと組み合わせる事で水を利用した戦いを、ナイトメモリと組み合わせる事で魔力弾を霧へと変えて戦う。

EX第3話：新たなA / 明夏羽と沙砂と飛鈴との出会い（前書き）

士「EX第3話は第6話で出た明夏羽達との出会いだ」

渡「どう言う出会いかは読んで見てください！」

巧「それじゃあ始まるぞ」

EX第3話：新たなA / 明夏羽と沙砂と飛鈴との出会い

????「こいつが左 翔太郎…」

とある森で1人の女性が写真に写る翔太郎を見て呟く。

そこに片目が髪で隠れた少女が来る。

少女「どうしたの？」

女性「ちよつとね気になったんだよ…この探偵って言ってる鬼斬り役をね」

少女の問いに女性は写真の翔太郎の顔をピンと指で弾いた後にそれを仕舞い、歩き出す。

女性「行くよ、左 翔太郎の所へね」

少女「お〜」

女性の言葉に少女は答えた後に歩き出す。

探偵事務所にて…

翔太郎「んで…お前は何で来たんだ？にとり」

翔太郎は訪れた緑色の服を着た少女、河城 にとりを見て聞く。

にとり「いや、新しいドライバーとメモリを作ったから翔太郎に預けようと思ってね」

フィリップ「新しいメモリとドライバーを作ったのかい？」

手に持っていたケースを見せて言うにとりの言葉にフィリップが顔をあげて言う。

にとり「うん！ドライバーのデータがあったからどうせなら変わった奴を作ろうと思ってね。メモリはそれのついでだよ」

緋鞠「うぬ、聞いて見るとそれを使えば若殿と同じライダーになれるのじゃな？」

にとりの言葉に緋鞠が聞く。

静水久「どうなの？」

にとり「なれるけど…あんた達じゃ無理だね」

亜樹子「どうして？」

にとり「このドライバーと一緒にある変身の要になるメモリにあんた達を選ばれなかった。それだけさ」

霧彦「メモリが選ぶって事が」

にとりの言葉に全員がケースを見る。

にとり「ほんじゃあそれ預けるからね」

翔太郎「あっ！おい！…たくっ、どうしようかね…」

亜樹子「中身見てみる？」

手をひらひらさせて事務所を出るにとりに翔太郎は頭を掻く。

そんな翔太郎に亜樹子は言う。

翔太郎「いや、こう言うのは装着者が見つかったからで良いだろう」

亜樹子「けど…もし紛失した時には分かんないじゃん」

リズリット「亜樹子さんの言う通りですよ。見ましようよ」

翔太郎の言葉に亜樹子はそう反論し、リズリットも亜樹子に同意して言う。

ソフィア「こんにちわ」

飛白「お邪魔するわよ」

2人に頭を掻く翔太郎を知らずにソフィアと飛白が来る。

翔太郎「よう…後ろの子は？」

飛白「私の妹の飛鈴よ…飛鈴、彼等が私が言っていた人達よ」

飛鈴「あなた達が…鬼斬り役ですか？」

返した後に翔太郎は飛白の後ろにいた少女、飛鈴を見て聞き、飛白が前に出して言い、飛鈴の言葉に翔太郎はよろける。

翔太郎「爺ちゃんは鬼斬り役だけど俺は探偵だ！一緒にすんなよ」

飛白「行く前に言ったでしょ……」

飛鈴「けれどあの天河家の天河 源之介の孫なんですよ。実は鬼斬り役じゃないかそう思うじゃないですか？」

帽子をかぶる翔太郎に飛白はため息を吐き、飛鈴がそう言う。

飛白「あなたね……」

ソフィア「およ、そのケース何かな？」

翔太郎「ああ、それは知り合いが作った新型ドライバーとメモリが入った奴だよ」

霧彦「まあ、君達は選ばれなかったみたいだね」

飛白が頭を抑え、ソフィアがにとりが残したケースを見て聞き、翔太郎が言った後に霧彦が言う。

ソフィア「おお！変身はともかくメモリが何なのか気になるよ我は！」

翔太郎「あっ、くらー！」

それを聞いたソフィアはすぐさまケースを開き、翔太郎が怒るがもう開けられていて中身が晒し出された。

そこにはロストドライバーに縦1列に付けられた3つのガイアメモリを装填するスロットが付いたドライバーと色がクリアパープルでガイアディスプレイには腕を現すAが描かれたガイアメモリを中心に三角形を描いて置かれた。

色がクリアホワイトでガイアディスプレイに刃の如く鋭いEが描かれたガイアメモリ

色はクリアイエローでガイアディスプレイに光線の様なBが描かれたガイアメモリ

色はクリアレッドでガイアディスプレイには盾を模したCが描かれたガイアメモリが置かれていた。

亜樹子「うわぁ…変わったドライバーだね」

フィリップ「ドライバーの名前はトリニティロストドライバーで、変身の要となるメモリはアームメモリ、後のは変身するライダーの武器を出す為のエッジメモリ、ビームメモリ、シールドメモリとの事で…ライダー名はアームとの事だよ」

翔太郎「まんまだな…」

亜樹子が見てそう言った後にフィリップが一緒にあった詳細が書かれた紙を見てそう言い、翔太郎はそう言う。

翔太郎「んでもう見たから良いだろ」

そう言うと亜樹子達が言う前にケースを閉じ、横に置くと丁度ドアが開く。

別の場所で…

女性「さて…来たのは良いけど…」

帽子をかぶった頭の横を搔いて女性は困った顔をする。

少女「どうしたの？」

女性「ちよつとね…事務所の場所を調べるのを忘れてたよ…」

少女の問いに女性はそう言った後にまいったね〜と言った後…

女性「ん？」

ふと、女性はある方向を見て、口元をにやける。

女性「運が良いね…行くよ！沙砂！」

沙砂「お〜」

女性の言葉に沙砂と呼ばれた少女は答えた後に駆け出す。

翔太郎「人探しか…」

写真を見ながら翔太郎は呟く。

あの後、入って来たのは女性で依頼は友人を探して欲しいとの事…
聞くと先日から仕事場に来ないでその自宅にも向かったがまだ帰っ
てないとの事

仕事の際にいつもはマジメにやるのだが3日前からどうも様子がお
かしいとの事だ。

亜樹子「どう思う?」

翔太郎「ガイアメモリが関わってるかもしれないが…まだまだ情報
不足だしな…ウォッチャマンやサンタちゃんに聞きに行った霧彦の
情報しかないか…」

亜樹子の問いに翔太郎がそう呟いた時…

どこからともなく何かが伸びて翔太郎を絡み取る。

翔太郎「うおっ!?!」

緋鞠「若殿!」

引っ張られる翔太郎に緋鞠や他のメンバーは慌てて追いかける。

女性「捕まえた!!」

そして緋鞠たちが着くと翔太郎を抱き締めた女性と沙砂がいた。

亜樹子「腕が凄い事にいいいい!!?」

飛白「ああ言う事が出来るのは…」

緋鞠「妖か！若殿を放せ！」

翔太郎を絡み取ったのが女性の腕と気づいて亜樹子は叫び、飛白の言った後に緋鞠が安綱を構えて駆け出すが…

女性「沙砂！」

沙砂「分かった！」

翔太郎を抱き締めた女性の言葉に沙砂は答えた後に目を光らせ…

別の場所で

霧彦「そうですか…男に勧められて」

ウォッチャマン「そうそう、どうもストレスで買ったらしいね」

霧彦がウォッチャマンとサンタちゃんから情報を貰っていた。

サンタちゃん「女の方は仕事では失敗はないけど上の方の小言に溜まってたそうだよ」

霧彦「感謝するよお2人共」

2人にお礼を言った後に霧彦は早速連絡しようと携帯電話を出した時…

ドカーーン！！

遠くから火柱が爆発音とともに3人に映る

「ウォッチャマン」なっ、何あの火柱!？」

「サントちゃん」ドーパーント?」

いきなりの事に戸惑う2人を背にし霧彦は亜樹子にかける。

「亜樹子」あっ、霧彦さん!」

霧彦「鳴海所長、爆発見たかい?」

かけた途端に慌ててる亜樹子の声に霧彦は聞く。

「亜樹子」見たも何も目の前でそれが起こってしかも翔太郎君が連れ去られちゃったんだよ!」

霧彦「何だっ?…合流するよ。話したい情報も手に入れたから」

翔太郎「いてっ!」

使われていない廃墟にて、女性から翔太郎は解放され、転がる。

翔太郎「お前等、目的は何だ?んで、何者だ?」

女性 明夏羽「私は飛縁魔ひのえんまの明夏羽…んでこっちは一本ダタラの…」

沙砂「沙砂だよ」

翔太郎の問いに女性、明夏羽は名乗り、沙砂を指した後に翔太郎を指す。

明夏羽「目的は1つ、探偵と言ってる鬼斬り役であるあなたに会いに来た」

翔太郎「俺は鬼斬り役じゃねえ！」

明夏羽の言葉に翔太郎は叫び、それに明夏羽は目を丸くする。

明夏羽「あんた：野井原の緋剣を連れてるのに鬼斬り役じゃないのかい？」

翔太郎「緋鞠は俺の家族だ！そうやって判断すんじゃない！」

立ち上がって明夏羽を見て翔太郎はそう言う。

明夏羽「あんたは鬼斬り役の孫だろ？何で否定するんだい？」

翔太郎「爺ちゃんがそうだからって押し付けるな！俺は爺さんの孫であるが天河の跡取りじゃねえ！探偵、鳴海 壮吉の弟子！左 翔太郎だ！」

明夏羽の言葉に翔太郎は正面から言う。

それに明夏羽は後ずさる。

明夏羽「（こいつ……凄い気迫だ…正直に言ってる…）」

沙砂「おお」

翔太郎の言葉に明夏羽は内心で驚き、沙砂も目を開いて驚いていると…

翔太郎「！あぶねえ！！」

明夏羽「うわっ！？」

何かに気づいた翔太郎が明夏羽を庇い…

翔太郎「っ！」

横から来た攻撃に翔太郎は左腕を怪我する。

翔太郎「ぐっ！」

明夏羽「あつ、あんた大丈夫かい！？」

沙砂「ええい！！」

左腕を押さえる翔太郎に明夏羽は慌て、沙砂が多数の柱らしきものを襲撃者、ヴェロキラプトルの様なドーパント、ヴェロキラプトルドーパントへ降らせる。

ヴェロキラプトルドーパントはそれを避けて行くがそのお陰で3人から距離が出来る。

明夏羽「我慢しなよ！」

翔太郎にそう言うと右腕に括りつけていた袖を取るとそれで翔太郎の怪我した所を包帯の様に巻く。

沙砂が頑張っている間に急ごしらえの包帯は翔太郎の怪我した場所を包んだ。

翔太郎「サンキュー…っ！」

巻いてくれた明夏羽に礼を言った後に左腕を動かそうとするが痛みが走る。

翔太郎「（この状態じゃあ俺での変身は無理か…）」

明夏羽「！」

来る痛みに翔太郎は顔を歪めた時、明夏羽は後ろの殺気に気づいて短刀を取り出すともう1人の襲撃者の攻撃を防ぐ。

もう1人の襲撃者、もう1体のヴェロキラプトルドーパントを蹴りで飛ばした瞬間に短刀は防いだ所から折れる。

明夏羽「げっ!？」

翔太郎「もう1体いたのかよ…！」

折れた短刀に驚いて見る明夏羽に翔太郎は苦い顔で言った後に…

もう1体のヴェロキラプトルドーパントは沙砂の攻撃を避けていた最初にいたヴェロキラプトルドーパントと合流した瞬間…

明夏羽「マジかい？」

沙砂「多いよ〜！」

翔太郎「（何て数だ…）」

新たに現われた3体のヴェロキラプトルドーパントに明夏羽と沙砂はたじろぎ、翔太郎はさらに顔を歪めて…気づいた。

最初に現われたヴェロキラプトルドーパントと違い、後から現われた4体は微妙に色が違う。

それに気づいた時、1人の男が現われる。

緋鞠「若殿！」

そこに亜樹子を除いた緋鞠達が来る。

そして緋鞠は男を睨む。

緋鞠「御主じゃな、メモリを渡してる者は？」

静水久「お縄に付くの」

男「バレちゃったか…まあ、倒せば問題ないか」

緋鞠と静水久に男はそう言った後にメモリを取り出す。

ガイアメモリ「スピノサウルス！」

スイッチを押した後左手の甲に差し込むとスピノサウルスドーナントへ変わった。

飛鈴「あれがドーパント…どうするんですか姉様！」

飛白「どうするって言われても…」

飛鈴の問いに飛白は顔を顰める。

翔太郎の状態を見て戦うのは無理だがWやこの場にはないアクセルとナス力でないとメモリブレイクは無理、可能性があるとすれば…

飛白「（このケースに入ったドライバーとメモリを使えば…）」

持って来たケースを見て心の中で言う飛白だがメモリは自分を選ばなかった事に歯痒いと思った時…明夏羽が飛白からケースを取り上げる。

飛白「！あんだ！」

明夏羽「この中にこの状況を打開するのが入ってるんだろ！」

飛白に明夏羽はそう言うのとケースを開く。

明夏羽「これって…メモリ？」

明夏羽はその中のアームメモリを取るとアームメモリは光り輝く。

緋鞠「光った!？」

リズリット「と言う事は！」

ソフィア「選ばれたって事か！」

明夏羽「どっ、どう言う事だい？」

飛白「このドライバーを付けなさい！」

驚く緋鞠とリズリット、ソフィアに明夏羽は戸惑い、飛白はトリニティロストドライバーを出して明夏羽に渡す。

明夏羽は戸惑いながらトリニティロストドライバーを腰に付けると静水久は収められていたエッジメモリ、ビームメモリ、シールドメモリを取り出して明夏羽に渡す。

静水久「それ等を上からクリアホワイト、クリアイエロー、のクリアレッドの順にメモリを縦一列のスロットに上から入れるの」

明夏羽「あっ、ああ……」

エッジメモリ「エッジ！」

ビームメモリ「ビーム！」

シールドメモリ「シールド！」

収められていた詳細が書かれた紙を見て静水久は明夏羽にそう指示すると明夏羽は言われた通りにトリニティロストドライバーの左側に順番に上からエッジメモリ、ビームメモリ、シールドメモリと装

填する。

静水久「最後にお前が持つてるアームメモリを右側のに入れるの」

言われて明夏羽はアームメモリのスイッチを押す。

アームメモリ「アーム」

明夏羽「やってやろうじゃんか！」

アームメモリを指してトリニティロストドライバーに装填して展開する。

Tロストドライバー「アーム！」

音声とともに明夏羽の姿は変わり、Wを基本に顔はゼロノスアルタイルフォームで足は龍騎にした感じの目の色が緑の体の色が紫のライダー『仮面ライダーアーム』へと変身した。

ソフィア「おお！これが！」

緋鞠「仮面ライダーアーム…」

アーム「なっ、なんだいこの姿!？」

興奮するソフィアと緋鞠の眩きの後にアームは驚いて自分の手を見る。

スピノサウルスドーパント「やれ！」

驚いていたスピノサウルスドーパントだったが驚きから覚めた後に5体のヴェロキラプトルドーパントに言うと5体のヴェロキラプトルドーパントは突撃する。

アーム「っ！」

咄嗟にアームはシールドメモリが装填されたスロットにあるボタンを押す。

トロストドライバー「アームシールド！」

腕と胸の部分がクリアレットになり、腕に盾『アームシールド』が装着される。

さらに2回、シールドメモリが装填されたスロットのボタンを2回押す。

トロストドライバー「シールド！マキシマムドライブ！」

その音声の後に右腕のアームシールドにエネルギーが収束され、光り輝く。

その直後に5体のヴェロキラプトルドーパントが突撃して来るが…

アーム「うわっ！」

ガガガガガン！！

アームが前に出してアームシールドの前面に巨大なエネルギーシールドが展開され、5体のヴェロキラプトルドーパントは吹き飛ばす。

アーム「ふえ？」

翔太郎「すげえ……」

フィリップ「翔太郎！」

呆然とするアームを見て翔太郎が言った後にそこにフィリップと亜樹子、霧彦と照井が来る。

亜樹子「大丈夫翔太郎君！？」

翔太郎「左腕以外はな……フィリップ！ファンゲジョーカーだ！」

フィリップ「分かったよ翔太郎、来いファンゲ！」

右手でダブルドライバーを装着しながら言う翔太郎にフィリップは頷いた後に叫ぶ。

ファンゲメモリ「ギャオ！！」

泣き声と共にファンゲメモリが現われ、フィリップの手に収まるとフィリップはファンゲメモリをライブモードからメモリモードへ変えてスイッチを押す。

ファンゲメモリ「ファンゲ！」

ジョーカーメモリ「ジョーカー！」

アクセルメモリ「アクセル！」

ナスカメモリ「ナスカ！」

そして翔太郎も右手でジョーカーメモリを取り出し、照井と霧彦も構える。

翔太郎＆フィリップ「変身！」

照井「変身！」

霧彦「変身！」

それぞれ言った後に緋鞠達はフィリップの体を支えようと構えるが…

今回は逆に翔太郎がジョーカーメモリを左のスロットに挿すとフィリップのダブルドライバーに転送される。

亜樹子「よっと！」

翔太郎は目を閉じて地面に倒れる前に亜樹子が抱えている。

緋鞠「にゃんと!？」

リズリット「えっ?」

緋鞠たちが驚いている間にジョーカーメモリをフィリップは差し込んだ後にファンゲメモリを装填してダブルドライバーを開き、照井はアクセルメモリをアクセルドライバーに装填して右グリップ部・パワースロットルを捻る。そして霧彦はナスカメモリをスロットに装填した後、左に動かす。

ダブルドライバー「ファング！ジョーカー！！」

アクセルドライバー「アクセル！！」

ナスカドライバー「ナスカ！！」

音声と共に照井はアクセル、霧彦はナスカになるとフィリップの体が紫色と水色で構築された球体に包まれ、下から上へと姿が変わっていく。

その姿は全身の意匠が鋭角化している左がジョーカー、右が白のファングでなっているフィリップの体をベースとしたW『仮面ライダーW・ファングジョーカー』へと変身した。

WFJ「さあ！お前の罪を数える！」

アクセル「さあ！振り切るぜ！」

ナスカ「さあ！その力を離しなさい！」

それぞれのきめ台詞を言った後、戸惑っていたアームはWFJと共にスピノサウルスドーパントに向かって行き、アクセルとナスカはヴェロキラプトルドーパントの群れと戦う。

ファングメモリ「アームファング！」

Tロストドライバー「アームエッジ」

WFJはファングメモリのタクティカルホーンを1回弾くと右上腕

に出現した『アームセイバー』でスピノサウルスドーパントを切り裂き、続いてアームがアームエッジで切り裂く。

その間にアクセルとナスカは決めるべく、アクセルはエンジンブレードにエンジンメモリを装填し、ナスカはスロットを右に戻した後にまた左に動かす。

エンジンブレード「エンジン！マキシマムドライブ！！」

ナスカドライバー「ナスカ！マキシマムドライブ！！」

アクセル「はああああ！！」

アクセルは2体のヴェロキラプトルドーパントを斬った後にナスカドーパントが3体のヴェロキラプトルドーパントを切り裂くと5体のヴェロキラプトルドーパントは爆発して、依頼されていた女性を含めた男女が後に残った。

スピノサウルスドーパント「ぬうううう！！」

WFJ（翔太郎）「決めるぜフィリップ！！」

フィリップ
WFJ「ああ！！」

憤慨するスピノサウルスドーパントを見て、翔太郎が言った後にWFJはタクティカルホーンを3回弾く。

ファンゲメモリ「ファンゲ！マキシマムドライブ！！」

音声と共にファンゲサイドの脚にマキシマムセイバーが出現し、W

FJが飛び上がる。

Tロストドライバー「アームビーム！ビーム！マキシマムドライブ
！！」

アーム「こつちも決めさせて貰うよ！」

腕と胸の部分がクリアイエローになり、腕に銃『アームビーム』が
装着され、2回押してマキシマムドライブを発動する。

アーム「おりゃあ！」

腕を引いた後に突き出すと共にアームビームからビームが発され、
それがスピノサウルスドーパントに命中した後に…

WFJ「ファンングストライザー！！」

跳び回し蹴りの要領でスピノサウルスドーパントをWFJが切り裂
く。

命中すると恐竜の頭部のようなオーラと共に、メモリに描かれてい
るFの文字が浮かび上がる。

男「がつ…」

男は呻いた後に倒れ、男の前にメモリが落ちた後にバラバラになっ
た。

翔太郎「（依頼は無事に達成した。男は逮捕され、ヴェロキラプトルのメモリを使用していた人達は寝ているが3日も経てばもう大丈夫との事である…）」

そう打った後、前を見る。

緋鞠「何でお主等がいるんじゃない！」

明夏羽「そりゃあ恩は返さないとね…それにね…」

沙砂「お気に入り〜」

静水久「させないの」

リズリット「そうですよ！」

ぎゃあぎゃあ騒ぐ緋鞠達にソフィアはやれやれと煽って飛鈴にスリッパで叩かれ、飛白はあため息を付き、亜樹子は賑やかになるな…と照井から貰ったコーヒートを霧彦とフィリップと共に飲んでい

翔太郎「（また住人が増え、しかも新たなライダーが加わった…この先、俺は、こいつ等と共に風都を守る…）」

そう打った後に翔太郎はリズリットが入れたお茶を飲む。

EX第3話QED

EX第3話：新たなA / 明夏羽と沙砂と飛鈴との出会い（後書き）

ルイージ「と言いついで仮面ライダーアームの誕生と明夏羽さん、沙砂ちゃん、飛鈴ちゃんとの出会いだね」

ユウスケ「次のはどうなるのやら…」

シヨウイチ「だな」

仮面ライダーアームのデータ(前書き)

「マリオ」と言う訳でアームのデータだ」

「ルイージ」だね」

「士」下を見るよ」

仮面ライダーアームのデータ

仮面ライダーアーム

変身者：明夏羽

外見：Wを基本に顔はゼロノスアルティルフォームで足は龍騎にした感じの目の色が緑の体の色が紫

概要

明夏羽がトリニティロストドライバーを使用して変身した仮面ライダー

エッジメモリ、ビームメモリ、シールドメモリの能力を使用して戦う。

メモリを使用すると腕と胸の部分がそのメモリの色へと変わり、右上腕にそのメモリの武器が出る。

必殺技はエッジメモリの場合は相手にアッパーパンチの如くアームエッジを斬り上げる『エッジ・アッパースイング』、ビームメモリはエネルギーが充填されたアームビームを引き、勢い良く突き出してビームを放つ『ビーム・スマッシュシュート』、シールドメモリはアームシールドを前に突き出して相手の攻撃を防ぐ『シールド・ディフェンスガード』

名称：トリニティロストドライバー

形状：ロストドライバーに縦1列に付けられた3つのガイアメモリを装填するスロットが付いたドライバー

概要

河城にとりがロストドライバーを元に作り上げた新型ドライバー、4つのメモリを使用するのを前提に作られており、使いたいメモリの能力を使う際はそのメモリが装填されたスロットのボタンを押す

事で発揮する。

マキシマムドライブする際は2回連続で押す。

名称：アームメモリ

形状：クリアパープルでガイアディスプレイには腕を現すAが描かれたガイアメモリ

概要

『腕の記憶』が入った仮面ライダーアームの中心メモリ。
トリニティロストドライバーの右側に装填する事で仮面ライダーアームに変身する。

名称：エッジメモリ

形状：色がクリアホワイトでガイアディスプレイに刃の如く鋭いEが描かれたガイアメモリ

概要

『刃の記憶』が入ったガイアメモリ。
トリニティロストドライバーの縦一列のスロットの一番上に装填する。
使う事で刃『アームエッジ』が右上腕に装着される。

名称：ビームメモリ

形状：色はクリアイエローでガイアディスプレイに光線のようなBが描かれたガイアメモリ

概要

『光線の記憶』が入ったガイアメモリ。
トリニティロストドライバーの縦一列のスロットの真ん中に装填する。

使う事で光線を発射する銃『アームビーム』が右上腕に装着される。

名称：シールドメモリ

形状：色はクリアレッドでガイアディスプレイには盾を模したCが描かれたガイアメモリ

概要

『盾の記憶』が入ったガイアメモリ。

トリニティロストドライバーの縦一列のスロットの一番下に装填する。

使う事で巨大な盾『アームシールド』が右上腕に装着される。

仮面ライダーアームのデータ（後書き）

マリオ「と言う訳でアームのデータだ」

ショウイチ「シールドは防御用だな」

カズマ「確かに」

第7話：学園のG／精神を乱す者（前書き）

士「第7話だ！」

五代「新しい人の登場だね」

シヨウイチ「そうだな…」

ユウスケ「すげえ…PVが2万突破してる！」

ワタル「凄いですね」

第7話：学園のGノ精神を乱す者

くえすと再会して2日過ぎ、翔太郎は苦勞していた。

彼の部屋にくえすがどうやったのかクローゼットに通じる4次元通路を作り、良く潜り込もうとして緋鞠達と争うので止めるのに手を焼いた。

そんな日の頃

クイーン「翔ちゃん」

エリザベス「こっちこっち！」

校門の前でクイーンとエリザベスが来た翔太郎達に手を振る。

さて、なぜ翔太郎達がクイーンとエリザベスの学校に来ているかと言つと昨日へと遡る。

エリザベス「翔ちゃんお願い！明日学園に来て！」

翔太郎「はっ？」

午後に駆け込む様に来たエリザベスの言った事に翔太郎はあつげにとられる。

クイーン「それじゃあ分かんないでしょ…実はね。翔ちゃんに解決して欲しい事があるの」

そんな正太郎に息を整えていたクイーンがエリザベスにツッコミを入れた後にそう言う。

翔太郎はそれを聞いて帽子を直した後に2人を見る。

翔太郎「解決して欲しいってのは何だ？」

クイーン&エリザベス「幽霊騒ぎ」

問いに異口同音で答えたクイーンとエリザベスの言葉に翔太郎は眉間を揉む。

翔太郎「今度は幽霊騒ぎか…」

静水久「どう言う事か説明するの」

エリザベス「内の学校でさ…忘れ物を取りに言った子が女の子の幽霊を見たんだって」

クイーン「しかも、それが数人もいて、その内の何人かが襲われかけたんだって」

翔太郎の代わりに聞く静水久にエリザベスとクイーンが交互に言う。

緋鞠「ふむ…外見は何なんじゃ？」

クイーン「ええつと…翔ちゃん位の長身の女の子で赤髪の長髪に古い感じの紺色のセーラー服姿でスカートがくるぶしまで長くなって、腰にベルトを巻いて一振りの居合い刀を差している感じ」

明夏羽「…なんだいその今時にはいないスケバンの様な幽霊は…」

緋鞠の問いにクイーンの証言に明夏羽は呆れた顔で言う。

エリザベス「だってそうなんだもん」

亜樹子「これもドーパントの仕業かな？」

霧彦「うゝむ、如何せん実際に見ないと分からないから無理だね」

ブーたれるエリザベスを見ながら亜樹子は呟き、霧彦は難しい顔をして言う。

翔太郎「分かった。明日行ってやるよ」

エリザベス「やっりー！」

クイーン「流石翔ちゃん！」

と言う事で霧彦は留守番として残り、翔太郎達は2人の学校に行き、現在に戻る。

翔太郎「しかし…」

後ろを見て翔太郎は緋鞠達を見る。

緋鞠「どうした若殿？」

クイーンとエリザベスが着ているのとは違う制服を着た緋鞠がそう聞く。

翔太郎「ああ…もう頭が痛い…」

帽子越しに頭を押さえる翔太郎に亜樹子やクイーンとエリザベスがポンと肩を叩いて諫める。

???「騒がしいから来て見たけど…誰だい？」

その言葉に翔太郎達は声のした方を見て…翔太郎は驚く。

眼鏡をかけた教師と思われる女性がこちらに歩いてきた。

亜樹子「すいません！私達は「先生！冴先生か!?!」…はい？」

謝って自分達の事を説明しようとした亜樹子は翔太郎の言葉に目を点にする。

女性「おっ、左じゃないか、久しぶりだね」

緋鞠「知り合いか若殿？」

翔太郎「ああ…俺の高校の時の教師で名前は『如月 冴』」

クイーン「んで私達の担任で…」

エリザベス「冴ちゃん先生って呼んでるんだ」

緋鞠の問いに翔太郎が女性、冴を紹介し、クイーンとエリザベスが言った後に冴はエリザベスの後ろに立つと…

エリザベス「痛い痛い痛い!?!」

冴「先生と呼べ！」

エリザベスの頭をぐりぐりしながら冴はそう注意する。

エリザベス「うっう暴力はんたゝい」

クイーン「大丈夫？」

開放された後に涙目でぐりぐりされた所を押さえるエリザベスを諫めるクイーンを見た後に翔太郎達に目を向ける。

冴「んで…見るからに私に会い来た訳じゃなさそうだな…カフェ・リリツシュのリズリットもいるが…」

翔太郎「知り合いだったのか？」

リズリット「はい…常連さんなんですよ」

翔太郎達を見て言う冴にリズリットの方を向いて聞く翔太郎にはリズリットはそう言う。

翔太郎「実は俺達はクイーンとエリザベス…この2人に頼まれて幽霊騒ぎを調べに来たんですよ」

冴「そうなのか？てつきり最近の学生襲撃の事かと思っただぞ」

翔太郎の言葉に冴は目を丸くして言う。

亜樹子「学生襲撃って？」

冴「夜に学生を襲う者がいてな…さっき刑事らしからぬ2人がそれについて聞いて来てな…」

緋鞠「照井殿とくえすか…」

亜樹子の問いに冴はそう言い、緋鞠はくえすを思い出したのか嫌な顔をする。

翔太郎「そつちも見過ごせないな…亜樹子、そつち頼めるか？」

亜樹子「了解！任しといてよ！」

その後、冴から許可を貰い、明夏羽が上側のを着替えた後に校内で見かけたとされる場所を分かれて調べるのであった。

翔太郎「どうだった？」

明夏羽『こつちは異常ないよ』

リズリット『幽霊が確認された場所を見ましたが前々…』

翔太郎「そうか…引き続き調べてくれ」

少しして、幽霊が確認された屋上で翔太郎は明夏羽やリズリットの報告を受けた後にそう言うつとふうと息を吐く。

翔太郎「（こうやって…屋上で風都の風を受けたな…）」

そう心の中で呟き、物思いにふけっている時に…

翔太郎「ん…？」

気配を感じ、振り返ると…長身の少女で赤髪長髪、古めかしい感じの紺色のセーラー服姿でスカートはくるぶしまで長く、腰にベルトを巻いており一振りの居合い刀を差していた。

翔太郎「（この子は…）よう、どうしたんだい？」

そんな彼女に翔太郎は話しかけるが返されず…

少女は腰の居合い刀を持った瞬間、翔太郎はバックステップした。

翔太郎がいた場所を少女の斬撃が行く。

少女「零！見つけたわよ！」

翔太郎「誰だよ零って!?!」

少女の言った事に翔太郎は聞くが返されず…

少女「お礼をさせて貰うぞ!?!」

翔太郎「だから俺は零って奴じゃねえ！」

彼女の振る居合い刀を避けながら翔太郎は彼女の目を見る。

その目は光がなかった。

翔太郎「（こいつ、正気じゃない！操られてるのか！もしかしたら近くに妖かドーパントが…）」

そう思った後、ドーパントの時の為にダブルドライバーを取り出して腰に装着しようとした時…

少女「はっ！」

翔太郎「どわっ！」

少女の斬撃が来て翔太郎は避けたが…

翔太郎「げっ!?!」

その際に持っていたダブルドライバーに斬撃が行っていて、中央に一字の線が入っていて、火花が走っていた。

翔太郎「（これじゃあ変身できね!）」

少女「覚悟しやがれ！」

それに翔太郎が焦っている間に少女は振り下ろすが…

キーン!!

緋鞠「大丈夫か若殿？」

ソフィア「いや〜危なかったね〜」

それぞれ刀と剣を構えた緋鞠とソフィアが少女の剣を受け止めていて、後から飛白と飛鈴も来る。

翔太郎「助かったぜ緋鞠」

飛白「それにしても…妖だわこいつ…」

緋鞠に礼を言う翔太郎に彼に近寄った飛白が言う。

翔太郎「マジかよ…」

緋鞠「こやつ…出来る！」

ソフィア「うわあ…緋鞠ちゃんがそう言うなら我、対抗出来るかな」

翔太郎が驚いている間に緋鞠は眉を潜め、ソフィアはその言葉に冷や汗を流す。

亜樹子「翔太郎君が襲われた!？」

飛鈴の連絡に照井とくえすに出会って行動していた亜樹子が叫ぶ。

飛鈴『はい、操られた妖と出くわしたそうなんです。ソフィア達によると操られた妖以外に妖気は感じないとの事です』

亜樹子「分かった！今竜君もいるから連れて行くね！」

お願いしますと飛鈴が言った後に亜樹子は照井を見る。

亜樹子「竜君！」

照井「ああ、学園に行くぞ神宮寺」

くえす「そうですね」

3人が行くこうとした時、影が現れる。

照井「お前は！」

緋鞠「くっ！」

少女の斬撃を受け止めて緋鞠は距離を取るが少女と違って緋鞠は肩を上下させていた。

翔太郎「大丈夫か緋鞠！くそっ！」

飛白「まだ見つからないの！」

ソフィア「全然感じないよ」

翔太郎は何も出来ない自分に苛立ち、飛白はソフィアに感知したのかを聞き、ソフィアはお手上げと手を上げる。

そこに…

明夏羽「おりゃあ！」

少女「ぐっ！」

明夏羽と沙砂、リズリットと静水久が来て、明夏羽が腕を伸ばして少女の体を縛ると抱き寄せる。

明夏羽「捕まえた！」

少女「離せ！！！」

リズリット「危ないものを持ちっちゃダメです！！！」

伸ばしたままの右腕と共に左腕で少女を拘束し、リズリットが少女の刀を取り上げる。

翔太郎「ふう…！」

沙砂「大丈夫？」

翔太郎「なんとかな…！」

絆鞠「もし来てなかったらやばかったから感謝するのじゃ」

明夏羽「しっかしこいつが噂のね…！」

静水久「思いつきり妖なの」

息を吐く翔太郎に沙砂は聞いて、翔太郎はそう返して、緋鞠が礼を言った後に明夏羽はジタバタする少女を見て、静水久がそう言うところ…

冴「学内で暴れないで欲しいね」

翔太郎「先生」

冴が来て、翔太郎を見た後に明夏羽が抑えてる少女を見る。

冴「こいつは…」

翔太郎「噂の幽霊ですよ」

問いに答えた翔太郎の言葉に冴はふうんと答えた後に別方向を向いて…

冴「それじゃあ……こいつを操っていたのは私達を見てる奴か！」

一同「！」

翔太郎にとって気配、緋鞠達にとっては強大な妖気を感じると共に冴の右手から放たれた衝撃波が…

????「ぎゃっ！」

何も無い所に命中してそこから青く光る怪人が現れた。

翔太郎「ドーパント！」

緋鞠「と言つか先生とやら…お主…」

ドーパントに構える翔太郎だが、緋鞠達は冴を驚いた顔で見る。

冴「内の学校で悪事を働こうとするなんてね…しかも、私の恩人を傷つけようとした…万事に値する!!」

翔太郎「えっ？」

冴はドーパントを見て眼鏡を外し、纏めていた髪を下ろすとドーパントに向けてそう叫び、翔太郎が驚いていると…

冴の背中から銀色の翼が現れ、開かれた目は深い青に染まっていた。

服も何時の間にかスーツから古風な着物へ変わっていた。

その姿に翔太郎は驚いた。

なぜなら…自分がまだ小さき頃、助けた女性だからだ。

それは翔太郎が鳴海 荘吉に弟子入りして間もない頃…

荘吉の事務所に向かう途中で細道からうめき声を聞き、覗くと…

??? 『ちっ、まさか大怪我を負うとわね…私も墜ちたもんだな…』

そう言って血まみれで腕を押さえて苦笑している息絶え絶えの女性がいた。

幼き頃の翔太郎『おい、大丈夫か？』

その女性に翔太郎は近寄って安否を聞く。

女性『なんだいあなたは…帰りな…子供には無理だよ』

幼き頃の翔太郎『子供じゃない！左 翔太郎だ！それに俺の庭で大怪我したあんたをほって置けるか！』

そう言うと翔太郎は血が付くのが何のそのと女性をおんぶする。

女性『あんた…俺の庭ってどう言う事だい？』

幼き頃の翔太郎『俺は俺の庭…風都から涙を流させるのを止める探偵を目指してるんだ…近くに俺の師匠のおやつさんの事務所があるからそこで怪我を治す』

されるがままの女性は翔太郎の言った事を聞き、翔太郎はそう返す。

その後、途中で刃野が通りすぎり、病院を嫌がる女性を2人で荘吉の事務所に運ぶとそこで治療した。

2日後…

女性『じゃあね翔太郎…世話になったよ』

誰もいない原っぱで羽を出した女性が言う。

幼き頃の翔太郎『綺麗な翼だな…俺好きだぞその翼』

翔太郎の言葉にそうかいと言った後に女性は飛び去った。

その女性が今の冴だった。

飛白「もしかして…強大な故に沢山の鬼斬り役が挑み、重症を負わせた後は行方が分からなかった銀鷹の妖鳥…」

目の前にいる冴に飛白は驚きのまま呟く。

ドーパントは冴に突撃するが避けた後に舞う様に蹴りを入れて行く。分が悪いと感じたのか逃げようとするドーパントだが、足が動かない事に気づく。

???「流石に逃がしませんよ」

翔太郎「お前は！井坂！？ってか照井！何でお前が一緒に!？」

現れた白いドーパント、照井にとって仇でもあるWのメモリ、ウエザーメモリの持ち主『井坂 深紅郎』がなったウエザードーパントに驚き、さらに隣にいるアクセルに翔太郎は驚いて聞く。

亜樹子「えっと…どうも私達が探していた幽霊の子に用があるからあっち側が一時休戦を持ちかけたの」

くえす「何の用かは分かりませんが…」

ナスカに抱えられて来た亜樹子が変わりに言い、一緒に来たくえすもそう言う。

アクセル「井坂…分かってるだろうが」

ウエザー「分かってますよ…私もそこまで馬鹿じゃないでね」

ドーパント「ひい!!」

近寄って来るウエザーとアクセルにドーパントは後ずさるうとするが動けない為に近寄って来る2人に恐怖する。

エンジンブレード「エンジン！マキシマムドライブ！」

ウエザー「はあああああああ!!」

エンジンブレードを構えるアクセルの隣でウエザーは手に電気を収束させて…

アクセル&ウエザー「はっ!!」

アクセルの放ったダイナミックエースにウエザーの電撃が加わり、ドーパントに炸裂した。

ガイアメモリ「ゴースト」

爆発の後にドーパントから戻った男から出たガイアメモリが音声を発すると共に壊れた。

冴「こいつは…何時も威張り散らしていた男性教師…」

翔太郎「成る程…んで、お前があの子に何の様だ？」

冴がその男を見て言い、翔太郎はウエザーに聞く。

ウエザーは冴がドーパントに攻撃してから気を失った少女に近寄り、頬を撫でる。

ウエザー「この子は私がまだメモリと会う前…医者の子に成り立ての頃に見た子なんですよ…助けられませんでした…名前は華…」

アクセル「原因は何だ？」

懐かしむ様に言うウエザーにアクセルは聞く。

ウエザー「何でも彼女の知人が言うに恋人であった男に裏切られた他姿を消し、それで呆然としてる所をトラックに轢かれた様です…」

翔太郎「その男の名前が零…」

ナスカ「それで霊から妖となり、そこをドーパントに操られたのか…」

ウエザーの言葉に翔太郎はさっき彼女が言っていた事を思い出して呟き、ナスカが男を見て言う。

ウエザー「探偵…お願いがある…彼女をお願いします」

翔太郎「……………分かった。言われなくても面倒を見るさ」

頭を下げるウエザーに翔太郎はそう言う。

ウエザー「ありがとう…では、私はこれで…」

アクセル「井坂…次は敵同士だ」

礼を言った後にウエザーは背を向け、その背にアクセルはそう言う
とウエザーは頷いた後にその姿を消した。

翔太郎「(クイーンとエリザベスの学校での幽霊騒ぎは終わった…
事件の首謀者である男性教師は逮捕され、冴先生が言うにほっとし
てるそうだ…刃野さんに聞いたが零と言う男は別の場所で死んだそ
うだ…因果応報なのかは分からないがなんと複雑だ…)

そう打った後にさらに派手になってる喧嘩にため息を吐く。

緋鞠「何で潜り込もうとしたのじゃ!!」

華「そりゃあ助けられたからにはやっぱ礼をしなきゃあ行けないだ
ろ!」

静水久「それと潜り込むのと何か関係あるの」

明夏羽「その通りだよ」

くえす「私の翔君を渡しませんわ!」

ソフィア「うふふ、障害あるなら我は燃えるよ!」

ぎゃあぎゃあ争うメンバーに翔太郎ははあ…とため息をついた後に壊れたダブルドライバーを取り出す。

翔太郎「(ダブルドライバーは華の一撃でいまずぐ無理だからどうしようかね…)」

ふうと翔太郎は息をまた吐いた。

第7話 QED

第7話・学園のGノ精神を乱す者（後書き）

次回の仮面ライダーWは！

「どうせなら里帰りするか…」

「翔太郎君のお爺ちゃんの家ってどんな感じかな？」

「天河の鬼斬り役を継がないのか？」

「何で皆して最初っから俺をそう言っただよ！！」

「彼は貫く男だからね」

「爺ちゃん…おやっさん…受け取ったぜ…あんた達からの誕生日プレゼントを…」

第8話・里帰りのJノ師と親の贈り物

これで決まりだ！

第8話・里帰りのJ／師と親の贈り物（前書き）

士「と言う訳で8話目だが…」

ユウスケ「どうした士？」

士「いや、誰も前回の如月 冴妖怪化で登場に触れなかったなと思
つてな」

海東「逆に井坂のが多かったね」

フォックス「まともキャラとも言われてたな」

第8話：里帰りのJノ師と親の贈り物

翔太郎「しかしまいったな…」

翔太郎は頬杖を付いて目の前に置いた壊れたダブルドライバーを見る。

フィリップ「修理には少し時間がかかるね」

翔太郎「やつぱりか…」

華「すまねえ…元はと言えばあたしのせいで…」

見たフィリップがそう言い、翔太郎はため息をつき、華が申し訳ない顔をする。

翔太郎「そんな事ねえよ…それで？」

フィリップ「修理に少し時間がかかるね…部品とかを揃えなければならぬし…」

亜樹子「それじゃあととりちゃんの所に行く？」

華に翔太郎は言った後にフィリップに聞き、そう返され、亜樹子が聞く。

フィリップ「それは僕1人で行くよ…翔太郎やアキちゃんは待って欲しい」

翔太郎「そうか…」

フィリップの言葉に翔太郎は少し考えた後…

翔太郎「どうせなら里帰りするか…」

明夏羽「里帰りって…此処でしょ故郷？」

翔太郎の言葉に明夏羽はそう言う。

それに翔太郎は違う違うと手を振り、緋鞠は翔太郎の言う故郷に気づく。

緋鞠「もしや若殿…野井原市か？」

翔太郎「そつ、俺の第2の故郷で爺ちゃんの故郷だ」

静水久「興味深いの」

明夏羽「確かに私も付いて行くよ」

リズリット「私も休みを貰って行きます！」

霧彦「なら僕は此処に残ろう。万が一の為にもね」

緋鞠の問いに翔太郎は答え、静水久や明夏羽、リズリットも付いて行くとは張り、霧彦とフィリップ以外のメンバーが行くとの事だ。

翌日

亜樹子「翔太郎君のお爺ちゃんの家ってどんな感じかな？」

列車に揺られながら窓の光景を見ていた亜樹子はそう聞く。

翔太郎「普通にのんびり出来る家さ」

くえす「翔君の言う通りですわ。癒されますわよ」

冴「それは楽しみだね」

緋鞠「何でお主等がおるんじゃ！」

翔太郎がそう答えると隣にいたくえすがそう言い、冴もワクワクとした感じに言った後に緋鞠はそう聞く。

くえす「翔君ある所、くえすありですわ」

冴「なに、御爺様に挨拶をね……」

静水久「（やっぱりライバルなの）」

ソフィア「（燃えるよ！めっちゃ我は燃えてるよ！）」

華「（助けて貰ったがこれはゆずれねえ！！）」

自信満々に言うくえすの後の微笑む冴の言葉に静水久とソフィアは燃え、それぞれ火花が舞っていた。

亜樹子「（ひいひいひい！翔太郎君、ホントに城戸さんの様になっちゃってるよ！）」

翔太郎「爺ちゃんどこ行くの久々だな…」

それに戦慄してる亜樹子を知らずに翔太郎は久々の祖父の家に行く事にワクワクしていた。

目的の駅に着き、列車を降りて目の前の光景に翔太郎は懐かしさに目を細める。

3年前に村から市へ変わったがそこは翔太郎が幼き頃と変わりはないかった。

亜樹子「ホントに市ってなってるけど村だったって言うのが分かるわね」

リズリット「此処がご主人様の…」

ソフィア「ド田舎だね」

くえす「懐かしいですわね…」

静水久「田んぼが沢山あるの」

飛白「此処が天河 源之介が住んでいた…」

冴「良い場所だね」

華「確かに」

明夏羽「翔太郎の第2の故郷か…」

沙砂「のんびり」

亜樹子達がそれぞれ感想を言った後に翔太郎は帽子をかぶり直して言う。

翔太郎「んじゃあ行くか…」

その後、色々話しながらしばらく歩いて行く中、翔太郎はしまったとある事に気づく。

翔太郎「そっぴや最近行ってなかったからきつと埃だらけだろうな…」

亜樹子「それなら大掃除になるの？」

緋鞠「掃除の事なら心配いらぬぞ」

帽子を脱いで頭を掻く翔太郎に亜樹子が聞くと緋鞠がそう言う。

くえす「どう言う事ですの？」

緋鞠「うむ、若殿のじい様の家は知り合いの妖に任せておるのじゃ」

リズリット「そうなんですか？」

緋鞠「うむ、ほらあれがじい様の家じゃ」

くえすの問いに答え、リズリットに言った後に緋鞠は瓦屋根の時代を感じさせる一軒の家を指す。

翔太郎「すつげえ…めつちや綺麗だ…」

玄関前まで来て家の綺麗さに翔太郎は驚いていると家の中から緋鞠と似たような着物…緋鞠とは違い丈の短い着物を着て、耳が隠れる程度に伸ばした髪を丸い玉のアクセサリーが二つ付いたゴムで結った中学生くらいの少女が来る。

少女「緋鞠！？帰ってきたのか緋鞠!？」

緋鞠「おお！？加耶、久しいのう留守中大事ないか？」

少女「ああ！」

翔太郎「緋鞠、その子がお前の言っていた子か？」

話しかける少女に緋鞠はそう言い、少女が頷いた後に翔太郎は聞く。

緋鞠「ほれ加耶、若殿その他に挨拶せぬか」

少女「あつ！分かった！」

緋鞠以外を見て少女はキチッと居住まいを正すとペコリとお辞儀す

る。

少女 加耶「わちきは座敷童子の加耶かやと申す、以後見知り置きを」

翔太郎「左 翔太郎だ、爺ちゃん達の家を綺麗にしてくれてありがとうな」

名前を言った後に翔太郎は感謝の言葉を言って加耶の頭をなでる。

加耶「べつ、別に緋鞠に任されたからだ」

翔太郎「それでもな…ありがとう、ホントなら俺がやる事なのによ」

翔太郎の手を払ってそっぽ向く加耶に翔太郎は頭を下げる。

亜樹子「さらにちっちゃい子に負けた！」

静水久「大きければ良い訳ないの」

沙砂「あはは〜」

後ろで亜樹子有加耶の胸を見てショックを受け、静水久が嫉妬の炎を燃やしていた。

その後、他のメンバーが自己紹介をした後に家に入った。

翔太郎「爺ちゃんただいま…悪いな、長く来れなくて…今度からは時たま来る様にするからな」

仏壇の前で翔太郎は今までの事を報告した後にそう言い、手を合わ

せる。

亜樹子達も仏壇の前で手を合わせると加耶とリズリットが用意した
麦茶と紅茶の乗ったちゃぶ台を囲んで座る。

ソフィア「いやゝ久々にのんびり出来るね」

飛白「確かにそうね」

麦茶を飲みながらソフィアはのびのびとし、飛白は同意する。

そう言えば…と加耶は翔太郎を見る。

加耶「天河の鬼斬り役を継がないのか？」

その言葉にメンバーは会話を止めて加耶を見る。

加耶「天河の孫なんだろう？探偵なんて辞めて…」

翔太郎「孫だから継ぐのかよ!!」

加耶の言葉に翔太郎は叫び、立ち上がる。

翔太郎「何で皆して最初っから俺をそう言っただよ!!」

そう言うと翔太郎はちょっと出かけて来ると言い、出て行く。

加耶「なっ、何なんだ？」

緋鞠「加耶よ…流石にあれは悪いぞ」

冴「だね」

驚いて翔太郎の去って行った方を見て眼をパチクリさせる加耶に緋鞠はそう言い、冴も頷く。

くえす「座敷童子…翔君を鬼斬り役にしないでくださりませんか？
翔君は一生なりませんわ」

加耶「けっ、けど緋鞠は…」

緋鞠「加耶…私は確かに言葉では言ったがホントは若殿の家族として、傍にいて守りたいから言ったのじゃ」

目を鋭くさせて言うくえすに加耶は緋鞠を見るが緋鞠はそう言う。

それに加耶は顔を伏せる。

静水久「色んな意味で耳が痛い…」

明夏羽「確かにそうだね…」

飛鈴「…」

リズリット「あっ…」

当初、翔太郎を鬼斬り役（リズリットの場合は勘違い）として見ていた4名は呻いていた。

加耶「あっ!」

亜樹子「どっ、どうしたの!？」

顔を伏せていた加耶が突然顔を上げて声を上げ、亜樹子が驚きながら聞く。

加耶「いや、掃除していた時にあいつ宛の手紙が見付けたから渡すのを忘れてたぞ」

胸元から手紙を取り出した加耶は届けて来ると言って駆け出す。

緋鞠「ふむ…送り主はじい様かのう…」

見届けて緋鞠は呟く。

にとり「いや〜綺麗に斬れてるね〜」

修理をしながらダブルドライバーの外側を見てにとりはそう言う。

フィリップ「すまないねにとり」

にとり「いやいや…しかし翔太郎も大変だね…鬼斬り役だけ?色々と言われるんじゃない?」

手伝いながら言うフィリップにとりはそう聞く。

それは心配ないよと言った後にフィリップは続けて言う。

フィリップ「彼は貫く男だからね」

翔太郎はと言うとある場所に来ていた。

翔太郎「久々だな…此処に来るのは」

目の前の大杉を見て撫ぜながら翔太郎は呟く。

翔太郎「悪いな、しばらく来れなくて…色々と話したい事もあるけど、ただいま」

懐かしむ様に翔太郎は言う。

翔太郎「そういや…銀子や夜魔姫は元気にしてるかな…銀子は会えたかな…」

幼き頃に来ていては一緒に遊んだ少女達を思い出して呟く。

加耶「お〜い！」

思い出にふけていると加耶が走って来る。

翔太郎「なんだ？」

加耶「さっきは悪かった…それと…」

大杉から離れて聞く翔太郎に加耶は謝って手紙を渡そうとした時に…

翔太郎「あぶねえ！」

殺気を感じた翔太郎が加耶を抱き抱えて飛び退る。

その瞬間、2人がいた場所を何者かが攻撃する。

距離を取った翔太郎は襲撃者と後から現れた人物に驚愕する。

襲撃者は瞳が赤く、瞳孔が縦に伸びて狼の耳と長くてふさふさな尻尾を持ち、爪と牙が伸びていたがどちらとも翔太郎にとって知る者であつた。

翔太郎「夜魔姫！？銀子！？お前らどうしたんだ！？」

翔太郎にとって幼き頃の友達である2人であつた。

加耶「知り合いなのか？」

翔太郎「ああ…けどなんで…」

驚いてる翔太郎に加耶は聞き、本人は肯定し、目の前の2人に驚きながら気づく。

2人の目に光がない事を…

????「おやおや、まだいたのですか」

そんな翔太郎と加耶に2人の後ろから異形が現れる。

その姿は奇術師の様な姿で額に目があった。

翔太郎「ドーパント！？まさかお前か！夜魔姫に銀子を操ってるのは！」

ドーパント「いかにも、このマインドメモリは素晴らしい、こうやって反対する奴らを操れるんだからな」

加耶「まさか！？お前は最近来る開発業者の親玉か！」

翔太郎の問いにドーパント、マインドドーパントは得意げに言い、加耶がその言い方にそう言う。

翔太郎「どう言う事だ？」

加耶「最近になってやって来て野井原の畑や木を取り払って、建物を建てようと来た。此処に住む人たちは勿論反対した。最近なぜか賛成と抜かした奴らが増えてると思ったら……」

翔太郎「成る程…メモリはマインド…つまり言葉通りマインドコントロールして自分の良い方へ持ち込もうって話か……」

加耶の言った事に翔太郎は目を厳しくさせて言う。

マインドドーパント「さつきもその娘がいたお堂を命令してそいつ自身の手で完膚なきまでに壊してやったから良いもんだ」

翔太郎「てめえ！あのお堂を壊したのか！？」

銀子を見て言うマインドドーパントの言葉に翔太郎は叫ぶ。

マインドドーパント「あんな古いのあっても儲けにならんからな」

翔太郎「なんて事を…あそこは…銀子が大切人を待っていた思い出の場所なんだぞ…！」

マインドドーパントの言葉に翔太郎は拳を震わして叫ぶ。

幼き頃に翔太郎は何度も聞いていた。

自分の大切な人、マコとの待ち合わせ場所だと…

翔太郎は光ない目に涙を浮かべる銀子と夜魔姫を見て、マインドドーパントを見る。

翔太郎「爺ちゃんの故郷を泣かし！あまつさえ俺の友達を泣かしたお前をゆるさねえ…！」

マインドドーパント「ならどうするのかな？」

叫ぶ翔太郎にマインドドーパントは余裕満々で言う。

だが、マインドドーパントの言う通り、今の翔太郎はWに変身出来ない。

すると、足元に手紙があり、それに翔太郎には見覚えのあるマークがあった。

翔太郎「これは…」

加耶「ああ、お前への手紙だ」

手紙を取る翔太郎に加耶はそう言う。

それの中にある手紙を2つあって翔太郎は手前にあつたのを最初に見る。

『翔太郎へ、この手紙を見ている頃、きっとワシはいないじゃろう。お前が探偵を目指すきっかけとなった探偵がまさか知り合いとは思ひもしなかつたもんじゃ…この手紙も本当ならお前の誕生日に緋鞠に渡して貰いたかつたがそれでは妖を呼び寄せてしまう可能性もあるのでどうしようかと思つたがお前が来た時に見て貰おうと思つ…知り合いの伝手で手に入れたお主への誕生日プレゼントはお前が良行く大杉の近くに目印を付けて置いて置く。天川 源之介より』

そして2つ目に書かれていた事に翔太郎は驚いた。

『翔太郎へ、お前が俺の所に来て弟子入りを申し込まれた後、源爺から連絡があつた時、お前が源爺の孫と言う事には少なからず驚いた。それで物の怪からお前を守つて欲しいと頼まれた。あんまり使いたくないが幼馴染から渡された力を使って守つた。そしてもし、お前が戦う時、源爺の言つたプレゼントを使え。鳴海 荘吉』

2人からの手紙を見て翔太郎は周りを見ると手紙に書かれていたマークを見つけ、そこへ走り、銀子の攻撃を避けた後にマークの地点へ来て、そこにある袋を取って中を見る。

そして中身に翔太郎は驚いたがマインドローパントを見る。

翔太郎「爺ちゃん…おやつさん…受け取ったぜ…あんた達からの誕生日プレゼントを…」

袋から取り出した物、ダブルドライバーに外見は似てるがメモリスロットが右側にしかなくLを模しており、マキシマムスロットのスイッチに描かれているWの文字がない『ロストドライバー』を装着し、ジョーカーメモリを取り出す。

ジョーカーメモリ「ジョーカー！」

マインドドライバー「それはガイアメモリ！何者だお前は！？」

翔太郎「爺ちゃんの故郷と風都を守る探偵で仮面ライダーだ！」

マインドドライバーの問いに翔太郎は言った後にジョーカーメモリを装填し、Wの時と違うポーズを構え…

翔太郎「変身！」

左手でロストドライバーを展開する。

ロストドライバー「ジョーカー！！」

音声と共に翔太郎を紫の球体に包まれ、その姿はセントラルパーティーションがなく、右側もジョーカーの色になった仮面ライダーがいた。

翔太郎「ジョーカー」俺は仮面ライダージョーカー！さあ、お前の罪を数えろ！」

そう言うと共にジョーカーは銀子と夜魔姫の間を駆けるとマインドドーパントに連続で叩き込んで行く。

マインドドーパント「ぐっ！お前ら！こいつを…がっ！」

ジョーカー「これ以上俺の友達を利用させるか…！」

命令しようとするマインドドーパントにジョーカーは顔面にパンチを入れた後にジョーカーメモリを抜く。

ジョーカーメモリ「ジョーカー！」

ジョーカー「決めるぜ！」

そう言うともキシマムスロットにジョーカーメモリを装填し、スイッチを押す。

ロストドライバー「ジョーカー！マキシマムドライブ！」

ジョーカー「ライダーキック！」

音声と共に飛び上がった後に右足に紫のエネルギーを纏い、跳び蹴りを叩き込む。

そしてマインドドーパントを飛び蹴った後に近くの木に足を付け、再びマインドドーパントに向けてジャンプし…

ジョーカー「ライダーパンチ…！」

右拳に紫のエネルギーを纏い、パンチを叩き込む。

マインドドーパント「ぎゃあああああああ！！！」

2連続で必殺技を受けたマインドドーパントは木にぶつかった後に爆発し、1人の男が倒れていた。

それと同時に夜魔姫と銀子も倒れかけ…

ジョーカー「よつと…」

ジョーカーが受け止める。

銀子「翔太郎…」

夜魔姫「ありがとうな…」

ジョーカー「戻ったか…友達を助けるのは当然だろ？」

戻った2人にそう言い、その言葉に銀子と夜魔姫は微笑む。

加耶「（これが…左 翔太郎…）」

翔太郎「（マインドメモリを使っていた男は逮捕された。メモリを使用した以外にも不正が沢山あったものだから当然だろうな…銀子と夜魔姫もすぐに元気になった…だが、銀子にとっての大切な場所がなくなってしまった…）」

くえすから借りたパソコンで打つ翔太郎は目の前を見る。

銀子「美味しい!!」

夜魔姫「良く出来ておりますな」

沙砂「うまうま」

静水久「当然なの」

緋鞠「大丈夫だったか加耶？」

加耶「ああ！（それにしても…なんなんだこのモヤモヤ感！）」

静水久の用意した夕食を食べているメンバーと共に食べる銀子と夜魔姫を見た後に打つのをやる。

翔太郎「（俺はこれからも爺ちゃんの故郷と俺の故郷を守る。相棒となるWにジョーカーとして…）」

亜樹子「お〜い翔太郎君、早くしないとなくなっちゃうよ」

明夏羽「私達が変わりに食べちゃうぞ」

沙砂「食べちゃお〜」

翔太郎「おいおい待ってくれよ！」

3人の言葉に翔太郎は保存した後に夕食を食べるのに参加する。

第8話：里帰りのJノ師と親の贈り物（後書き）

次回の仮面ライダーWは！

「俺は…」

「玉藻前？」

「俺は力がほしい。守る為に強い力が！」

「トライアルメモリ。それを使えば、全てを振り切る速さを手に入られる」

「甘い…」

「全て…振り切るぜ！」

第9話：Rの彼方に / 現れる妖

これで決まりだ！

コラボEX第1話：別世界のJ / 交差する切り札と欲望の王（前書き）

士「今回はコラボだ！」

カズマ「と言うかタイトルの最後……」

シンジ「だな……」

アスム&ワタル「始まります！」

ヒビキ「後、3万突破！」

良太郎「凄いですね！」

モモタロス「これからも行くぜ！」

コラボEX第1話：別世界のJ / 交差する切り札と欲望の王

翔太郎「たくつ、此処どこだよ…」

頭を搔いて翔太郎はぼやいた。

今、彼がいる場所は風都や野井原市のどこかではない。

また1人で散歩している所に世界の壁が現れ、翔太郎を知らない場所に飛ばしたのだ。

翔太郎「まいったな…土達がいれば繋がるんだけどな…」

スタッグフォンを見てそう呟いた後に翔太郎の前にマグマドーパントやマスカレイドドーパントが現れる。

翔太郎「まったく…人様の都合を考えないな…」

それを見た後に翔太郎はロストドライバーを装着、そしてジョーカーメモリを出す。

ジョーカーメモリ「ジョーカー！」

スイッチを押した後にジョーカーメモリをロストドライバーに装填し…

翔太郎「変身！」

ロストドライバー「ジョーカー!!」

左手で展開すると同時に翔太郎は仮面ライダージョーカーに変身する。

マグマドーパントはすぐさま火炎弾を放つがジョーカーはそれをかわして行く。

すぐさまパンチとキックを当てて行く。

ジョーカー「んじゃあ決めるか」

そう言つてジョーカーメモリをマキシマムスロットに装填した時…

???「漣司！大丈夫か！」

ジョーカー「はっ？」

後ろからの声にジョーカーは振り返ると女の子が立っていた。

ジョーカー「お嬢ちゃん、離れてろ」

少女「！？漣司じゃない？」

ロストドライバー「ジョーカー！マキシマムドライブ！」

驚く少女に気づかず、ジョーカーはマキシマムドライブを発動した後、後に構えた後にジャンプし…

ジョーカー「ライダーパンチ！！」

マグマドールパントへ必殺のライダーパンチを命中させるとマグマドールパントは爆発し…

ジョーカー「はっ？」

消えたのだ。

ジョーカー「どうなってるんだ？」

何時もなら壊れたメモリと使用者が存在するのだが何も無い事にジョーカーが戸惑った後…

????「箒!!」

そこに翔太郎を少し年齢を下げた少年が来て、少女、箒に駆け寄る。

箒「漣司!?それじゃああのジョーカーは何者だ…」

漣司「ジョーカー?…!?!」

箒の言葉に漣司はジョーカーを見て驚く。

ジョーカー「ん?小さい俺!?!」

それにジョーカーも驚いて漣司を指差し、ジョーカーの声を聞いた漣司はやっぱりと思った後…

漣司「左 翔太郎さんですよね？」

ジョーカー「?何で俺の名前を？」

漣司の問いにジョーカーはそう言った後に変身を解く。

その後、翔太郎は応接室みたいなところに連れて来られ、漣司の連絡で来た千冬に事情を話した。

千冬「成る程…」

翔太郎「しっかし、まさか俺以外にジョーカーがいるとはな…」

納得している千冬を前に翔太郎は漣司を見る。

漣司「俺こそ、会えて嬉しいですよ」

そう話していると千冬以外に漣司の連絡で来た同じく仮面ライダーに変身する伊達や後藤に近くにいた杉下と亀山と神戸に…

翔太郎「緋鞠！静水久！くえす！？お前等も来てたのか！？」

優人と凜子の後に入って来た3人に翔太郎は聞く。

優人「3人とも知り合い？」

緋鞠「いや…知らないのじゃ」

静水久「私もなの…」

くえす「同じくですわ」

凜子「けど…あの様子じゃあ知り合いのようだけど？」

翔太郎を見て聞く優人に言われた3人はそう言い、凜子がそう言う。

漣司「翔太郎さん、もしかして、そつちに緋鞠達がいるんですか？」

翔太郎「ああ、緋鞠は俺の家族で静水久とくえすは俺の仲間だ…この2人は知らないけどな…そうか、別世界の緋鞠達か…」

気づいた漣司がそう聞き、翔太郎は頷いて誇らしげに言った後にそう呟く。

凜子「それじゃあ優人と同じ…俺は探偵！！緋鞠でそう言う風に見るな！！」「ひっ！？」

凜子の言おうとした言葉に翔太郎は激怒して立ち上がって叫んだ後に息を吐いて座り込む。

優人「あの、気に障ったのならすいません」

翔太郎「いや、こつちも神経質になってたからすまねえ」

謝る優人に翔太郎もそう言っって謝る。

凜子「そつ、そんなに怒鳴らなくても…」

杉下「九崎君、それ程彼は自分の職に誇りを持ってるんですよ」

優人の背中に隠れて言う凜子に杉下はそう言う。

漣司「それにしても…ジョーカーになってるって事は…相棒は…そ

の…もういないんですか？」

そんな翔太郎に漣司は言葉を濁して聞く。

翔太郎「？いや、フィリップはいるぞ。今はダブルドライバーの修理で別行動中、このロストドライバーは爺ちゃんとおやつさんからの遅い誕生日プレゼントさ」

漣司の問いに首を傾げながら翔太郎はそう言ってロストドライバーを見せる。

それを聞いて漣司はほっとした後、自分の記憶にあるWの物語と目の前の翔太郎の物語の流れが違う事を改めて認識した。

すると…

小松「大変です!!」

慌てて小松が来る。

伊達「おいおい、どうしたの小松ちゃん？」

小松「第二アリーナに怪人が現れたんです！しかも、途中で巨大化して怪物になったんです！！今はトリコさん達が抑えてますけど…」

漣司「大きくなった!？」

翔太郎「案内してくれ！」

伊達の問いに早口で言った小松に翔太郎はそう言う。

その場にいたメンバーがアリーナに向かうとISを纏った一夏、セシリア、鈴、シャルロット、ラウラ、トリコ、サニー、ココ、ゼブラ、滝丸、鉄平にマッチがビッグ・ティーレックス、ビッグ・アノマロカリス、ビッグ・トライセラトプス、ケツアルコアトルス・ドーパントと戦っていた。

翔太郎「何だあの鳥のドーパント!？」

漣司「(見た事ないって事はまだそこまで行ってないのか…)」

翔太郎の驚きに漣司はそう考えた後にロストドライバーを装着しようとした時…

翔太郎の前に紫の裂け目が現れる。

中は目が沢山あった。

凜子「何あれ!？」

翔太郎「おいおいこれって…」

驚いてる凜子とは逆に翔太郎は呆れてるところから何か飛び出し…

????『やれやれ、やっと見つけたよ翔太郎』

翔太郎「お前こそ、直ったんだなフィリップ!」

出て来た何か、鳥型の自立型特殊ガイアメモリ『エクストリームメモリ』からした声に翔太郎はそう言つとエクストリームメモリから

緑色の光が放射され、そこからフィリップが現れる。

フィリップ「待たせたね相棒」

翔太郎「ああ、また半分力を貸してくれ」

ダブルドライバーを取り出して言うフィリップに翔太郎は掴んで言ううとダブルドライバーを装着する。

フィリップ「さて、桐札 漣司」

漣司「えっ、あっ、はい！」

それを見た後にフィリップが漣司に声をかけ、それに漣司は慌てて返すとフィリップはもう一つのダブルドライバーにルナメモリとトリガーメモリを取り出して見せる。

翔太郎「それって!？」

フィリップ「にとりが予備用にと作ったそうだよ、メモリは彼等用のだ…それで桐札 漣司、キミは相棒と相乗りする勇氣はあるかい？」

驚く翔太郎にフィリップはそう言い、漣司に試す様に聞く。

それに漣司は筭を見て、聞いていた筭も漣司を見る。

じいっと見た後、漣司はフィリップの持つダブルドライバーとルナメモリとトリガーメモリを取り、筭が頷くを見てダブルドライバーを装着する。

すると、箒の腰にもダブルドライバーが現れ、漣司はフレームメモリを箒に渡し、ジョーカーメモリを取り出す。

サイクロンメモリ「サイクロン！」

ジョーカーメモリ「ジョーカー！」

フレームメモリ「フレーム！」

翔太郎&フィリップ&漣司&箒「変身！」

それぞれポーズを取ると同時にフィリップと箒が自分のメモリを装填すると翔太郎と漣司は転送されて来たメモリを装填して展開する。

ダブルドライバーS「サイクロン！ジョーカー！！」

ダブルドライバーR「フレーム！ジョーカー！！」

音声と共に翔太郎は仮面ライダーWに漣司は真紅と紫の球体に包まれた後に右側は真紅のフレームサイド、左側がジョーカーサイドの『仮面ライダーW・フレームジョーカー』に変身した。

亀山「おお！？」

神戸「凄い…」

WFJ（箒）「これが…」

WFJ（漣司）「俺達に変身したWだ相棒」

W（翔太郎）「さてと…」

緋鞠と凜子により運ばれる自分の体を見た後にWの手を見て呟く筈に漣司がそう言うのと翔太郎が行こうとした瞬間…

????「待てよ!!！」

W（翔太郎）「ん？」

いきなりの声に翔太郎はした方を見ると、自分の方に金縁の赤いメダルが転がって来るのを見つけ、それを拾う。

絵柄は鷹が描かれていた。

そこに青年が走って来る。

青年「すいません！それ俺のなんですよ！」

W（翔太郎）「そうなのか、ほら…」

伊達&後藤「火野!？」

青年の言葉に翔太郎がメダルを渡すと伊達と後藤がその青年を見て叫ぶ。

青年 映司「えっ!？確かに俺は火野 映司ですけど…誰ですか？」

伊達「いや、誰って…」

????「おい映司！」

????2「待つてくださいよ」

伊達の言葉に映司は頭を掻いてそう言い、あっけに取られる伊達を遮り、赤い腕と赤い服を着た少女が来る。

W（翔太郎）「腕が飛んでるううう!？」

映司「御免、アंकにカル」

翔太郎が驚いてる間に映司は赤い腕をアंकと言い、カルと言った赤い服を着た少女に謝る。

静水久「離れた方が良いの」

映司「その前にこいつ等を倒してからだよ」

アंक「無くすなよメダル！」

カル「はい、トラとバツタ」

静水久の言葉に映司がそう言つて、懐から3つのメダルを入れるのがあるドライバー「オーズドライバー」を装着し、アंकの言った後にカルが黄色と緑のメダルを映司に渡し、それを映司が受け取つた後に右から赤、黄、緑のメダルを入れた後に右腰に付いたオーズキャナーを掴むと滑られる様にメダルをスキャンする。

キンキンキンキン!

映司「変身！」

オーズドライバー「タカ！トラ！バッタ！タ・ト・バ タトバ タ・ト・バ」

映司が叫んだ後に音楽と共に複数のメダルが映司を囲み、音楽が終わると同時にその姿を変えた。

頭は赤く顔に緑色の複眼を持つタカをモチーフにした『タカヘッド』、体はトラを奮闘させる『トラアーム』、そして足はバッタを奮闘させる『バッタレッグ』を持つ3色の仮面ライダーが立っていた。

WFJ（篤）「その姿は一体…？」

映司 オーズ「オーズ、仮面ライダーオーズさ！」

篤の問いに映司、いやオーズは答えた後にバッタの部分を光らせた後に飛び上がり、腕のトラクローを展開するとケツアルコアトルス・ドーパントを切り裂く。

W（翔太郎）「行くぜ相棒！」

WFJ（フィリップ）「ああ、今こそ1つに！」

翔太郎とフィリップが言った後にエクストリームメモリが優人と小松により運ばれたフィリップの体を取り込むとWの方に向かい、サイクロンメモリとジョーカーメモリも取り込むとダブルドライバーに装着される。

ダブルドライバー「エクストリーム！！！」

音声と共にWのセントラルパーテーションが左右に分離した後にクリスタルサーバーが出現し、顔の真ん中部分がXとなり、Wは真の意味で2人で1人の姿『仮面ライダーW・サイクロンジョーカーエクストリーム』へ強化変身した。

WCJX（翔太郎）「あいつに遅れを取るなよ漣司！」

WFJ（漣司）「はい！行こう篤！」

WFJ（篤）「ああ！」

WCJXが言った後にWFJと共に駆け出す。

伊達「俺達も行こうぜ後藤ちゃん！」

後藤「はい！」

伊達&後藤「変身！」

そして伊達と後藤もバースに変身すると駆け出す。

WFJはビッグ・ティレックスを、WCJXはビッグ・アノマロカリスを、Wバースはビッグ・トライセラトップスを、そしてケツアルコアトルス・ドーパントをオーズが戦う。

WFJ「はっ！」

炎を纏った右手でビッグ・ティレックスを攻撃して行き、攻撃を避けた後にジョーカーメモリーをマキシマムスロットに装填する。

ダブルドライバーR「ジョーカー！マキシマムドライブ！」

音声の後にWFJはフレイムサイドの拳に赤の炎、ジョーカーサイドの拳に紫の炎を纏い、ジャンプと共にその熱を推進力として上昇し、空中で正中から分割され…

WFJ「ジョーカービッケバン！！」

フレイムサイドは切り裂く様に、ジョーカーサイドがパンチを叩き込む。

それにより、ビッグ・ティーレックスは爆発する。

WCJX（翔太郎）「あっちも決めたし、俺達も決めるぜ相棒！」

フィリップ
WCJX「ああ！にとりから新しいメモリを貰っているからそれも使うよ」

そう言うとビッグ・アロマロカリスと距離を取るとプリズムビッカーを取り出し、最初に真紅でガイアディスプレイに運命を切り開く強さを表すDが描かれた『デステイニーメモリ』を装填し、後にブレード、ウオーター、ストロングのメモリを装填する。

プリズムビッカー「デステイニー！ブレード！ウオーター！ストロング！マキシマムドライブ！！」

音声の後にプリズムビッカーは7色に光り輝く。

WCJX「ビッカー！ファイナフィオキーナ！！」

駆け出して光り輝くプリズムビツカーをビッグ・アロマロカリスに突き付けると共に光の放流がビッグ・アロマロカリスを飲み込み、ビッグ・アロマロカリスは爆発した。

トリコ「ゼブラ！合体技だ！」

ゼブラ「ふん、外すなよ！トリコ！！！」

ビッグ・トライセラトップスをWバースと共に挑んでいたトリコが叫び、言われたゼブラがそう言っていると声を発し、力を貯めたトリコの右手に行き、その勢いでトリコはビッグ・トライセラトップスへ向かって行き…

ゼブラ「音壁！！！」

ビッグ・トライセラトップスの左右と後ろを音の壁で動きを封じた後に…

トリコ「18連…音速釘パンチ！！！！！！！」

トリコとゼブラの合体技がビッグ・トライセラトップスに炸裂し…

バースドライバー「セルバースト！」

後藤バース「トリコ！離れる！」

伊達バース「こっちは準備完了だ！！！」

ブレストキャノンのチャージを完了したWバースの言葉にトリコは

横に飛び退ると共に…

Wバース「発射!!」

発射されたブレストキャノンのエネルギー弾がビッグ・トライセラ
トップスに直撃し、ビッグ・トライセラトップスは爆発した。

オーズ「とりゃあ!!」

そしてケツアルコアトルス・ドーパントと戦っていたオーズは攻撃
するが相手は空中なのでなかなか当たらない。

オーズ「アंक！タジャドルタジャドル!!」

アंक「しゃあねえ！受け取れ！」

催促するオーズにアंकはそう言うとかルから受け取ったクジャク
メダルとコンドルメダルを投げ渡す。

それを受け取ったオーズはトラとバツタを変えるとスキャンする。

キーンキーンキーン！

オーズドライバー「タカ！クジャク！コンドル！タージャードル」

「

音楽と共にオーズの姿はタカヘッドが変化した『タカヘッド・ブレ
イブ』、飛行能力・攻撃力に優れて右腕にタジャスピナーを装備し
た『クジャクアーム』、キック力・飛行補助機能に優れる『コンド
ルレッグ』でオーラングサークルが不死鳥を描いた『仮面ライダー

オーズ・タジャドルコンボ』にコンボチェンジした。

オーズTC「はっ！」

完了と共に全身が赤く輝くと共に炎を発した後にクジャクウイングを展開して飛び立つ。

ケツアルコアトルス・ドーパントの出す火炎弾をタジャスピナーで防御したり、かわした後にオーズTCは両手を前に出し、少し手を引くとオーズTCの後ろに無数の羽手裏剣・クジャクフェザーが出現、その後にオーズTCは思い切り両手を前に突き出すとその羽手裏剣が全て、ケツアルコアトルス・ドーパントに向かって行き、全て当たるとオーズTCはオーズドライバーにある3枚のメダルをタジャスピナーの内部のテーブル・オークラウンの窪みにはめ込み、閉じた後にオースキヤナーでスキャンする。

タジャスピナー「タカ！クジャク！コンドル！ギン！ギン！ギン！ギガスキャン！！」

オーズTC「はああああああああ！！！」

音声の後にオーズTCは不死鳥を模した炎を纏うとケツアルコアトルス・ドーパントに向かって行き…

オーズTC「セイヤアアアア！！！」

貫き、オーズTCは着地した瞬間、ケツアルコアトルス・ドーパントは爆発四散した。

オーズTC「ふう…」

息を付いた後にそれぞれ変身を解く。

翔太郎「あんがとな」

映司「いえいえ、ライダーは助け合いですよ！」

翔太郎の言葉に映司は手を振ってそう言う。

すると、翔太郎とフィリップ、映司、アंक、カルの前に世界の壁が現れる。

翔太郎「どうやらお別れの様だな」

映司「そうらしいですね」

漣司「もう行くんですか？」

それを見て翔太郎はそう言い、映司が同意した後に漣司が声をかける。

翔太郎「俺は風都を守る探偵だ…そっちでも頑張れよ！漣司」

漣司「…はい！」

翔太郎の激励に漣司は力強く答えた後に2人は握手し…

映司「これ、俺からの饞別」

握手を終えた漣司にそう言って映司は…パンツを渡す。

亀山「いや！何でパンツ！？」

映司「明日のパンツですよ！パンツと少々のお金があれば大丈夫ですよ！」

アंक「まったく…」

カル「変わりませんね」

亀山のツッコミに映司は笑顔でそう言い、アंकは分から難いがカルと共に呆れた顔をする。

翔太郎「んじゃな！」

フィリップ「頑張りたまえ！」

映司「それじゃあ！」

アंक「ふん」

カル「御機嫌よう」

5人はそう言っで、それぞれ世界の壁を越えた。

翔太郎とフィリップは自分の世界へ、映司達は新たな世界へ…

世界の壁が消えた後に漣司はフィリップから渡されたダブルドライブバーとルナメモリにトリガーメモリ、映司から渡されたパンツを見る。

漣司「頑張ります…相棒と仲間と共に」

そう言って漣司は新たに決意したのであった。

コラボEX第1話・QED

コラボEX第1話：別世界のJ / 交差する切り札と欲望の王（後書き）

NEWメモリ

デステイニーメモリ

『運命の記憶』が入ったWのソウルメモリ。使う事でサイクロンメモリとは違う残像を出した速さを出せ、武器や体に様々なエネルギーの鎧を纏わせる事が出来る。ストロングメモリと相性が良い。ジョーカーメモリだと高速戦闘が可能、メタルメモリだと防御力がさらにアップ、トリガーメモリでは纏ったエネルギーの弾丸を、ブレードメモリでは2回攻撃、ストロングメモリだと組み合わせる事で相手に掌底する事でストロングフィストから衝撃が放たれ、相手を吹き飛ばす。マジックメモリでは自分の分身を作り出せる。

E X 第 4 話：不死の E / 変える大妖怪（前書き）

士「今回はなんと……」

シンジ「……」

カズマ「注意、ツッコミ所があります」

ユウスケ「どうなるのやら……」

EX第4話：不死のE / 変える大妖怪

時期は翔太郎が野井原市に行く前の2日前

遠く離れたある場所：

「さあこつちよ！」

「早く逃げろ！」

オネエ言葉で喋る男『泉 京水』と同じ服を着て胸元を開いた男『堂本 剛三』の言葉に額の目の様な模様が入った複数の人間が入り口と思われる場所へ駆け出していた。

だが…付くより前に何かが入り口を遮る。

「何だ？」

「まだ何かある訳？」

2人と同じ服を着て銃を持った男『芦原 賢』と唯一の女『羽原レイカ』が呟いた後：

「ブレイク！マキシマムドライブ！」

音声と共に上記の4人以外の人間が赤い光線が命中する。

それに当たった複数の人間は倒れ、額にあった模様が消える。

京水「何々!? 一体何なの!？」

????5「お前等!」

レイカ「克己!」

戸惑う4人に腰にロストドライバーを装着した1人の男が近づき、レイカが名前を言う。

男『大道 克己』は倒れた集団を見る。

克己「これは…まさか奴の言っていた…」

???「いいえ、それが発動する前に消したのよ」

その言葉に5人はした方を見て…全員が驚いた。

なんと、空中に女性が浮いているのだ。

正確に言うなら紫の何かに座って左手に握った扇で口元を隠し、右手には集団を撃つたであろうメモリが装填された銃が握られている。

克己「何者だお前は?」

紫「私は八雲 紫、大道 克己、あなた方『NEVER』に依頼を申し込もうと来た者よ」

克己の問いに答えた紫の言葉に誰もが驚いているとそこに大きな両手、眼のない頭部が特徴のドーパント、アイズドーパントが来る。

紫「まあ、まずは邪魔者を倒した方が良いわね」

克己「…そうだな…」

降り立った紫の言葉に克己は倒れた集団の中の1人の女性の頬を撫でた後に他のメンバーと共に並び立つ。

アイズドローパント「何者だ!?!」

紫「そうね…しいて言うなら一度だけの仮面ライダーよ」

聞くアイズドローパントに紫はそう言うのとロストドライバーを装着するとメモリを取り出す。

取り出したメモリに克己は驚く。

克己「エターナルメモリ!?!なぜお前が!?!」

紫「それよりも、あなたも出しなさい」

驚く克己に紫はそう言うのと冷静になった克己は紫が取り出したのと同じエターナルメモリを取り出すと紫と同時にスイッチを押す。

エターナルメモリ「エターナル!」

克己&紫「変身」

ロストドライバー「エターナル!」

2人の声と共にエターナルメモリを装填すると音声が発し、ドライ

バーを展開すると風が巻き起こり、姿が変わると炎が上がる。

2人の姿は基本カラーは白で、アルファベットのEを横倒しにした触角を持ち、黄色の左右の目頭が繋がり、 のようになっている仮面ライダー『仮面ライダーエターナル』に変身するが微妙に違っていた。

克己の変身したエターナルはマント『エターナルローブ』に胸・右腕・左腿・背中に計25のマキシマムスロットが設けられたベルト・コンバットベルトが装着されていて、腕とアンクレッツの炎の模様の色が青

一方、紫が変身したエターナルはこちらは克己とは違い、マントもコンバットベルトもなく、腕とアンクレッツの炎の模様の色が紫になっていた。

便宜上、克己の変身したエターナルはブルーフレア、紫が変身したエターナルはパープルフレアと分類しよう。

エターナルPF「さあ、踊りなさい…そして楽しみなさい」

エターナルPFがそう言うと同時に2人のエターナルは駆け出す

それにアイスドローパントも迎え撃ち、格闘戦に入る。

2人のエターナルはアイスドローパントの攻撃をかわしたり防いでは攻撃を入れて行く。

アイスドローパントも2人からの攻撃を避けているが当たっていく。

アイズドールパント「そんな！？ 奴等の攻撃が私のヴィジョンで予測できない！」

エターナル「ふん！」

エターナルPF「はっ」

両手に大きな目玉を出して2人のエターナルを見て驚くアイズドールパントにエターナルはパンチ、エターナルPFは掌底を当てる。

それにより距離を取った2人のエターナルにアイズドールパントは両手に持った目玉を光らせた瞬間、2人のエターナルは飛び上がると同時に爆発が起きるが2人は何もなく着地した後にエターナルが指をパチンと鳴らす。

賢「……」

それを合図に最初に賢が接近しながらマシンガンでアイズドールパントを攻撃する。

アイズドールパント「ぬぁ！！どぁ！！！」

賢の銃撃にアイズドールパントの体に火花が迸り、近づいた瞬間にアイズドールパントは腕を振るうが賢は前に転がって避けた後に再度マシンガンで攻撃しようとするがアイズドールパントが銃の先を攻撃して賢の手からマシンガンが離れ、アイズドールパントは攻撃しようとするが…

賢「ふっ！はっ！」

アイズドローパントの攻撃を防いだ後にキックを2発、膝蹴りを入れた後にパンチして距離を取り…

賢「はっ！」

アイズドローパント「ぬあ！」

右太ももに着けたガンベルトに入れてあつた銃を抜いて攻撃する。

それにアイズドローパントは吹き飛ぶ。

アイズドローパント「ぬう…！」

レイカ「はっ！！」

呻いて起き上がったアイズドローパントに今度はレイカがアイズドローパントに格闘戦を仕掛ける。

キックを連続で放つレイカにアイズドローパントは回避しながら攻撃しようとするがレイカはかわして入れて行く。

レイカ「はっ！」

アイズドローパント「ぐあっ！」

そしてアイズドローパントのどてっばらにキックを叩き込んでレイカは宙返りする。

剛三「うりゃー！！」

次にレイカにより後ずさったアイズドーパントに剛三が手に持った鉄の棒でアイズドーパントを間に自分と棒の間に挟んで締め付けようとするがアイズドーパントは棒を掴んで前方に剛三を飛ばす。

剛三は体勢を立て直した後にアイズドーパントに棒での打撃を与えた後にアイズドーパントが棒の先端を握って剛三を引っ張ると顔、お腹と攻撃を入れて、胸に攻撃しようとしてそれを防がれる。

剛三「はっ！はっ！うりゃ！」

アイズドーパント「ぬあっ！」

お返しと剛三はアイズドーパントの顔に2回パンチをして、蹴りを入れて少し離れた後に右回し蹴りを当てる。

アイズドーパント「ぬう…うおおお！！！」

アイズドーパントは顔を抑えた後に咆哮して飛び上がる。

剛三「うりゃああああ！！！」

アイズドーパント「ぬあっ！！！」

それに剛三も咆哮で返し、棒でアイズドーパントを叩き落とす。

京水「絞めてあげるわ」

そして京水が鞭を軽く自分の首に巻いて起き上がるアイズドーパントにそう言う。

京水「あい！あい！あいー！あいー！！」

鞭を振るって連続でアイズドーパントを攻撃した後に最後はアイズドーパントの胴体に巻き付ける。

アイズドーパント「ぐあっ！」

京水「吹っ飛びー！！」

アイズドーパント「ぬああああああ！！！！」

そして投げ飛ばして、アイズドーパントは背中から地面に叩き付けられる。

アイズドーパント「貴様等！！」

エターナルPF「やるわねお仲間さん」

エターナル「ふん」

アイズドーパント「ぬああああああ！！！！」

2人のエターナルにアイズドーパントは咆哮すると同時に瞳型の小型爆弾を出して2人のエターナルに向けて飛ばし、エターナルはエネルギーナイフ、エターナルエッジを構え、エターナルPFは二振りの刀を構えてアイズドーパントに向かって駆け出しながら瞳爆弾を落として行く。

エターナルは荒々しく、エターナルPFは踊ってるかの如く舞う様に自分の武器を振るう。

そしてそれぞれロストドライバーからエターナルメモリを抜くとエターナルはエターナルエッジに、エターナルPFはマキシマムスロットに装填する。

エターナルエッジ&ロストドライバー「エターナル！マキシマムドライブ！！」

アイズドーパント「ぬあああ！！」

エターナル「あああああ！！」

エターナルPF「はあああああ！！」

音声と共にアイズドーパントのガイアメモリの力を抑えられ、そこにWエターナルの炎の様なマキシマムドライブのエネルギーを足先に集中させた跳び回し蹴りが命中する。

そして、蹴った部分から反動でジャンプし、着地するとエターナルは背を向けながら…

エターナル「ダンスはこれで終焉だ」

エターナルPF「良い台詞ね」

アイズドーパント「うっ、ぐおおおおおお！！！！」

ドカーーン！！

呻くアイズドーパントにエターナルはそう言っているとエターナルPFは

それにそう言うと同時にアイズドローパントは爆発し、爆風から変身者であった科学者、ドクター・プロスペクトと壊れたアイズメモリが出て来る。

プロスペクト「こんな馬鹿な！？死体にこの私が！」

エターナル「たった今から、お前も死体の仲間入りだ」

エターナルPF「因果よね…」

起き上がってエターナル達を見るプロスペクトに集まるNEVERのメンバーの中心でエターナルがそう言い、エターナルPFがそう言うと言ったプロスペクトは1歩踏み出した瞬間、額に電撃が走るとそのまま倒れる。

プロスペクトは目を開けたまま命を散らせた。

それと同時にエターナルのロストドライバーに装填されていたエターナルメモリから火花が迸り、その後エターナルは変身が解け、克己は自分の手を見た後にエターナルメモリをロストドライバーから抜き、ガイアディスプレイを見ると、そこからエターナルメモリは壊れていた。

克己「所詮は試作品か…」

それを見て克己はそう言った後、壊れたエターナルメモリを放り投げ、倒れた集団の所へ駆け出す。

だが、そこには誰もいなかった。

剛三「いねえ!？」

京水「どうなってるの!？」

紫「あの人は私の式によって病院に送ったわ」

驚くNEVERに何時の間にか変身を解いていた紫がそう言う。

克己「何？」

紫「頼む側として、こうしないと聞かないと思ってね…ミーナさん達はもう縛られる事はないわ」

眉を潜める克己に紫はそう言う。

なぜ名前を知ってるかに克己は疑問に思ったがそれを押し留めてあった時に言った事を聞く。

克己「お前の言う依頼は何なんだ？」

紫「簡単に言うとなあなたの故郷、風都を守って欲しいのよ…そこにいる仮面ライダー達と共に」

克己の問いに紫はそう言う。

紫「勿論、ただとは言わないわ…あなた達のデメリットを消して完全な不死の存在にしてあげるわ」

克己「何!？」

紫の言葉に克己や他のメンバーは驚く。

紫「それに、さっきのエターナルメモリに…このメモリをあなた方にね」

微笑んだ紫はさっき使ったエターナルメモリの他、4つのメモリを取り出す。

真紅でガイアディスプレイに熱く燃え上がるFが映るガイアメモリ

銀色でガイアディスプレイに鋼鉄のAが映るガイアメモリ

青色でガイアディスプレイに複数の銃で表されたGのメモリ

黄色でガイアディスプレイに鞭で表されたUのメモリ

紫「それで受ける？」

その4つのメモリを見せて聞く紫に克己は顎に手を当てて考えた後…

克己「良いだろう」

紫「交渉成立…まずはこれを…」

そう言って、紫は五人に注射をする。

それに克己は自分の手を見る。

見た目は変わりないが自分の中が変わった事を克己は感じて隣でレイカは自分の腕を掴む。

レイカ「温かい…また感じられる」

剛三「……………」

賢「……………」

生前と同じ温かさにレイカは感じていると口をゴーンと開けている
剛三と目を開いて驚いている賢に気づき、2人が見ている方を見て、
レイカは目を点にする。

京水？「ちよつと！何こつち見てんのよ！」

京水がいた場所を見ると黒髪の背中まで来る髪に綺麗な顔で3人に
そう言う女性がいた。

克己「京水…か？」

京水「克己ちゃんどうしたの…って…えっ？どうなってるの？」

克己が話し掛ける事で京水だと分かり、戸惑う本人から3人は紫を
見る。

紫「ごめんなさい…あんまり好きじゃないからつい…彼、彼女だけ
に女体化薬を混ぜたのをね…」

その言葉になんともなく納得したのであった。

紫「まあ、それはともかく、エターナルメモリはあなた」

克己の手に自分が使っていたエターナルメモリを渡し…

紫「ファイアーメモリは羽原　レイカ、あなたの物」

レイカの手に使っていたロストドライバーと真紅のメモリ、ファイアーメモリを…

紫「アイアンメモリは堂本　剛三」

剛三の手に棒型の武器『アイアンシャフト』と鋼鉄のメモリ、アイアンメモリを…

紫「ガンナーメモリは芦原　賢」

賢の手にはトリガーマグナムをマシンガンの様にした『ガンナーマグナム』と青色のメモリ、ガンナーメモリを…

紫「最後にウィップメモリは泉　京水、あなただよ」

そして驚いている京水に鞭のスティック『ルナウィップ』と黄色のメモリ、ウィップメモリを渡す。

紫「では…頑張ってね」

克己「待て」

去ろうとする紫を克己は呼びとめ、紫が振り返ると同時に何かを投げ渡す。

克己「それをミーナに渡しといてくれ」

紫「分かったわ」

去って行く紫を見た後に克己は4人に振り返る。

克己「行くぞ。風都へ」

少し、時間を遡る。

???「これは中々の力…紛れ込んで正解でした」

自分の姿を見て満足げにそう言う1人の異形の周りで男と女が呻いていて、離れた場所では、その力の元々の持ち主であった男の成れの果てがあった。

そして異形はヘリコプターに乗り込むと動かしてその場を離れる。

動かしながら異形はその姿を男の姿へ変える。

そして力の証であるメモリを取り出してにやける。

男「利用させて貰うぞ。人間」

メモリ「ユートピア」

そう言った後に男は再び異形へと変えて自分の目的地へ向かう。

…この男が翔太郎達の前に現れるのは遠くない。

EX第4話・QED

EX第4話：不死のE／変える大妖怪（後書き）

シヨウイチ「最後に現れた男は…」

ソウジ「ある意味、おまもりひまりを見ている人なら分かるだろう存在」

ワタル「ですね」

カズマ「ユートピアさん！次回でコラボ話を書くので待っていてくださいーm(´`´)m」

マリオ「2回目のコラボだ！」

士「1回目は12 Jokerの『ある少年のなつた学園物語』で今回はユートピアの『仮面ライダーオメガ 最後を運ぶ戦士』とのコラボだ」

カズマ「ってかタイトル！」

ウラタロス「だね」

キンタロス「それでPVが4万突破や！」

ユウスケ「これからもこの小説をよろしく！」

翔太郎「たくっ……」

フィリップ「まさかまた別の場所に飛ばされるとはね」

冴「どこなんだろうね……」

????「困りましたね……」

頭を掻く翔太郎の隣でフィリップがそう言い、妖姿の冴に長い髪に服も水色の女性、緋鞠の配下で加耶より下の妖、文（名前を聞いた際、翔太郎、フィリップ、亜樹子は脳裏にあやややと笑う氷の妖精が大好きな鴉天狗が来た）が周りを見て呟く。

前回（コラボミラー1）から戻った後、霧彦に戻ると言う電話を通じた際……

霧彦『しばらくは大丈夫だから君はお爺さんの所でゆっくりしなよ』
そう言われ、2日間いようと考え、翌日に加耶と緋鞠に文を紹介されてからのんびりしていた際に世界の壁が現れて翔太郎とフィリップに冴と文を別世界に飛ばしたのであった。

翔太郎「しっかし、この世界はなんだ？」

フィリップ「……調べて見たがどうやら此処は『仮面ライダーオメガの世界』の様だ」

冴「オメガ？」

文「何ですか？」

翔太郎の疑問に地球の本棚で調べたフィリップがそう言い、冴と文の疑問にゆつくり話せる場所で話そうと言った後に…

フィリップ「まあ、先ず…文、君は変装をしいた方が良く、此処には別存在の緋鞠がいる」

翔太郎「おいおい」

冴「それなら伊達眼鏡かけるかい？」

文「はあ…分かりました」

フィリップに翔太郎の帽子をかぶせられ、冴に眼鏡をかけられた文はそう言われて納得した後、4人は歩き出す。

しかし…4人以外に來ている者がいた。

克己「此処はどこだ？」

周りを見て克己は呟く。

翔太郎がジョーカーに変身してからの翌日に風都に着き、ぶらぶらしていた所を世界の壁に飲み込まれたのだ。

そんな克己の前に両手が剣になっているドーパント、ソードドーパントが現れた。

克己「やれやれ…いきなりか」

それに克己はそう言うのとロストドライバーを装着し、エターナルメモリを取り出す。

エターナルメモリ「エターナル！」

克己「変身」

ロストドライバー「エターナル！！」

音声と共に克己はエターナルとなり、右手を静かにあげ、サムズアップするとソードドーパントに向けて言う。

エターナル「さあ、ダンスの時間だ…楽しみな」

その言葉と共にソードドーパントは向かって来るがエターナルはエターナルエッジでソードドーパントの左の攻撃を受け止め、右のは素手で受け止めた後に右足で蹴りを入れる。

エターナル「ふっ！はっ！！」

ソードドーパント「ぐがっ！」

怯んだ所をエターナルはエターナルエッジで切り裂き、パンチを入れてソードドーパントを吹き飛ばすとエターナルメモリをロストドライバーから抜き、エターナルエッジに差し込む。

エターナルエッジ「エターナル！マキシマムドライブ！！」

ソードドーパント「ぐがつ!?!」

音声と共にソードドーパントのガイアメモリの力を抑えられ…

エターナル「はあああああああ!?!」

そこにエターナルの炎の様なマキシマムドライブのエネルギーをエターナルエッジに集中させた斬撃が命中する。

エターナルは背を向けながら…

エターナル「ダンスはこれで終焉だ」

そう言うと同時にソードドーパントは爆発し、後には男とメモリの残骸しかなかった。

???「エターナル!?!」

エターナル「ん?」

変身を解こうとした直後の怒鳴り声に近い叫びにエターナルはした方を見ると…睨む様に黒髪のコートを羽織った少年がエターナルを見ていた。

そして少年は黒いロストドライバー、オメガドライバーを取り出して腰に装着し、メモリを取り出す。

メモリ「オメガ!」

少年「变身！！」

オメガドライバー「オメガ！」

音声と共に少年、朝月 真谷はWファンゲジョーカーのように攻撃的な外見中心に赤い宝石が入り体色は黒く金色のラインが入っている。頭部の触覚が を逆さにし複眼は赤の仮面ライダー『仮面ライダーオメガ』に変身した。

エターナル「（見た事ないライダーだな…）」

風都に来る前に事前にライダーを調べ、それを見たエターナルはそう思った後にエターナルエッジを構え、オメガはオメガハルバードを取り出すとエターナルに振り下ろすがエターナルはエターナルエッジで防ぎ、防戦に徹する。

オメガ「どうした！何で来ない！」

エターナル「知らないお前と戦う理由はないからな…」

オメガ「何？」

罅迫り合いになった時にオメガが叫び、それにエターナルはそう答えるとオメガは仮面の中で眉を潜めた後にお互いに飛び退るとオメガの方にチンク、ノーヴェ、デイエチ、ウエンディ、ジョーカーとアクセルに胸にアクセルトリアルのようなアーマー左肩に鳥のような顔のアーマー、右肩はジョーカーと同じで顎から両脇に鳥の翼、真ん中には鳥の羽、複眼は青の仮面ライダー『仮面ライダーフェニックス』が来る。

アクセル「真谷！」

ジョーカー「真谷さん大丈夫ですか！」

フェニックス「エターナル！」

オメガ「待て！」

アクセルとジョーカーがオメガに話し掛け、フェニックスはエターナルを見て飛びかかろうとしてオメガが制止する。

チンク「真谷？」

ノーヴェ「何で止めるんだよ！」

オメガ「奴は朝月 克己じゃない」

エターナル「勝手に人の苗字を変えるな、俺の苗字は大道だ」

ノーヴェの言葉にオメガはそう言い、エターナルはそう言う。

ウエンディ「どう言う事ツスか？」

ディエチ「別人？」

「ヒート！ マキシマムドライブ！」

エターナル「！」

疑問詞を浮かべるウエンディの隣でディエチがそう言った後に聞こ

えた音声にエターナルは駆け出し、ディエチの前に立つとエターナルローブで防ぐ。

エターナル「いきなりの挨拶だな」

放った人物であるこの世界のエターナル（表記はAエターナル）にエターナルはそう言う。

Aエターナル「同じエターナルとはな…消えて貰おうか」

エターナル「悪いが、知らない場所で消える訳には行かないもんでな」

Aエターナルの言葉にエターナルはそう言つとぶつかり合う。

エターナルエッジがお互いにぶつかり合い、鏝迫り合いになった時にはパンチの応戦が始まり、一見互角に戦つてる様に見えるが違いがある。

マキシマムスロット「ユニコーン！マキシマムドライブ！」

Aエターナル「ふん！」

エターナル「がつー！」

複数のメモリを持つてるか持っていないかだ。

Aエターナル「さて、終わりにさせて貰おうか…」

吹き飛んで倒れるエターナルにAエターナルがそう言った時…

「エクストリーム！マキシマムドライブ！」

その音声にAエターナルはした方を見ると…WCJXが必殺技を放そうとしていた。

Aエターナル「ほう…！」

WCJX「ダブルエクストリーム！！！」

向かってくるWCJXにAエターナルは慌てずにゾーンメモリを取り出し…

ロストドライバー「ゾーン！マキシマムドライブ！！！」

マキシマムスロットに入れ、WCJXの攻撃を避けて去る。

WCJX（翔太郎）「逃げられたか…！」

それを見てWCJXが着地した直後にそう言うとアクセルから変身を解いた天河 優人とジョーカーから変身を解いた綾崎 ハヤテがエターナルに駆け寄る。

優人「おい！大丈夫か！」

ハヤテ「変身したまま気絶してますね」

それにフェニックスから変身を解いた白羽 雪と変身を解いた真谷 が気絶したエターナルを見る。

その後にWCJXが来た方から文と冴も来る。

フィリップ
WCJX「とりあえず、機動六課に運ぼう。朝月 真谷、案内を頼む」

真谷「何で俺の名前を!？」

WCJX（翔太郎）「それは後で説明する」

そう言つて、WCJXはエターナルを背負う。

その後、優人とハヤテと別れ、真谷達と共に起動六課へ向かった。

そして機動六課に着き、エターナルやWCJXに驚くのは達にはフィリップが説明し、エターナルは医務室で寝かされた。

シャマル「それにしても驚いたわ…」

真谷「いきなりですまないな」

目の前のベッドで眠るエターナルを見てシャマルはそう言う。

エターナル「うっ…むう…俺は…」

呻いた後にエターナルは上体を起こし、頭を抑える。

翔太郎「大丈夫か？」

フィリップ「目が覚めた様だね」

エターナル「お前達は？」

冴「まあ、あんたを運んだ者さ」

チンク「それで変身を解いてくれないか？」

声をかけた翔太郎とフィリップにエターナルはそう聞き、冴が言った後にチンクにそう言われ、エターナルは変身を解く。

スバル「エターナルが運び込まれたって…あれ？」

克己「しかし、さっきのエターナルは複数のメモリを持つてるな…」

翔太郎「ああ、まさかゾーンのメモリを持つてるとはな…」

そこにスバルが来て、周りを見て目を点とする中、克己はそう言い、翔太郎も同意すると…

彼らの上に紫の何かが出来る。

ノーヴェ「何だ!？」

雪「敵？」

克己「これは…」

驚くノーヴェと雪に克己はそれを見て眩くと…

翔太郎「おいおい…何用なんだ紫？」

紫「もう、もうちょい驚きなさいよ」

呆れた口調で言う翔太郎に面白みがないと言う顔で紫が出て来る。

克己「知り合いだったのか？」

フィリップ「まあね…君も知り合いの様だけど…」

真谷「誰だこいつ？」

紫「私は八雲 紫…ちょっとした妖怪よ」

克己の問いにフィリップはそう言い、警戒する真谷に紫はそう言った後にケースを取り出す。

するとケースは光を放つ。

紫「あらあら、そんなに相棒に再会出来たのが嬉しいのね」

克己「どう言う事だ？」

その様子に紫はそう言い、克己が聞くと紫はケースを開け、中身を見せる。

文「これは!？」

フィリップ「ガイアメモリ!?しかもAからZの!」

ケースに収められていた白いダブルドライバーと共にある26個の端子が青いガイアメモリに文とフィリップは驚き、渡された克己は

その中でEのメモリを取り出す。

克己「このメモリは…あの時のか？」

紫「ええ、あの時の試作品のエターナルメモリを改良したメモリ…
“無限の記憶”を内包した『インフィニティメモリ』よ、それと、
次からはこの『エターナルドライバー』を使いなさい」

翔太郎「無限の記憶か…」

呟く克己に紫は新たなドライバーを渡し、翔太郎は克己の持つイン
フィニティメモリを見て呟く。

その後、克己と真谷は訓練場で向き合っていた。

ティアナ「何が起こるの？」

レヴィ「だね」

ディアーチェ「ってか誰だあの男？」

美奈「おにいちゃん！頑張ってー！！」

それを遠くであの場にいたメンバーにマテリアルズと美奈が見てい
た。

克己「行くぞ」

真谷「ああ」

エターナルメモリ「エターナル！」

オメガメモリ「オメガ！」

ドライバーを装着した克己と真谷はガイアメモリのスイッチを押し、音声の後に真谷はオメガドライバーにオメガメモリを、克己はエターナルドライバーの右のスロットにエターナルメモリを装填する。

克己&真谷「変身！」

エターナルドライバー「エターナル！」

オメガドライバー「オメガ！」

展開すると共に克己はエターナル、真谷はオメガに変身した後にそれぞれの武器を構えた後に飛び出す。

エターナルエッジとオメガハルバードがぶつかり合い、何回かした後にはオメガは金色のUと書かれたメモリ、アルティメットメモリを取り出しスイッチを押した。

アルティメットメモリ「アルティメット！」

音声の後にオメガドライバーからオメガメモリを抜いてアルティメットメモリを入れた。

オメガドライバー「アルティメット！」

音声の後に体色が金色になり触覚はUになり肩は、腕はクウガアルティメットの感じの『仮面ライダーオメガアルティメット』へ変

わった。

エターナル「姿が変わったか…」

オメガU「行くぞ！アルティメットカリバー！！」

呟くエターナルにオメガUは新たにプリズムソードよりも剣が長く金色の装飾が入ったアルティメットカリバーを取り出して駆ける。

エターナル「なら、こっちはこれだ」

ファンゲメモリ「ファンゲ！」

エターナルはフィリップの持つファンゲメモリとは違うファンゲメモリを取り出してエターナルエッジに装填する。

エターナルエッジ「ファンゲエッジ！」

音声と共にエターナルエッジの刃がさらに長くそして鋭くなる。

エターナル「はっ！！！」

オメガU「うおおおおお！！！」

2人は駆け出し、アルティメットカリバーとファンゲエッジがぶつかり合う。

士「長くなるから此処で分けるぞ」

カズマ「作者的に長くなったので分けるんだってさ」

アスム「後編を待っててくださいm」——「m」

士」と言う訳でコラボ後編だ!!」

剣崎「先に言っで置くとまたも映司が出るんだよな」

フォックス「そうらしいぞ」

ルイージ「あはは、」

良太郎「それでPVが5万突破！」

モモタロス「このまま突っ走るぜ!!」

コラボEX第2話：邂逅するWとエターナルと / 伝説と無限 後編

エターナルとオメガが模擬戦をしている時、別の場所で…

映司「此処が次の世界か…」

周りを見て映司は呟く。

アंक「まあ、さつさと此処のコアメダルを回収して行くぞ」

カル「ですね…あつ」

アंकが言った事にカルが同意した後に声を漏らす。

映司「どうしたのカルちゃん？」

アंक「女神から連絡でも来たのか？」

カル「はい、メッセージは応援を後で送るとの事です」

2人の問いにカルはそう言う。

アंक「誰か復活したのか…」

映司「アंक、良かったな仲間が復活して」

呟くアंकに映司はそう言う。

戻ってエターナル達の方では…

エターナル「むん！」

オメガU「はっ！！」

アルティメットカリバーとファングエッジを展開したエターナルエッジを振るい、互角の勝負を見せる。

翔太郎「なかなかやるな」

フィリップ「ああ、それにしてもアルティメットメモリか…」

それを見て翔太郎は眩き、フィリップは顎に手を当てる。

翔太郎「どうしたフィリップ？」

フィリップ「いや、アルティメットを聞くと五代 雄介と小野寺ユウスケを思い出してね」

翔太郎「成る程…あいつ等は元気にしてるかな…」

フィリップの言った事に翔太郎は別世界の仲間を思い出して眩く。

エターナル「そろそろ試すか」

オメガU「（これは来るな…）」

エターナルの言葉にオメガUはそう思った後にお互いにメモリを取り出した時…

はやて「皆！通報があつてドーパントと思われる怪人が出現したぜ
！！」

オメガU「…どうやら此処で終わりだな」

エターナル「そうだな…」

はやての声に2人はメモリを仕舞う。

別の場所…

近藤「山崎、避難は？」

山崎「完了してます局長！」

とあるスーパーを前に近藤は山崎に話しかけ、山崎がそう言う。

土方「しっかし、大胆なドーパントもいたもんだ」

沖田「そうツスね、真正面から入って来るなんてホントに肝っ玉の
ある奴ツスね」

タバコを啜えて言う土方に沖田はバズーカを土方に向けようとして
本人にバズーカの部分を押さえる。

すると…

「????「やつた〜お菓子大量に買えた〜」

そののんびり言いながら袋を持ってサイの角にゾウの牙と鼻のある顔の怪人が現れる。

近藤「あんれええええええええええ!?!」

山崎「普通に出て来ましたね」

沖田「何でしょうねあの怪人」

土方「俺が知るか!」

驚く近藤の隣で山崎は冷や汗を掻き、沖田の言葉に土方が叫んだ後…

「????「何やってるのガメルウウウウウウ!!!」

怪人、ガメルに1人のショートカットの金髪の高校生位の少女が走ってツツコミを入れる。

ガメル「カザリ〜見て見て〜お菓子いっぱい」

カザリ「うん、お菓子いっぱいだね!ってか女神様の約束忘れちゃ駄目!」

嬉しそうに言うガメルにカザリはそう言うたそうだった〜と言った後にガメルの体が一瞬、メダルとなった後にその姿は灰色の膝まで来る髪の中學生位の少女になる。

ガメル「これで良いでしょ〜」

カザリ「ああうん、それで良いけど人前じゃあ意味ないんだよおおおおお!!!」

能天気と言うガメルにorzになってカザリは叫ぶ。

あつけに取られてる新撰組の後ろでハードボイルダーに乗ったWCJXとオメガボイルダーに乗ったオメガU、そして紫により渡された白いスカルボイルダーに青いEの絵が付いた『エターナルボイルダー』に乗ってエターナルが来る。

オメガU「何だ？女の子2人しかないじゃないか？」

近藤「いや、片方がドーパントだったんだよ」

WCJXフィリップ「...いや、彼女達はドーパントじゃないよ」

訝しげに聞くオメガUに近藤はそう言うと言いつつフィリップがそう言う。

少ししてディエチ達も来るが目の前の状況に驚いていると...

そんなガメルにヒョウウのドーパント、パンサードーパントがいきなり現れて襲い掛かる。

WCJX（翔太郎）「あぶねえ！」

???「タカ！トラ！チーター！」

慌てて駆け寄ろうとするWCJXより前に聞き覚えのある音声と共にパンサードーパントに体当たりするオーズの姿があった。

ただ、その足は黄色で胸の虎の下がチーターの様な絵になっていた。
パンサードーパント「ぐっ！」

オーズ「おつとと！」

転がるパンサードーパントの前で『仮面ライダーオーズ・タカトラ
ーター』はトラクローを地面に刺して停止した後、ふうと息を吐く。
そこにカルとアंकが飛んで来る。

ウエンディ「腕が飛んでるッス！！！」

アंक「映司！そいつがメダルを持つてる奴だ！」

オーズTTTT「分かった！」

WCJX（翔太郎）「よう、あの時以来だな」

驚いてるウエンディを無視してアंकはパンサードーパントを指し
て言い、オーズTTTTが答えた後にWCJXが話しかける。

オーズTTTT「もしかしてあの時の！」

WCJX（翔太郎）「その通りだ仮面ライダーオーズ、あの時は名
乗り忘れてたが俺達は仮面ライダーWだ」

WCJXフィリップ「それで、メダルとは君が使ってるのと同じのかい？」

気づいたオースTTTに翔太郎はそう言い、フィリップがそう聞く
とオースTTTは頷く。

オースTTT「はい、コアメダルと言って、俺達は様々な世界に散
ったそれを集めてるんですよ」

アंक「コアメダルは欲望の結晶だ。素人がその力を引き出そうと
すれば暴走する」

カル「今は出てませんが早急に回収しなければなりません」

オメガU「成る程な」

エターナル「なら…やるか？」

オースTTTとアंक、カルの言葉にオメガUが納得してエターナ
ルはそう言う。エターナルドライバーを一旦閉じ、インフィニティ
メモリを取り出し、オメガUもレジェンドメモリを取り出す。

レジェンドメモリ「レジェンド！」

インフィニティメモリ「インフィニティ！」

それぞれスイッチを押した後にオメガUはアルティメットメモリに
変わり、レジェンドメモリを装填し、エターナルはインフィニティ
メモリを左のスロットに装填して展開する。

オメガドライバー「レジェンド！」

エターナルドライバー「エターナル！インフィニティ！！！」

それぞれ音声と共にオメガUはオメガに戻った後に銀色になり真ん中の宝石は青に変わった『仮面ライダーオメガレジェンド』となり、エターナルは白い部分が銀色になり、黒い部分とマキシマムスロットが青に染まり、腕とアंकレットの炎の模様の色が白へと変わった『仮面ライダーエターナルインフィニティ』になった。

ガメル「エイジ！俺のメダルを使え！」

オーズTTTT「えっ？」

見ていたオーズTTTTはいきなり声をかけられ、振り向くと1つのメダルが向かって来て、それを慌ててキャッチして絵柄を見ると灰色の犀が描かれていた。

オーズTTTT「これって…ってか君は？」

アंक「その姿だがお前かガメル！隣にいるのはカザリか！」

ガメル「アंकく久しぶり〜」

カザリ「そうだよ、ってか君は君で腕って；」

アंक「うつせえ！封印された時に意思が入ったメダルが腕に行っちゃったんだよ！！」

驚くオーズTTTTの隣でアंकが2人にそう言い、ガメルは嬉しそうに手を振り、カザリはなんとも言えない顔で腕のアंकを見て、アंकは怒鳴る。

カル「映司さん、最初に手に入れたゾウと彼等と会う前に手に入れたゴリラと今貰ったサイのメダルでガメルのコンボです」

オーズTTTT「分かった！」

カルからゾウメダルとゴリラメダルを受け取ったオーズTTTTはカテドラルに収まっていたメダルを全て抜いた後にサイメダル、ゴリラメダル、ゾウメダルを装填してスキャンする。

キーンキーンキーン！

オーズドライバー「サイ！ゴリラ！ゾウ！…サゴーズ サツゴーズ
！！」

歌と共にオーズの姿は顔はサイを模した赤い複眼の『サイヘッド』、バゴーンプレッシャーを装備した『ゴリラアーム』、そして足はゾウを模した『ゾウアーム』の重量系コンボ『仮面ライダーオーズ・サゴーズコンボ』になった。

チンク「姿が変わった！？」

ウエンディ「ってかさっきの音楽は何ツスカ！？」

カザリ「歌は気にしないでね！」

オーズSGC「うおおおおお！！！！」

その姿に驚くチンクと歌に驚くウエンディにカザリはそう言ってる間にオーズSGCはドラミングするとパンサードーパントは浮かび上がる。

WCJX（翔太郎）「マジかよ！」

WCJXフィリップ「重力を操るのか…！」

エターナルE「決めるぞ、仮面ライダーオメガ」

オメガL「ああ！仮面ライダーエターナル！」

オーズSGCの能力にWCJXが驚いてる間にオメガLとエターナルEはパンサードーパントの左右に行くジャンプし、WCJXも高く飛び上がるとエクストリームメモリを一旦閉じた後にまた展開し、エターナルEとオメガLはそれぞれマキシマムスロットにメモリを装填する。

ダブルドライバー「エクストリーム！マキシマムドライブ！」

エターナルドライバー「インフィニティ！マキシマムドライブ！」

オメガドライバー「レジェンド！マキシマムドライブ！」

音声の後にそれぞれ足にエネルギーを収束させた後に一斉にパンサードーパントにキックする。

WCJX&エターナルE&オメガL「ライダー！トライマキシマム
！！！」

パンサードーパント「がああああああ！！！」

一斉にキックが入ると共にパンサードーパントは爆発し、爆風の中

からメモリの使用者である男を抱えたオメガと共に出て来て、ア
ンクは同じ様に出て来たメダルを掴む。

カザリ「メズールのメダルだね」

ガメル「メズールの…！」

アंक「ああ、ウナギメダルだ」

アंकの持ったメダルを見てカザリはそう言い、ガメルは笑顔でそ
のウナギメダルを持つ。

変身を解いた映司はよろけるがカルが支える。

映司「あれ…何か疲れがどつと…」

カル「同じ種族でのコンボは慣れてないと基本は疲れますよ…しか
し、なぜタジャドルだけ…」

はあはあと息を吐く映司にカルはそう言う。

真谷「もう行くのか？」

起動六課の前でオーロラを背にした翔太郎達に真谷はそう聞く。

翔太郎「ああ」

映司「俺たちも旅の途中だしね」

克己「奴に負けるなよ」

真谷「もちろんだ」

翔太郎と映司が答えた後に克己の言葉に真谷はそう答えた後に克己が手を差し出し、一瞬あつけに取られた真谷だったがふつと笑ってその手を握り握手する。

克己「じゃあな」

そう言つとそれぞれオーロラを通り、元の世界に戻つた。

真谷「…絶対に奴には負けないさ」

オーロラがあつた場所を見て真谷はそう言つ。

ちなみに…

亜樹子「翔太郎君…その人誰？」

緋鞠「見かけん人じゃが…」

克己「此処はどこだ？」

文「あらら…」

冴「どうやら私たちの方に来た様だね」

克己は翔太郎達と共に亜樹子と緋鞠達に元の世界に戻つたのであつた

NEWメモリ

インフィニティメモリ

『無限の記憶』が入ったエターナルのメモリ。使う事でエターナルをエターナルインフィニティに強化変身させる事が出来る。
エターナルを格段に強さをあげる事が出来、他の25個のメモリの威力もあがる。

エターナルインフィニティのデータ(前書き)

士「エターナルの新たな力のデータだ」

にとり「いや、頑張ったよ」

エターナルインフィニティのデータ

名称：エターナルドライバー

外見：ダブルドライバーを白く染めた感じ

概要

エターナルの新しい変身アイテム。ロストドライバーの時と同じ様にエターナルメモリだけでの変身も想定されている。

インフィニティメモリ以外のメモリも装填出来るがその場合は持つてるメモリ一部だけで装填しても装填したメモリに応じた武器を出すだけになる。

A t o zメモリ

概要

にとりが作り上げたメモリで原作でのエターナルが使ったメモリが主だが1部のメモリが変更されている。

変更されてるのは以下の通り

D：デステイニーメモリ

G：ガンナーメモリ

P：プリズムメモリ

V：ビクトリーメモリ

Y：ヨーヨーメモリ

仮面ライダーエターナルインフィニティ

外見：エターナルの白い部分が銀色になり、黒い部分とマキシマムスロットが青に染まり、腕とアングレットの炎の模様の色が白のホワイトフレアへと変わった感じ

概要

エターナルがインフィニティメモリを使って強化変身した姿。エターナル強さが格段に上がっている。

また、この姿だと一部のメモリをマキシマムスロットに装填する事でそれに対応した武器を取り出せる。

A：Aを模した剣、エースブレードを出す。

F：アームファンクかシヨルダーフアングを出す。

G：ガンナーマグナムを出す。

M：メタルシャフトを出す。

P：プリズムソードを出す。

R：フォーゼのロケットモジュールに似た手甲、ロケットグローブを出す。

S：スカルマグナムを出す。

T：トリガーマグナムを出す。

Y：とても硬いアイアンヨーヨーを出す。

必殺技はインフィニティメモリをエターナルドライバのマキシマムスロットに装填してマキシマムドライブを発動した後にキックする『インフィニティキック』と全メモリを装填し、エターナルメモリをエターナルエッジに装填して全てのメモリのエネルギーをエターナルエッジに収束させて切り裂く『エターナルエンド』

エターナルインフィニティのデータ（後書き）

士「こんな感じだ」

カズマ「5つメモリを変えてるな」

天道「ちなみにVはポケモンのあるポケモンを元にしてる」

シヨウイチ「今年のポケモン映画を見てるなら分かるな」

第9話：Rの彼方に / 現れる妖（前書き）

士「第9話だ」

カズマ「意外な事があるんだよねチーズ」

士「チーズじゃないチーフだ！」

第9話：Rの彼方に / 現れる妖

照井「……………」

真倉「何か照井課長、最近考え込んでますね」

刃野「そうだな…何かあったんじゃないか？」

顔の前で手を組み、考え込んでる照井を見て手の動きを止めて話しかける真倉に刃野はやりながらそう言う。

照井の考え事は井坂に関してである。

井坂は照井にとっては両親と妹の仇である。

だが…照井は悩んでいた。

第7話での井坂が華を助けるのを手伝って欲しいと言う頼みに照井は激怒しかけたが…

井坂『虫が良いのは分かってる…だがこの通りだ!!』

土下座をしてまで頼み込む井坂に翔太郎達と出会う前の自分だったから絶対に断っていただろうと照井はそう思った後に目を瞑る。

照井「俺は…」

それ故に照井は悩み、葛藤していた。

自分の家族を殺した井坂をこのまま倒して良いかと言つのを…

その頃、翔太郎は依頼を終えての帰りであった。

あの後、文と克己と共に風都に戻り、NEVERのメンバーと出会った後、ちよつとした交流の後に克己達はマリアの名でちよつとした良い家を拠点にしている。

翔太郎「たくつ…猫探しはつらいもんだぜ…と言つかハードボイルド探偵の受ける依頼じゃないのにあいつは…」

頭を掻きながらさつき届けた猫の依頼を受けた亜樹子を思い浮かべて歩く翔太郎だったが角から走って来た少女にぶつかる。

翔太郎「おっと、大丈夫か？」

翔太郎はよろける程度だったが少女は尻餅を付いてしまい、それに翔太郎は安否を聞く。

その問いに縦ロール髪の幼い容姿の少女は答えずに何かに怯えていて翔太郎に抱き付く。

翔太郎「おっ、おい、大丈夫か？親はどこにいるんだ？届けてやるよ」

それに翔太郎は驚いた後に宥めてからそう聞く。

幾分か落ち着いた後に少女は首を横に振る。

翔太郎「いないのか…悪かったな…」

翔太郎は親はもういないと判断して謝ると少女は挙動不審で周りを見ている事に気づく。

翔太郎「（…誰かに狙われてるのか…離れた方が良いな…）」

その様子に翔太郎はそう判断した後、少女を抱えて其の場を去る。

???「逃げられたか…しかも厄介な相手に見つかったか…」

走り去る翔太郎の背中を見て男は悪態を付く。

別の場所で…

井坂「……………」

椅子に座り井坂は膝に肘を置いて腕を組み、物思いに深けていた。

彼がそうなっている原因は華と再会したからである。

それにより彼は医者になった時の事を思い出したのだ。

井坂「（私は…人の命を救いたい為に医者になった…なのに何時の間にか自分が何者であるかと言う疑問を考え、その間にメモリに魅入られ、やってしまった…）」

華とあつた事で自分の本来の目標を外れ、今、こうして苦悩している井坂を通りかかった冴子は不安げな顔で見ている。

翔太郎「玉藻前？」

一方、少女を保護し、事務所に連れて来た翔太郎は一度はそれにメンバーが驚いて一斉に翔太郎に近寄り、後から来たくえすと各務森姉妹が少女に驚いて言った名前を翔太郎は呟く。

くえす「しよつ、翔君、その妖をどこで拾ったんですか？」

翔太郎「何かに怯えて逃げてる時に俺とぶつかったんだ」

飛白「逃げた？」

飛鈴「三大妖怪と言われてる九尾の狐ですよ！それが逃げるなんてありえませんか！」

亜樹子「九尾の狐？」

霧彦「ふむ……」

慌てて聞くくえすの問いに答えた翔太郎の言葉にありえないと各務森姉妹は顔で表している、飛鈴の言った事に亜樹子と翔太郎、フィリップ、霧彦が浮かべたのは……

????『ちええええええええええん!!!』

自分の猫の式に溺愛している紫の九尾の式である。

翔太郎「何か…普通だな」

亜樹子「そつだね」

フィリップ「普通過ぎる」

霧彦「普通の女の子だね」

くえす「翔君に所長にフィリップに園咲 霧彦！その反応はおかしいですわ！！！」

緋鞠「そつじゃぞ若殿！！普通に三大妖は強大なんじゃぞ！！！」

静水久「…お前たちの反応薄すぎるの…！」

飛鈴「どう言う神経してるんですか…！」

少女を見る翔太郎と亜樹子、フィリップ、霧彦の反応にくえすと緋鞠はツツコミ、静水久と飛鈴は呆れた顔で言う。

翔太郎「そう言われてもな…！」

亜樹子「そつだよね…！」

フィリップ「検索済みで興味ない」

霧彦「と言うかこの子が別にどうって事ないでしょ」

明夏羽「あんた等…別の意味で大物だね。」

沙砂「大物〜」

ソフィア「何があつたらそう言う反応になるか我も気になるぞ。」

4人の反応に困った顔をする翔太郎と亜樹子、霧彦に本を捲るフィリップを見て明夏羽とソフィアはそう言い、沙砂は笑顔で言う。

翔太郎「まあ、その話は後だ…君の名前は？」

少女「タマ」……………タマ……………」

翔太郎が少女、タマという頃、照井はある場所、自分がシュクラウドと出会った所に来ていた。

照井「シュクラウド！いるなら出て来い！」

周りに聞こえる様に叫ぶ照井に答える様にシュクラウドが現れた。

シュクラウド「何の様、照井 竜？」

照井「俺は力がほしい。守る為に強い力が！」

シュクラウドの問いに照井はそう言う。

シュクラウド「あなたは復讐の為に仮面ライダーになつたんじゃない

のかしら？」

照井「確かに最初はそうだった…今は憎しみのまま、井坂を…ウエザーを倒して良いのかに悩んでいる…だが、それ以前に今の俺は風都を守るライダーだ…俺は守りたいんだ」

自分と会った時の照井の事を言うシユラウドに照井は最初にそう言い、顔を伏せたが後半、顔を上げて強い意志を秘めて言う。

それにシユラウドは懐からある物を取り出して照井に投げる。

照井「これは…新たなガイアメモリ！」

シユラウド「『トリアルメモリ』。それを使えば、全てを振り切る速さを手に入れられる」

渡されたガイアメモリ、トリアルメモリを見て驚く照井にシユラウドはそう言う。

シユラウド「けれど、あなたは使いこなせるかしら？」

照井「……使いこなして見せる！所長や仲間たちを守る為に！」

そう照井が決意している頃、探偵事務所で…

タマ「甘い…」

亜樹子「それは良かった…もう1個いる？」

タマ「」

さっきまで怯えるタマに亜樹子はお菓子を上げたら落ち着き、今では笑顔で食べていた。

翔太郎の膝に座ってるので緋鞠達が恨めしい顔で見ている。

くえす「さて、そろそろ落ち着いた所で本題に入りましょう」

亜樹子「本題って？」

恨めしい顔で見えていたが咳払いした後にくえすはそう言い、その言葉に亜樹子は言う。

飛白「どうして九尾の狐…タマが逃げたのかでしょ？」

翔太郎「ああ…なあ、何に逃げてたんだ？」

飛白の言葉に翔太郎は納得してそう聞くと…

タマはまた震え、翔太郎の服を掴む。

タマ「あれは…妖じゃない…別の怪物…」

翔太郎「怪物？」

プププ…プププ…

思い出して言うタマの言葉に翔太郎は眉を潜めたとたんにスタッグ

フォンから着信の音が鳴る。

翔太郎「はい？克己か？……分かった！今行く！！」

亜樹子「ドーパントが現れたの？」

出た翔太郎が短く答えた後に亜樹子がそう聞く。

翔太郎「ああ、しかも、妖のドーパントだ」

エターナル「ふん！」

一方、通話を終えたエターナルは目の前の妖ドーパントと戦っていた。

その妖ドーパントはユートピアドーパントを鎧にしたのを鬼が纏った感じの妖ドーパント、ユートピアドーパント・オーガであった。

エターナル「（何だこいつは？前と違ってるぞ……）」

戦いながらエターナルは目の前のユートピアDOに眉を潜める。

以前、克己は紫と会う前にエターナルに初変身した際に目の前と姿が違うユートピアドーパントと戦った事がある。

その際、克己はその変身者を倒したのだ。

京水「克己ちゃん！」

距離を取ったエターナルの所に他のNEVERのメンバーが来た後、レイカはロストドライバーを装着し、他の3人もそれぞれ紫に渡された物を取り出す。

ファイアーメモリ「ファイアー！」

レイカ「変身！」

スイッチを押し、レイカはロストドライバーに装填すると展開する。

ロストドライバー「ファイアー！」

音声と共にレイカを炎の球体が包み込み、晴れると共にレイカの姿は顔と腰を除いて体は史実でのヒートドールパントで顔はジョーカーの目をヒートドールパントの目と合わせてオレンジにして顔は真紅に染めた『仮面ライダーファイアー』に変身した。

ガンナーメモリ「ガンナー！」

賢「変身……」

スイッチを押し、賢はガンナーマグナムに装填した後に銃身をWのトリガーマグナムのマキシマムモードの様に變形させる。

ガンナーマグナム「ガンナー！」

音声の後に右腕から賢の姿は変わって行き、姿は顔と腰を除いて史実でのトリガードールパントの右腕の先の銃を無くして左腕の先と同じにし、腰にマキシマムスロットを備えた青い『マキシマムベル

ト』を装着し、顔はアクセルにトリガードーパントの顔の形を混ぜて青く染めた『仮面ライダーガンナー』に変身した。

アイアンメモリ「アイアン！」

剛三「変身ー！」

スイッチを押し、アイアンシャフトの真ん中にあるスロットに装填する。

アイアンシャフト「アイアン！」

音声の後に剛三を鋼鉄の球体が包み、壊れると中から腰に鋼鉄のマキシマムベルトを装着し、体は史実でのメタルドーパントで顔はAの文字が入り、目がWと同じ位に大きくなった両目のあるメタルドーパントとなった『仮面ライダーアイアン』に変身した。

ウィップ「ウィップ！」

京水「華麗に変身」

スイッチを押し、1回転した後にルナウィップの底を開いてそこにウィップメモリを装填して閉める。

ルナウィップ「ウィップ！」

音声の後に京水の体を光が包み、それが収まると顔と腕を除き、装飾を取り外した史実でのルナドーパントだが女性のスタイルで、腰に黄色のマキシマムベルトを装着し、腕は黄色に染めたWのと同じ腕、顔はWの目の色が黄色で顔は黒く染めた『仮面ライダーウィッ

プ』に変身した。

ファイアー「熱く行かせて貰うわよ」

ガンナー「ゲームスタート」

アイアン「行くぜ！」

ウィップ「絞めてあげるわ」

4人はそれぞれ言った後に駆け出す。

ユートピアDO「多勢に無勢、ならばこちらも手数を増やそう」

それを見てユートピアDOは左手でマスカレイドメモリを取り出すと右手にエネルギーの球体を作り出し、それにマスカレイドメモリを入れる。

マスカレイドメモリ「マスカレイド！」

音声の後に球体から数体のマスカレイドドーパントが現れる。

ウィップ「うそっ!？」

アイアン「どうなってるんだ!？」

その光景にウィップとアイアンは驚いた後に襲い掛かるマスカレイドドーパントを殲滅にかかる。

エターナル「貴様?何者だ?」

ユートピアD.O.「悪いですがそう簡単に名乗りませんよ」

警戒して聞くエターナルにユートピアD.O.はそう言うともまた新たなメモリを取り出す。

メモリ「ケツアルコアトルス！」

音声の後にユートピアD.O.は自分にケツアルコアトルスメモリを差し込むと背中に炎の翼が現れ、さらに鳥を模した鎧が装着される。

エターナル「メモリの同時使用だと!?!」

それにエターナルは驚く。

普通、ミュージアム製のメモリは一度に同時使用された前例はない。したとしても普通なら2つのメモリの力が暴走し、死にいたる危険性を持つてるのだ。

ユートピアD.O.「ふふふ、人間ならともかく私は暴走などさせませんよ」

エターナル「?どう言う事だ?」

翔太郎「克己!」

ユートピアD.O.の言葉にエターナルが疑問に思った瞬間に翔太郎達が来る。

霧彦「まさかまた、妖のなるドーパントと戦うことになるとはね…」

翔太郎「まったくだな…」

ユートピアDDOを見て霧彦と翔太郎が言ってる間、ユートピアDDOは緋鞠の安綱を見る。

ユートピアDDO「それは！忌々しい刀！」

静水久「忌々しい？」

明夏羽「どう言う事だい？」

沙砂「？」

憎憎しげに言うユートピアDDOに静水久と明夏羽が代表で疑問を言う。と鬼斬り役であるくえすと飛白は気づく。

くえす「成る程…あのドーパントになっているのは酒呑童子ですわ」

飛白「忌々しいって言うからにはそうね」

翔太郎「酒呑童子？」

文「九尾の狐と同じ3大妖の1体です…ですがあんな姿は見たことありません…」

くえすと飛白の言葉に翔太郎の疑問の呟きに文が答える。

霧彦「妖がガイアメモリを使えばその姿にメモリの力が付加される

からね：鬼だからああ言う風になってるのか…」

エターナル「だが、奴は2つのメモリを同時に使用している」

翔太郎「マジかよ!？」

霧彦は前半そう言った後に後半はユートピアD0を見て納得し、エターナルの言葉に翔太郎は驚くとそこにアクセルに変身した照井がバイクフォームで来る。

翔太郎「照井!」

亜樹子「竜君!」

くえす「どこに行っていたんですの!」

バイクモードから戻るアクセルにくえすがそう聞くが答えずにアクセルはユートピアD0を見ながらトリアルメモリを取り出す。

アクセル「全て…振り切るぜ!」

トリアルメモリ「トリアル!」

アクセルメモリを抜いた後にアクセルはトリアルメモリをアクセルドライバーに装填してスロットルを捻る。

アクセルドライバー「トリアル!」

音声の後とレースでのカウントダウンの合図音と共にアクセルの姿は赤から黄色となった後に青になると下半身から上半身に向かって

外装が剥がれる様に姿を変えた。

軽量された青いボディにオレンジの複眼、素早さに特化したアクセルの強化形態『仮面ライダーアクセルトリアル』に強化変身した。

翔太郎「照井、その姿は…」

アクセルT「俺の新しい力でシュラウドから手に入れた。慣れるのに時間がかかったがな」

翔太郎「成る程…んじゃあ俺たちも行くか！」

翔太郎の言葉にアクセルTはそう答え、それに翔太郎は納得した後、にドライバーを装着、明夏羽と霧彦も自分のドライバーを装着する。

デステイニーメモリ『デステイニー！』

ストロングメモリ「ストロング！」

アームメモリ「アーム」

ナスカメモリ「ナスカ！」

翔太郎&フィリップ「変身！！」

明夏羽「へ〜んしん！！」

霧彦「変身！」

ダブルドライバー「デステイニー！ストロング！！」

トロストドライバー「アーム!!」

ナスカドライバー「ナスカ!!」

明夏羽と霧彦はアームとナスカに変身し、翔太郎は姿は右はヒートより赤いデステイニーサイド、左がストロングサイトになった『仮面ライダーWデステイニーストロング』へと変身した。

WDS「はっ!!」

駆け出し、マスカレイドドーパントに掌底する事でストロングフィストから衝撃が放たれ、マスカレイドドーパントを吹き飛ばし、他のマスカレイドドーパントを巻き込んで倒れる。

アクセルT「行くぞ!!」

そう言うと同時にトライアルメモリをドライバーから外し、マキシマムスイッチを押すと上へ放り投げ、ユートピアDOに音速を超える速さで駆け出した後に素早い速さでキックのラッシュ『マシンガンスパイク』を炸裂させる。

そして最後の蹴りを入れた後に背を向けてトライアルメモリを掴む。

トライアル「トライアル!マキシマムドライブ!!」

アクセルT「9.8秒、これがお前の、絶望までのタイムだ」

ユートピアDO「ぐおおおおおおお!!……!!」

宣言すると共にアクセルTの後ろでユートピアDOは爆発した。

その瞬間…

アクセルT「ぐあっ!?!」

背中から来た衝撃にアクセルTは吹き飛び、変身が解ける。

WDS（翔太郎）「照井!?!」

亜樹子「竜君!?!」

それにマスカレイドドーパントを倒していたWDSと亜樹子は驚く。

呻く照井の後ろの爆風からユートピアDOが出てくる。

飛鈴「うそっ!?!」

ソフィア「何で!?!確かメモリブレイクされたよね?」

くえす「私に質問しないでくださいまし!」

リズリット「けど、鳥のが無くなってますよ」

現れたユートピアDOに3人が驚くとリズリットが気づいた事を言う。

ユートピアDO「やれやれ、せっかく手に入れたメモリが台無しだ」

そう言ってユートピアDOは右手にある壊れたケツァコアトルスメ

モリを見てそう言っつ。

フィリップ
WDS「別に使用してたメモリを盾にしたのか!？」

エターナル「そうらしいな」

ナスカ「馬鹿な!？」

ユートピアDO「人間が、私を舐めないで貰おうか。このメモリや様々なメモリを使い、俺はお前達人間に復讐する!」

照井「っ!」

驚くWDSとナスカにユートピアDOが言った言葉が照井に突き刺さる。

ユートピアDOの言った事は照井にとって、此処に来た当初の自分を思い出させる言葉であった。

ユートピアDO「まずはその女からだ!」

そんな照井を気にせずそう言っつてユートピアDOは飛鈴とリズリツトと共に離れていた亜樹子に向かって雷を放つ。

亜樹子「うえっ!？」

WDS（翔太郎）「逃げる亜樹子!！」

照井「所長!！」

驚く亜樹子に2人はそう言うが避けられる速さではなかった。

リズリットが前に出て自分がと盾になろうとした時…

ウエザー「ぐわあああああああ！！！！」

一同「！」

それより前にウエザーが前に立ち、亜樹子達を庇う。

誰もが驚く中、ウエザーの姿は井坂に戻り…倒れる。

亜樹子「何で？」

照井「井坂…なぜお前にとって敵である所長を庇ったんだ？」

呆然とする亜樹子と立ち上がってよろよろと近寄り、膝を付いた後に照井は聞く。

井坂「私も人間だったと言う事ですよ照井 竜…ぐがっ！？」

そう答えた後、井坂は声を上げると全身にコネクタが出現する。

華「何だ！？」

くえす「これは一体…」

フィリップ
WDS「どうやら今の攻撃でガイアメモリの過剰摂取や改造メモリの使用などによるデータコンフリクトが起こった様だ…簡単に言うなら今までの反動が来たと言う訳だ」

それに驚く華やくえす達にフィリップはそう言う。

井坂「今まで沢山の命を奪って行った私に相応しい終わり方でしよう…照井 竜…すまなかつ…た…」

苦笑した顔でそう言って照井に謝ると井坂はコネクタに蝕まれて肉体組織が分解され消滅した。

その場には、ウエザーメモリしかなかった。

WDS（翔太郎）「……悪魔だった男の最後だな……」

華「先生……」

ユートピアDO「ふん！茶番は終わりか？」

照井「茶番だと？」

ウエザーメモリを拾って咳くWDSの隣で華は手を合わせると見ていたユートピアDOは鼻で笑った事に照井は立ち上がるとユートピアDOを睨む。

照井「俺にとって、奴は俺の両親と妹の仇だった…お前の様に憎しみて倒そうと思っていた…だが、それが間違いだと気づいた。憎しみのままに戦っても誰も報われる訳がないからだ…さっきの井坂の事を侮辱するなら許さん！！」

WDS（翔太郎）「照井の言う通りだ。てめえは妖でもドーパントでもねえ…それを超えた悪魔で超えちゃいけねえ一線を超えたバカ

だ！」

照井の後にWDSは横に立って叫ぶ。

そして2人、いや3人はユートピアDOを指す。

WDS&照井「さあ、お前の罪を数えろ！！」

そう言った瞬間、WDSのウェザーメモリを持っていた左手が輝きだす。

WDS（翔太郎）「なっ！？何だ！？」

くえす「これはまさか…」

緋鞠「光渡し！？」

驚く翔太郎にくえすと緋鞠はその現象にそう言う。

そして収まった後には…翔太郎達が持つ純正メモリと同じ形に変わったウェザーメモリがあった。

フィリップ
WDS「メモリが純正型に！？」

ナスカ「なんと！？」

照井「左、そのメモリを！」

驚くフィリップとナスカに驚いていたが照井がそう言ってウェザーメモリを渡す様に言う。

それにWDSは照井に渡した後に照井は再びアクセルに変身し、ウエザーメモリを見る。

アクセル「新たに振り切るぜ！」

ウエザーメモリ「ウエザー！」

そう言うと同時にアクセルメモリを抜き、ウエザーメモリを装填してスロットルを捻る。

アクセルドライバー「ウエザー！」

その音声と共にアクセルの体はウエザードーパントを模した陣羽織型のアーマーへとなった後に色が白となり、複眼が水色に染まった『仮面ライダーアクセルウエザー』へと変わった。

アクセルW「左！これを使え！」

変わった後にアクセルWはWDSにアクセルメモリを投げ渡す。

WDS（翔太郎）「アクセルメモリ！」

フィリップ
WDS「翔太郎！使ってみよう！」

アクセルメモリ「アクセル！」

サイクロンメモリ「サイクロン！」

ああ！と答えた後に両方のメモリを抜いた後にサイクロンメモリと

アクセルメモリを装填して展開する。

ダブルドライバー「サイクロン！アクセル！！」

音声と共に右がサイクロンサイド、左がアクセルサイドで複眼が青になった『仮面ライダーWサイクロンアクセル』にチェンジした後、エクストリームメモリが飛んで来て、2つのメモリを取り込んでダブルドライバーに装填される。

ダブルドライバー「エクストリーム！！」

音声の後にWCAは左側がジョーカーサイドに変わってアクセルサイドの『仮面ライダーW・サイクロンアクセルエクストリーム』に強化変身した。

亜樹子「凄い…」

アクセルW「行くぞ2人共！ツインマキシマムだ！」

WCA「ああ！」

アクセルWの言葉にWCAが答えた後にアクセルWは左のクラッチレバーを引いた後にパワーロットルを捻り、WCAはエクストリームメモリを閉じた後に再び展開する。

アクセルドライバー「ウエザー！マキシマムドライブ！！」

ダブルドライバー「エクストリーム！マキシマムドライブ！！」

音声の後に2人は飛び上がり、アクセルWは『ウエザーグランツァ

ー』を、WCAXは『エクストリームグランツアー』を出して合わせる。

WCAX&アクセルW「ライダー！ツインマキシマムグランツアー
！！」

ユートピアDO「ぐおおおおお！！！！」

同時攻撃にユートピアDOは吹き飛び、爆発する。

ウィップ「やったの！？」

アイアン「やったか！？」

ファイアー「どうなんだろうね」

そこにマスカレイドドーパントを倒し終えたメンバーが集まる。

爆風が収まると、まだユートピアDOは健在していた。

だが、さっきより効いてた様でフラフラしていた。

アーム「まだメモリはブレイクされてないのかい！？」

ガンナー「なんてタフ差なんだ…」

ユートピアDO「ぐがっ…：さっきのは効きましたよ…：流石にこれ以上ブレイクされてはたまらないので此処は引きましょう」

下にメモリブレイクされて落ちたダミーメモリ、ビーストメモリ、

バットメモリを見てそう言つと同時にユートピアD.Oは消えた。

それに怯えていたタマは安堵の息を吐く。

冴子「先生……」

離れた場所で冴子が見ていた事は誰も知らなかった。

翔太郎「（ミュージアム以外に厄介な相手が現れた…大量のメモリを取り込んだ三大妖の酒呑童子…色々と面倒な事が起こるがなんであるうと風都の涙を拭う。それが俺たち、仮面ライダーの役目だ）」

翌日、タイプライターにそう打ち終わると翔太郎はふうと息を付いた後に自分の膝に座るタマを見る。

タマ「」

翔太郎「（やれやれ…それにしても…光渡し…実感は沸かないが爺ちゃんの家系の能力が発動されたい…それによりウエザーメモリを純正型へと変えたが…いまいち何で発動したか分からない）」

お菓子を食べてご機嫌なタマに翔太郎は過振りを振つた後に自分の左手を見る。

その頃、照井は…

照井「……………」

井坂が消滅した場所に花を添えて、手を合わせていた。

そして終えた後にその場を去った。

そんな照井の後姿を後から現れた冴子は見ていた。

第9話 QED

第9話：Rの彼方に / 現れる妖（後書き）

次回の仮面ライダーWは！

「あの人は…」

「その人は？」

「この子は同じ学生の…」

「嶋村 有と言います」

「フィリップ君に春が！」

「私は守りたいんです！」

第10話：Rの恋／竜巻の戦士

これで決まりだ！

NEVERライダーのデータ(前書き)

士「NEVERの4人が変身するライダーの詳細だ」

カズマ「知りたい人は見てね」

NEVERライダーのデータ

仮面ライダーファイアー

変身者：羽原 レイカ

外見：顔と腰を除いて体は史実でのヒートドーパントで顔はジョーカーの目をヒートドーパントの目と合わせてオレンジにして顔は真紅に染めた感じ

概要

レイカがロストドライバーにファイアーメモリを装填する事で変身した姿。

戦闘方法はジョーカーと変わらないがパワーは若干こちらが高く、両腕両足に炎を纏わせて戦うことが出来る。

必殺技はファイアーメモリをマキシマムスロットに装填した後に強力な炎を両腕両足に纏わせた後にキックとパンチのラッシュを与える『ライダーファイアーラッシュ』

ファイアーメモリ

外見：真紅でガイアディスプレイに熱く燃え上がるFが映るガイアメモリ

概要

『火炎の記憶』を内包したガイアメモリ、Wのヒートメモリと同じ様に使う事で火炎攻撃を可能とする。

また、Wとの互換性も可能。

仮面ライダーガンナー

変身者：芦原 賢

外見：顔と腰を除いて史実でのトリガードーパントの右腕の先の

銃を無くして左腕の先と同じにし、腰にマキシマムスロットを備えた青いマキシマムベルトを装着し、顔はアクセルにトリガードーパントの顔の形を混ぜて青く染めた感じ

概要

賢がガンナーマグナムとガンナーメモリを使用して変身した姿。

腰に付けたアタッチメントをガンナーマグナムの先端に取り付ける事で様々な銃での戦い方を可能とする。

必殺技はガンナーマグナムから取り出したガンナーメモリをマキシマムベルトに装填した後に右手にエネルギーを収束させた後にパンチのマシンガンを食らわす『ライダーマシンガンパンチ』とガンナーマグナムを元に戻した後に再度変形させた後にマキシマムドライブした後に連続射撃の嵐を当てる『ガンナーオンパレード』

ガンナーメモリ

外見：青色でガイアディスプレイに複数の銃で表されたGのメモリ

概要

『銃士の記憶』を内包したガイアメモリ、ガンナーマグナムに刺し込む事で仮面ライダーガンナーに変身出来る。

また、Wとの互換性も可能でWが使えばガンナーマグナムを呼び出せる。

ガンナーマグナム

外見：トリガードーマグナムの先端をマシンガンの様にした感じ

概要

賢を仮面ライダーガンナーへ変身させる為の変身アイテム、変身方法はWがボディサイドがトリガードーサイドの際にマキシマムドライブする様にガンナーメモリを装填し銃身をWのトリガードーマグナムのマキシマムモードの様に変形させる事で変身可能となる。
変身しなくても使えるがマシンガンだけしか使えない。

仮面ライダーアイアン

変身者：堂本 剛三

外見：腰に鋼鉄のマキシマムベルトを装着し、体は史実でのメタルドーパントで顔はAの文字が入り、目がWと同じ位に大きくなった両目のあるメタルドーパントとなった感じ

概要

剛三がアイアンシャフトとアイアンメモリを使う事で変身した姿。防御力が高く、相手の攻撃を食らっても動ける程頑丈である。

必殺技はマキシマムベルトにアイアンメモリを入れた後にエネルギーを纏った右腕でリアットする『ライダーリアット』とアイアンシャフトからアイアンメモリを抜いて再度入れてのマキシマムドライブでアイアンシャフトを叩き付ける『アイアンクラッシュ』

アイアンメモリ

外見：銀色でガイアディスプレイに鋼鉄のAが映るガイアメモリ

概要

『鋼鉄の記憶』を内包したメモリ、アイアンシャフトに装填する事で仮面ライダーアイアンに変身出来る。

また、Wとの互換性も可能でWが使用すればアイアンシャフトが出る。

アイアンシャフト

外見：メタルシャフトを全て銀色で統一した感じ

概要

剛三を仮面ライダーアイアンに変身させるの変身アイテム、変身方法はアイアンシャフトの真ん中にあるスロットに装填する事で変身する。

変身しなくても使える。

仮面ライダーウィップ

変身者：泉 京水

外見：顔と腕を除き、装飾を取り外した史実でのルナドーパントだが女性のスタイルで、腰に黄色のマキシマムベルトを装着し、腕は黄色に染めたWのと同じ腕、顔はWの目の色が黄色で顔は黒く染めた感じ

概要

女になった京水がルナウィップとウィップメモリを使う事で変身した姿。

鞭を振り回しての攻撃や相手を捕まえて投げ回すなどの戦いが得意。必殺技はウィップメモリをマキシマムベルトに装填した後に両腕に出たエネルギーの鞭を振り回して攻撃する『ライダーウィップ』とルナウィップの底のボタンを2回押してマキシマムドライブした後に相手をルナウィップで捕まえて上へ放り投げた後に連続で攻撃する『ウィップストーム』

ウィップメモリ

外見：黄色でガイアディスプレイに鞭で表されたUのメモリ

概要

『調教師の記憶』が内包したメモリ。ルナウィップに使う事で仮面ライダーウィップに変身する。

また、Wとの互換性も可能でWが使用すればルナウィップが出て来る。

ルナウィップ

外見：黄色の鞭がない鞭のスティック部分

概要

京水を仮面ライダーウィップに変身させるの変身アイテム、変身方

法はルナウィップの底を開いてそこにウィップメモリを装填して閉める事で変身する。
変身すれば先端からエネルギー状の鞭が出て来る。

女版 泉 京水

外見：黒髪の背中まで来る髪に綺麗な顔（詳しく言うなら緋鞠とくえすを混ぜた感じ）

概要

京水が紫により女性にされた姿。

本人はあんまり気にしておらず、逆に回りを気にせずに克己にアタック出来る事で喜んでいる。

NEVERライダーのデータ（後書き）

士「以上がNEVERライダーの詳細＋だ」

カズマ「ウィップは調教師なんですね」

士「まあ、鞭で思い付くので先に調教師が出たんだよな…京水もそんな感じだし」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1102w/>

仮面ライダーW～妖と探偵と鬼斬り役～

2011年11月24日14時46分発行